



GN-003

GUNDAM KYRIOS
ガンダムキュリオス

MS・キャラクター・ヒストリー ―― 全ガンダムシリーズの完全記録

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

THE OFFICIAL

GUNDAM

PERFECT FILE

定価 590 円
(税込)

2012/7/24

42

MECHANIC FILE

ガンダムキュリオス
ブトレマイオス
アルヴァトーレ
ベルガ・ダラス
デナン・タイプMS
マニピュレーション装着型ザクII

PERSONAL PROFILE

アレルヤ・ハプティズム
アレハンドロ・コーナー
セシリー・フェアチャイルド
(ベラ・ロナ)
ロナ家の人々

WORLD GUIDE

CBの活動と世界の動向
GN粒子とGNドライブ
ブッホ・コンツェルンと
ロナ家

AD TIMELINE

CB、再降臨

GLOSSARY

『機動戦士Zガンダム』
用語集



アレルヤ・ハプティズム



ブッホ・コンツェルンとロナ家

今週のMS①
GN-003 GUNDAM KYRIOS



DeAGOSTINI

インターネットで
パーツワークをより詳しく deagostini.jp

THE OFFICIAL GUNDAM PERFECT FILE



CONTENTS

第42号 目次



MECHANIC FILE

メカニックファイル

ガンダムキュリオス	00	FILE:01 / SHEET:06A	42-1
ブトレマイオス	00	FILE:01 / SHEET:20B	42-5
アルヴァトーレ	00	FILE:01 / SHEET:32A	42-7
ベルガ・ダラス	F91	FILE:01 / SHEET:09A	42-9
デナン・タイプMS / マニピュレーション装着型ザクII	AGS	FILE:01 / SHEET:54A	42-11

PERSONAL PROFILE

パーソナルプロフィール

アレリヤ・ハプティズム	00	FILE:02 / SHEET:04A	42-13
アレハンドロ・コーナー	00	FILE:02 / SHEET:15A	42-15
セシリー・フェアチャイルド(ベラ・ロナ)	F91	FILE:02 / SHEET:02B	42-17
ロナ家の人々	F91	FILE:02 / SHEET:13A	42-19

WORLD GUIDE

ワールドガイド

CBの活動と世界の動向	00	FILE:03 / SHEET:03A	42-21
GN粒子とGNドライブ	00	FILE:03 / SHEET:21A	42-23
ブッホ・コンツェルンとロナ家	F91	FILE:03 / SHEET:16A	42-27

AD TIMELINE

西暦年表

CB、再降臨	00	FILE:04 / SHEET:06	42-29
--------	----	--------------------	-------

GLOSSARY

ガンダム用語辞典

『機動戦士Zガンダム』用語集	1	FILE:05 / SHEET:12	42-31
----------------	---	--------------------	-------

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』

特製バインダー好評発売中

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は、特製バインダーを使ってファイルリングしていくユニークな雑誌です。この特製バインダーを、全国の書店で販売しております。2冊セットで590円(税込)。ぜひお買い求めください。

※このバインダーには、ディバイダー(仕切り用紙)はついていません。
※前刊プレゼントのバインダーについているディバイダーをご利用ください。
※1冊のバインダーに、本誌約10冊分を綴じることができます。

【発行日】2012年7月24日

【発行】株式会社デアゴスティーニ・ジャパン

〒104-6205 東京都中央区晴海1-8-12 トリオンオフィスタワーZ

【発行人】小河原和世

【編集人】クロス中山慶子

【チーフエディター】安部 翠

【アートディレクター】今福健司

【印刷】大日本印刷株式会社

©2012 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.

本誌の記事・写真・絵画等を無断で複製(コピー)、転載することを禁じます。

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は、2004年に弊社が刊行した週刊『ガンダム・ファクトファイル』の一部を流用しておりますが、最新のシリーズ作品やガンダム関連情報、新規描きおろしイラストなどを多彩に盛り込み製作したビジュアルマガジンです。

【編集協力】MEGALOMANIA(富田英樹/渡邊洋三/高村泰稔/
本田あきら/鈴木秀治/公森直樹/桑木貴章)

【執筆】坂口徳仁/杉山和繁

【デザイン】ケーケルデザインワークス(中村亮平/萩口洋文/
出嶋 勉/生馬沙知子/富岡哲也/及川深紗子)

【表紙イラスト】中谷誠一

【監修】株式会社サンライズ

©創通・サンライズ

©創通・サンライズ・MBS

●読者サービスセンター

(本誌関連の一般的なご質問を承ります)

TEL: 0570-008-109(月~金 10:00~18:00 土日祝を除く)

定期購読のご案内

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は毎週火曜日発売のマガジンシリーズです(一部地域を除く)。シリーズは全180号を予定しています。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄りの書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての直接定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者受注センターに電話またはファクスで

TEL: 0120-300-851(フリーダイヤル 9:00~21:00 年末年始を除く)

FAX: 0120-834-353(フリーファクス 24時間受付)

2. インターネット

<http://deagostini.jp/gpf/> (24時間受付)

※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

3. 定期購読申し込み用紙を郵送で

「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合は受注センターまでご連絡ください。

バックナンバー／バインダー注文のご案内

本誌のバックナンバー／バインダーは最寄りの書店でご注文ください。なお、バックナンバーの在庫数には限りがございますので、その旨ご了承ください。直送(別途送料、代引き)のご注文も承っております。上記読者受注センターまでお問い合わせください。

【個人情報保護の取扱いについて】※注意 お申し込み前に下記規約をお読みください。 1. 弊社は、商品発送と連絡、商品開発のためのデータの集約と分析、プレゼント発送、商品価格のお知らせや質問への回答、不用品回収の機会とお客様の意見の収集及び取組の促進、以外の目的で個人情報を利用しません。 2. 弊社はお客様に事前にご了承を得た場合、及び下記の場合を除き、第三者に個人情報を提供(開示)しません。 (1) 法令に基づき、司法、行政または関係機関から情報開示の要請を受けた場合 (2) クレジットカード決済のため、弊社と同等以上の管理水準を有する会社への提供または委託の場合 (3) 弊社は注文受付、配送、代金回収、カスタマーサービスなど、保有する個人情報を必要範囲で委託することとなります。委託先は契約書により厳密に管理され、業務遂行上必要な個人情報を利用し、それ以外の目的では利用しません。 4. 個人情報の収集に応じたお客様の選択はお客様の任意です。定期購読やプレゼント等の申込書に記入部分がある場合、手紙などがない場合は、それ以外の不利は生じません。 (1) 個人情報 定期購読申込センター 0120-300-851 (2) 個人情報の利用目的の通知 個人情報を開示する開示、訂正・追加・削除、利用停止・消去・第三者への提供の停止、又はお客様の申し出に基づき開示口までご連絡下さい。デアゴスティーニ・ジャパン 個人情報保護担当 電話 03-5333-7722 ※受付時間 10:00~18:00(土日・祝日、弊社休業日を除く)ウェブサイトで個人情報保護の取組を案内しております。 <http://deagostini.jp/privacy/>



本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

<http://deagostini.jp/gpf/>



このパーフェクト・ファイルで扱うガンダムシリーズ

本誌では、映像化された28作品のガンダム・シリーズを中心に扱います。OVAや映画など、異なる形態でリリースされた作品も各シリーズにまとめ、ひとつのシリーズとしてアイコン化しています。また、書籍やゲーム、プラモデルなど、映像化されなかった作品を「AGS」としてまとめて取り扱います。

■宇宙世紀を舞台にしたシリーズ

- F6 機動戦士ガンダム
- 08 機動戦士ガンダム 第08MS小隊
- IGL 機動戦士ガンダム MS IGL00 1年戦争秘録、黙示録0079
- IGL2 機動戦士ガンダム MS IGL002 重力戦線
- CC GUNDAM CRISIS
- RIDE GUNDAM THE RIDE
- 80 機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争

- 83 機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー
- Z 機動戦士Zガンダム
- GD ガンダム新体験 -0087- GREEN DIVERS
- ZZ 機動戦士ガンダムZZ
- CCA 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア
- UC 機動戦士ガンダムUC
- F91 機動戦士ガンダムF91
- V 機動戦士Vガンダム

■宇宙世紀とは別の世界を舞台にしたシリーズ

- GG 機動武闘伝Gガンダム
- W 新機動戦記ガンダムW
- EW 新機動戦記ガンダムW Endless Waltz
- X 機動新世紀ガンダムX
- V ヴガンダム
- SEED 機動戦士ガンダムSEED
- DES 機動戦士ガンダムSEED DESTINY
- SG 機動戦士ガンダムSEED C.E.73 STARGAZER
- 00 機動戦士ガンダム00
- AGE 機動戦士ガンダムAGE
- その他の作品 AGS 非映像化作品 ※AGSは「ANOTHER GUNDAM STORY」の略です。
- RG Ring of Gundam
- EVL GUNDAM EVOLVE

GN-003

ガンダムキュリオス

GUNDAM KYRIOS



SPEC

全高	— (機体高 18.8m)
重量	54.8t
推進力	GNビームサブマシンガン / GNビームサーベルX2 / GNシールド / フロント・サイルユニットx2 / テールユニット
機体材質	Eカーボン
武装	GNビームサブマシンガン / GNビームサーベルX2 / GNシールド / フロント・サイルユニットx2 / テールユニット
所属	リベラ・ハイパースペース
搭乗者	アレクセイ・ハブディズム

COMPARISON CHART

機体	カラー
GN-003	オレンジ
GN-001	黒
GN-002	白
GN-003	白
GN-004	黒
GN-005	白
GN-006	黒
GN-007	白
GN-008	黒
GN-009	白
GN-010	黒

腕部

腕には各ガンダム共通の仕様であるGN粒子コンデンサを備える。またハードポイントも設けており、そこにGNビームサブマシンガンとGNシールドをマウントできる。

後部

飛行形態時の補助ユニットとスタビライザーは、背中側に折り畳まれて配される。このため後部のGNドライブのコーンは他のガンダムよりも先鋭化しており、平らな形状を持つ。

脚部

変形後の飛行形態を考慮し、他のガンダムとは異なり脚部の外側にメインスラスターを配置している珍しい構造を有す。膝に備わるブレード状のパーツは、飛行形態の際に安定翼として機能するようにしている。

完成された可変機構を実現した第三世代ガンダム

GN-003 ガンダムキュリオスは、第三世代ガンダムの中でも一線を画した機動性を持つに至った。これは飛行形態に変形する可変機構を備えていたからである。

西暦2307年当時、ユニオン製MSであるSVMS-01 ユニオンフラッグだけが、MS形態から飛行形態への可変機構を備えていた。それ以前はVMS-15 ユニオンリアルドやAEU-05 AEUヘリオンが飛行形態を有していたが、専用の設備を用いて初めて別形態へ換装できる、コンバーチブル仕様というだけであった。ただしユニオンフラッグの「変形」も完全ではなく、パイロット

の技量頼り——いわゆるグラハムマニューバと名付けられた「技」の域であり、機構としての変形は確立されていなかった。その一方でキュリオスは完全な可変機構を実現しており、大気圏内外を問わず変形を自在に駆使した戦術行動が可能。三大勢力が運用するMSとは次元の異なる運動性を有す。このため飛行形態による超速度一撃離脱攻撃を得意としつつ、MS形態においても他のガンダムに引けを取らない戦術力を持つ。

第二世代ガンダムのGN-003 ガンダムアプルホールが本機のテストベッドであったという。

関連ファイル

アプルホール	00-01-25
アレクセイ・ハブディズム	00-02-04
西暦のガンダム	00-03-20
GN-003とGN-001	00-03-21
拡張式機体/リベラ・ハイパースペース	00-03-33

FILE PREVIEW

00-02-04 アレクセイ・ハブディズム

ガンダムキュリオスのパイロット。超人機によって生み出された存在で、超常的な能力を持つ。ハブディズムは、GN-003の試作機である。

機体構造 飛行形態を前提とした設計

キュリオスの最大の特徴が飛行形態への変形と言えよう。その可変機構が盛り込まれている分、他のガンダムよりも複雑な構造を持つが、両腕のGN粒子コンデンサやハードポイントをはじめ、各ガンダムと共通の部分は少ない。胴体部にGNドライブとコクピットを有する構造は他のガンダムと同じだが、メインスラスターを両腕に備えることで飛行形態時に後方へと推力を集中し、高速飛行を実現した。このように飛行形態を前提とした配達が機体各所に施されており、本機の可変機構を成立させている設計が随所に見られる。

頭部



「ガンダム・タイプ」を象徴する二重タイプのカマを備えたフェイス部分。V字状のアンテナは機体の形状で、後部には突き出したブレード状のアンテナも備えていることから、高速機動は高いと思われる。

下方図



胴体部、メインスラスターとして用いられるGNバーニアが内蔵されていることが見て取れる。足裏にはスラスターが配され、前部側には他のガンダムと共通である展開式の地面固定スライクを持つ。

コクピット



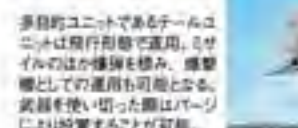
胴体のサイドフレームが左右に開き、機体のバックが下方に展開。機体はコクピットの両脇が広がる形状で、コクピットは他のガンダムとほぼ共通だが、飛行形態を備えたキュリオスの機体高は特長である。

武装 機動性を活かすために施された武装群

4機のガンダムの中でも、キュリオスの武装はGNビームサブマシンガンとGNビームサーベルだけと比較的に少ない。これは可変機構を実用化するうえで機体武装を極力簡化したためであろう。とはいえ、西暦2307年当時の三大勢力製のMSに対しては充分な火力である。また、飛行形態時に外装式のオプションであるテールユニットを用いることで火力を補えるほか、ミッションに即した武装を搭載することで優れた汎用性を獲得している。キュリオスは、本機最大の武器である機動性を損なわないために工夫された武装を持つ。



オプション装備としてバリエーション豊かな武装を装備可能。腕のハードポイントに装備し、飛行形態時にも運用できる。グリップは無段階式であり、射撃時のサイズを内蔵している。



多目的ユニットであるテールユニットは飛行形態で運用。ミサイルのほかに機体補修、機体安定としての運用も可能となる。武器を使い切った際はバリエーションを変更することが可能。

GNビームサブマシンガン

GN粒子を用いたビームを、短い間隔で連続的に射出する。高速移動しながらでも命中精度が高く、連射性を重視した専用の射撃機構。威力は他のガンダムよりも若干劣る。

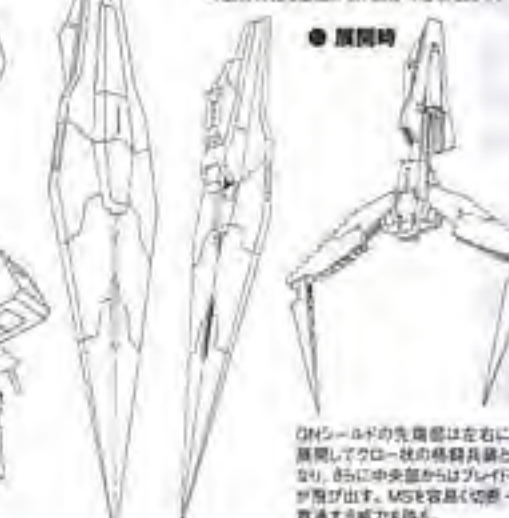


無段階グリップ

グリップは折りたたみ可能な無段階式である。飛行形態時、機体は腕のハードポイントに折り付けられ、グリップを握ったまま無段階操作にて射撃を行う。

GNシールド

Eカーボン素材を用いた変形式の盾。機体のハードポイントに接続され、基部は軌道にスライドする。放物線状の形状であり、飛行形態時の空力特性を考慮して機体の形状を持つ。



展開時

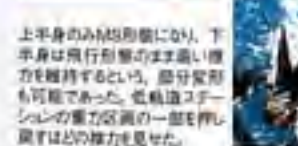
GNシールドの先端部は左右に展開してクロー状の格闘兵器となり、さらに中央部からはブレードが飛び出す。MSを容易に切断・貫通する威力を誇る。

変形 汎用性を備えた飛行形態

飛行形態がキュリオスのもうひとつの姿である。MS形態から飛行形態への可変機構はアプルホールで検証され、さらにはガンダムの特長であるGN粒子を用いた特殊な機体制御も導入し、実現に至った。その機動性は第三世代ガンダム第一を誇る。飛行形態時の運動性もさることながら、その真価はMS形態の枠を超えた運用性と、テールユニットを用いることで生まれる汎用性にある。各形態の使い分けとガスド機構等のオプション装備/換装により、本機はガンダムの中でも様々なミッションに対応できるポテンシャルを持つ。



MS形態に集めて飛行することが可能。機動性を活かして、GN-002 ガンダムデュナースなどのガンダムと「対峙」して運用されることもあり、その汎用性の一端を示した。



上半身のみが飛行形態になり、下半身は飛行形態の足並い進行を維持する。機動性を活かして、GN-002 ガンダムデュナースなどのガンダムと「対峙」して運用されることもあり、その汎用性の一端を示した。

飛行形態



機動性を大幅に向上させる飛行形態。可変機構はシンプルであり、機体武装も変形の際には必ずしも一時的に別形態になる。そのため別形態を使い分けた空中戦が可能となり、テールユニットは機体が高機動に誘導する。

テールブースター

GNキャノン2門と大型のGNバーニア2基を備えた追加装備。国連軍がアプルホールを襲撃した際に運用された。火力と推力が大幅に強化されている。GNキャノンは上下左右に可動する。



CBS-70

プトレマイオス

PTOLEMAEUS



CBの活動拠点となるべく付与された施設群

通常、作戦行動に臨む艦艇が単独行動を行うことは稀である。偵察任務に向かうMSならいざ知らず、100mを超えるサイズを誇る艦艇はレーダーに探知されやすく、航行中に発生する赤外線や電子ノイズもMSの比ではない。しかも一度発見されると機動性に優れたMSを振り切ることは難しく、作戦失敗どころか艦の帰還すら危ぶまれる。だからこそ艦艇は単独行動するべきではなく、隊列を組んで肅々と行動するのが通例なのである。その際、艦隊には旗艦となる戦艦や空母を中心に周辺の警戒を担当するセンシング艦や偵察任務を行うピケット

艦といった各能力に特化した艦艇が配備され、全艦が一丸となって行動する。それは被発見率を抑えるよりも自らの存在と戦力を誇示し、それによって戦闘を回避しようという意図の反映とも言える。だがソレスタルビーイング(CB)は隠密性を最優先事項として行動していたため、艦隊編制は論外だった。そのため1艦に様々な機能を付与し、集団で行動する艦隊に匹敵する能力を発揮させたのである。CB実働部隊プトレマイオス(トレミー)チームの母艦である「プトレマイオス」もこの例に漏れず、各種機能の充実が図られている。

関連ファイル

CBS-74 プトレマイオス2	00-01-21
スメラギ・李・ノリエガ	00-02-06
フェルト・グレイス	00-02-07
ラッセ・アイオン	00-02-08
リヒテンダール・ツエーリ 他	00-02-09
西暦の艦艇	00-03-22
私設武装組織ソレスタル・ビーイング	00-03-33

FILE PREVIEW

00-02-06 スメラギ・李・ノリエガ



CBの実働部隊トレミーチームのリーダーであり、プトレマイオスのキャプテン。優秀な戦術予報士としての実力を発揮し、紛争根絶のための困難なミッションを成功に導いた。

指揮区画

高度演算処理システムのバックアップによって獲得した指揮・管制能力

多くの情報を集積し、その情報を基に的確な判断を下すのは情報戦の基本であり、指揮系統の中核をなす重要なセクションとなる。そのため20~21世紀に建造された海上艦の多くはC.I.C.もしくはC.D.C.と呼ばれる戦闘指揮所を擁し、戦術情報処理や各種データ・リンク、火器管制や戦果評価を統括していた。その反面、C.I.C.の機能停止は艦の戦闘能力が大幅に低下することを意味し、C.I.C.を防御すべく、各艦艇は稠密な隊列を組んで行動したのである。

一方、CBの誇るプトレマイオスにはC.I.C.に相当する施設はなく、情報収集と評価および戦闘指揮はすべて艦橋で行われる。限られた艦内スペースに各種設備を搭載する必要があるプトレマイオスだけに、C.I.C.に割く余剰スペースは用意できなかったのかもしれない。とはいえCBには量子コンピュータ(ヴェーダ)があり、これがC.I.C.の役割を果たしたと思われる。ヴェーダとのリンクによってプトレマイオスは高度な指揮・管制能力を獲得したのである。



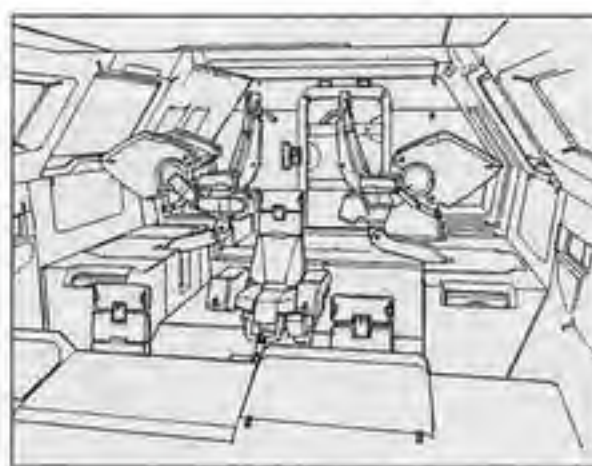
紛争介入の当事者たるプトレマイオスは各種情報の収集および解析、さらに介入行動の作戦立案や指揮管制を行う必要があった。これら多種多様の任務をたった数名の艦橋要員がこなしていたのは驚嘆に値することだ。

艦橋

ヴェーダのバックアップがあるとはいえ、実際に判断し、それを実行に移すのはプトレマイオスの乗組員である。艦橋にはキャプテンを中心に各乗組員の専用シートがコンパクトに配されており、ここで情報分析と作戦指揮が行われる。ガンダムチームが的確な紛争介入を実施するには、艦橋からの指示が不可欠なのだ。さらに艦橋はプトレマイオス自身の運航を司る役割も果たしている。施設自体は小さいものの、その重要度は計り知れないと言えるだろう。



各シートにはタッチパネルとホロスクリンが用意され、必要な情報を任意に引き出すことが可能。さらにヴェーダとのリンクも行うことができる。

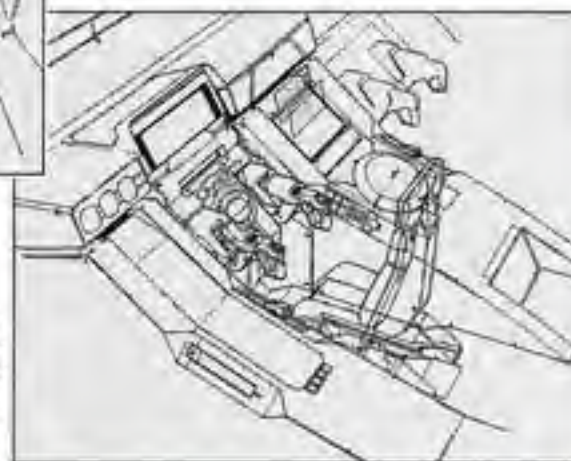


■ キャプテン席／オペレーター席

中央がキャプテン用座席で、その背後に背中合わせになるようにオペレーター席を設置。緊密な情報交換を行えるようになっている。

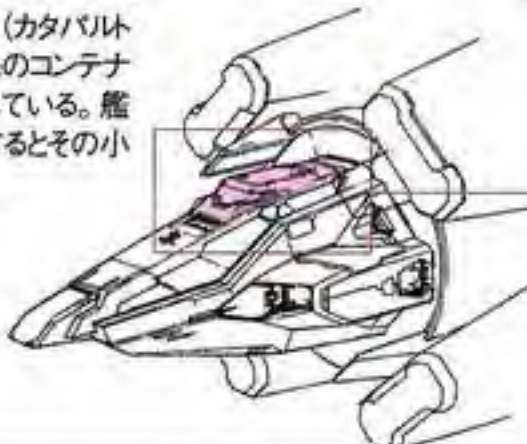
■ 操舵士席

操舵士席は艦橋前部にふたつが並列に並んでいる。基本的に操舵はひとりでも可能なため、艦首に向かって左側シートが主操舵用、右側シートは補佐と管制用に使われたようだ。

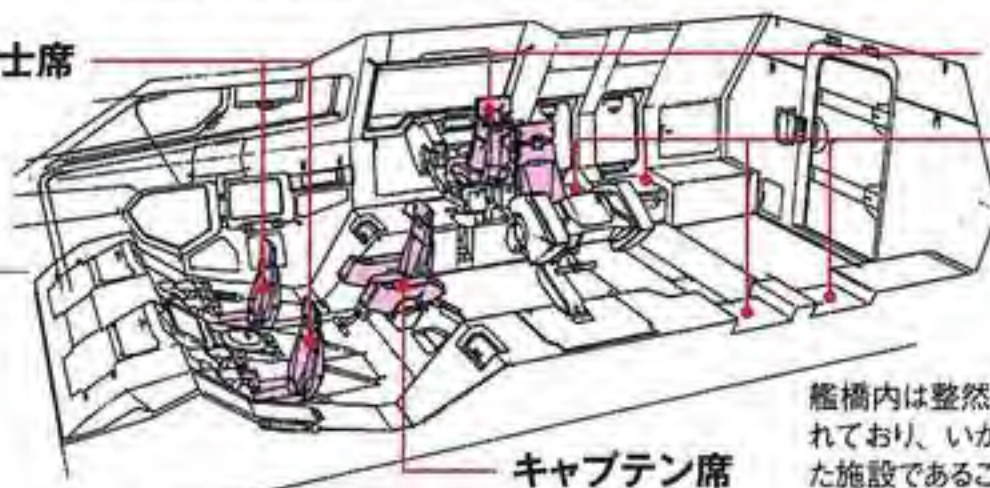


■ 艦橋レイアウト

艦橋は艦首上方(カタパルト射出口の上、2基のコンテナの間)に設置されている。艦体サイズと比較するとその小ささに驚かされる。



操舵士席



オペレーター席

予備シート

キャプテン席

艦橋内は整然としたレイアウトがなされており、いかにも機能性を重視した施設であることが窺える。

MORE INFO!

ヴェーダとのリンク・システム

ヴェーダとの連絡は通常回線を介しても行えるが、脳量子波を使える者(イノベイド)は直接のリンクも可能である。プトレマイオスも専用施設を擁している。膨大な情報を有するヴェーダだけに、短時間での高密度な情報交換にはこのような施設が必要とされたのだろう。

■ システムルーム

ヴェーダとの直接リンクを可能とする専用施設がシステムルームである。ただしトレミーチームの中でこの施設を利用できるのは、ティエリア・アーデひとり、ほぼ彼専用の施設となっていた。

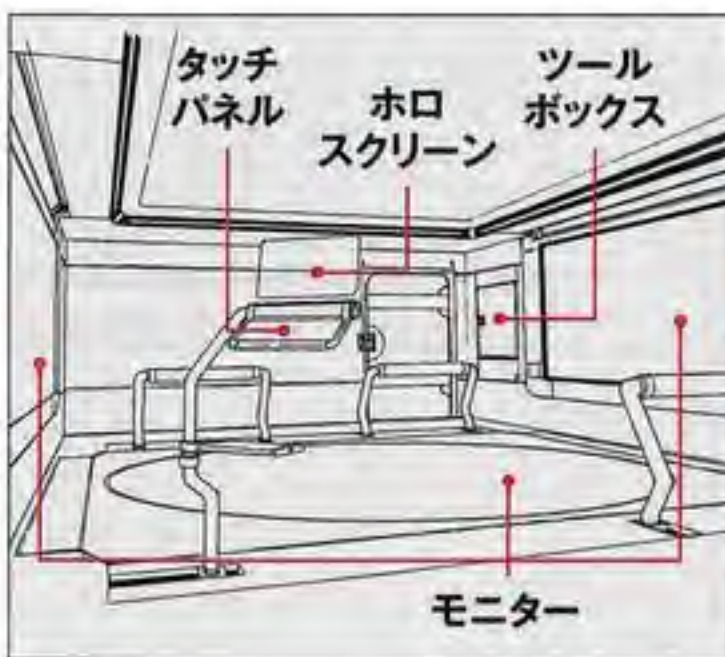


ブリーフィングルーム

直接の作戦指揮は艦橋で行われる一方、事前打ち合わせや内容確認などのミーティングはブリーフィングルームで実施される。その際は乗組員だけでなくガンダムマスターも参加、紛争介入の手順やその是非が協議されるのである。艦橋ほどではないとはいえ、この施設もプトレマイオスの行動を決定する重要なものと言える。



必要な情報は壁面および床面のモニターに投影することができ、作戦内容の確認に利用された。さらに内容の会議の場としても利用されている。



タッチパネル

ホロスクリン

ツールボックス

モニター



主要乗組員とガンダムマスターが集合しても余裕がある程のスペースが確保され、綿密なミーティングが可能である。それだけに行動開始前には作戦会議が持たれることが多かった。

格納／整備区画

ガンダムの運用母艦であり、移動整備工場としての能力を付与する施設群

プトレマイオスは指揮発令所である一方、MS (GNドライブを擁するガンダム) の運用母艦としての一面も有している。隠密活動を前提とするCBだけに活動拠点の設営には制限が多く、MSの整備や補修作業を行う施設の確保が困難だったからだ。比較的、高い隠密性が確保できる小惑星帯や外惑星宙域ならばともかく、三大勢力が支配する地球圏に専用施設の新設が難しいのは火を見るより明らかである。そのため固定施設を秘匿するよりも施設そのものを

移動させるほうが隠密性が確保しやすいと判断され、プトレマイオスにその任が与えられたのである。またプトレマイオスにMS整備施設を設けた場合、整備作業を続けながら作戦宙域に機体を運搬でき、損傷した機体の回収と撤退も容易となる。これら複数の利点を鑑みた結果、プトレマイオスはガンダムの運用母艦となり、専用の整備施設が付与されたのである。実際にこのアイディアは効率的に機能し、ガンダムによる紛争介入のバックアップで効果を挙げた。



CBの理念(全世界の紛争根絶)を達成するにはガンダムの力が必須だが、そのガンダムは兵器であり、整備や補給を欠かすことはできない。だからこそプトレマイオスの整備能力は、指揮管制能力と同等に重要なものなのだ。

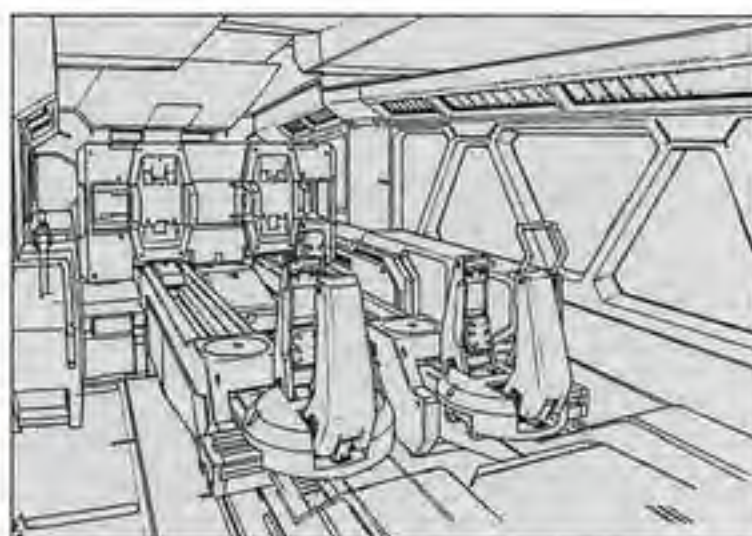
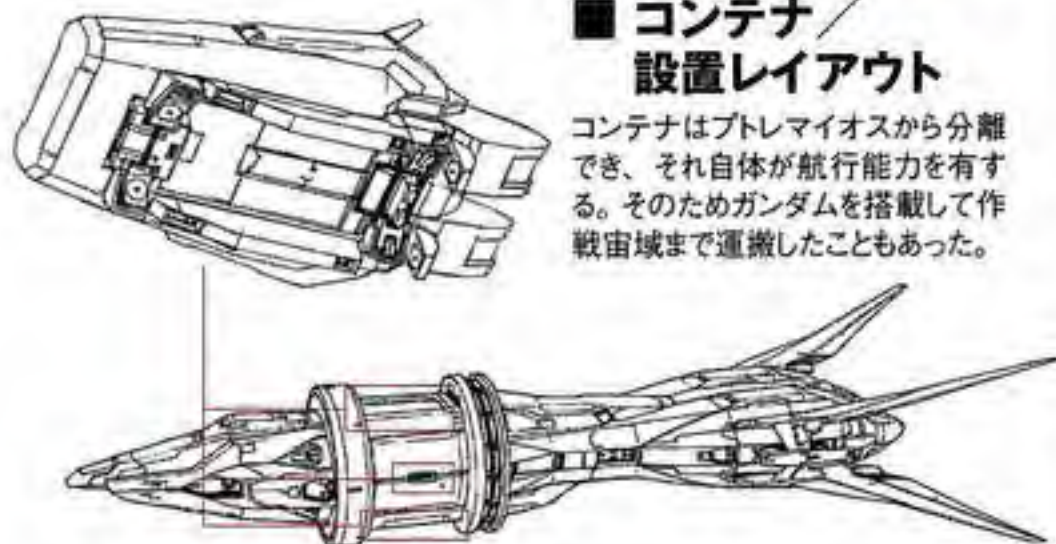
格納庫 (コンテナ)

それぞれのガンダムには専用のコンテナが与えられ、プトレマイオスは計4基の格納庫を有するに至った。これによって各ガンダムは単独もしくは集団での介入行動を実施しやすくなったと思われる。さらに格納庫を独立させることで、整備・補給システムを各ガンダムの機能別に特化させやすくなり、結果として作業時間の短縮と効率化を実現できたのだらう。



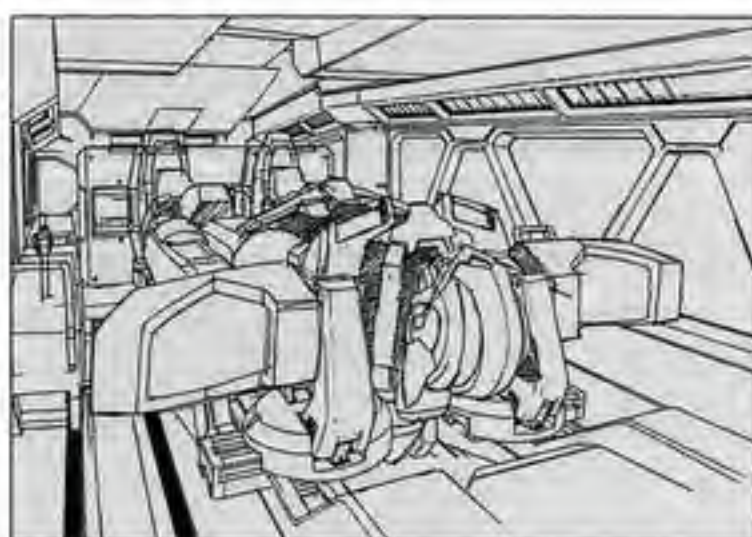
■ コンテナ／設置レイアウト

コンテナはプトレマイオスから分離でき、それ自体が航行能力を有する。そのためガンダムを搭載して作戦宙域まで運搬したこともあった。



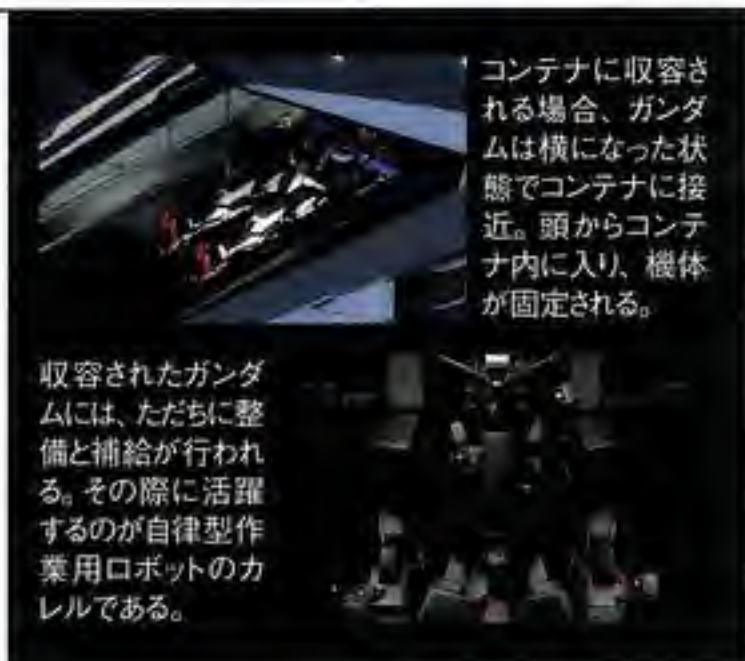
■ コンテナ内格納庫①

コンテナ内には機体固定用のフックが設置されており、整備用機器は壁面内に収納されている。また床面は開閉式になっており、プトレマイオスのカタパルトと直結している。



■ コンテナ内格納庫②

ガンダムを固定すると、それだけでコンテナ内が埋まってしまうのが見取れる。ちなみに整備・補修機器は高度に自動化されており、たとえ少人数でも効率的な作業が可能である。

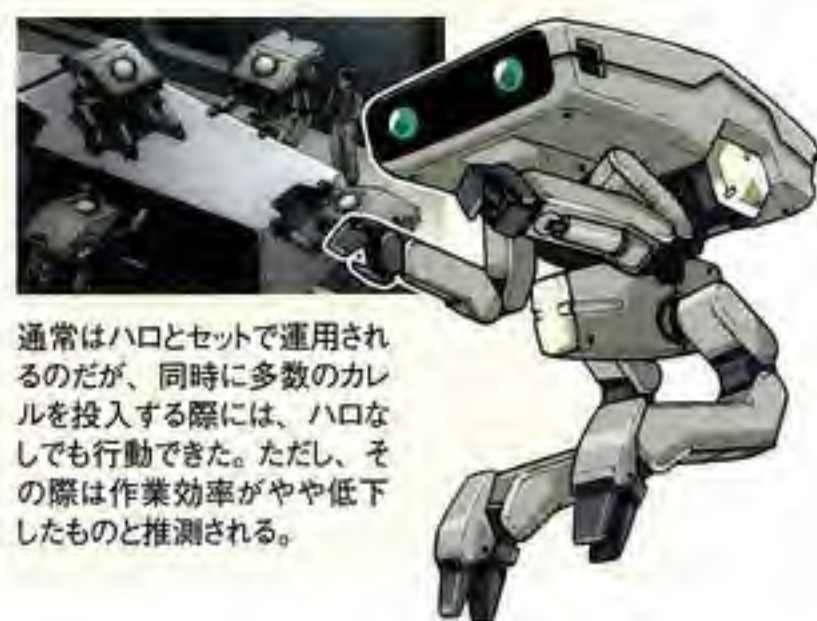


コンテナに収容される場合、ガンダムは横になった状態でコンテナに接近。頭からコンテナ内に入り、機体が固定される。

MORE INFO!

作業用ロボット、カレル

乗組員数が制限されるプトレマイオスにおいて、艦体およびガンダムの整備と補給を担当するのが作業用ロボット、カレルだ。指揮は独立支援AIのハロが担当し、複数のカレルが同時に作業に当たること、短時間で整備と補給が完了する。フレームに達する程の破損には人間の補助が必要だが、通常の作業はカレルだけでも十分に賄うことができる。



通常はハロとセットで運用されるのだが、同時に多数のカレルを投入する際には、ハロなしでも行動できた。ただし、その際は作業効率がやや低下したものと推測される。

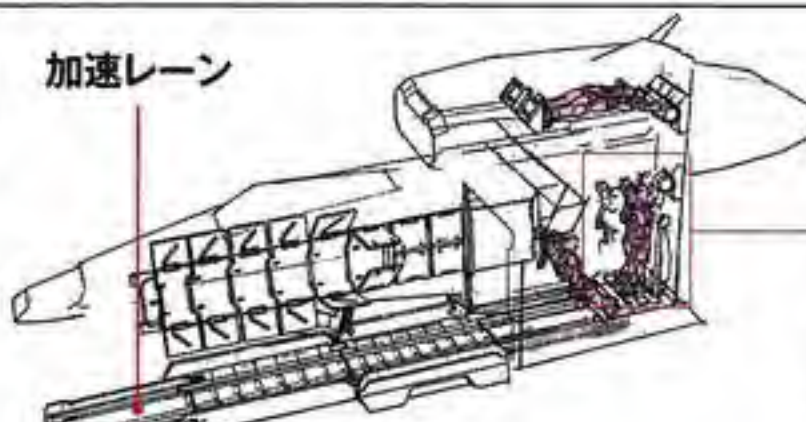
カタパルト

プトレマイオスはガンダムの運用母艦であるため、作戦宙域に接近した際には迅速に機体を展開する必要がある。その際に用いられたのがカタパルトである。艦首に位置するカタパルトは、平時は艦内に収納されているが、作戦実施においては加速レーンを艦外に展開。電磁力を用いた加速を行う。



カタパルトから発進する以外にも、緊急時にはコンテナ・ハッチを開放し、そこから直接発進することもあった。その方が複数のガンダムを同時に発進させられるためである。

加速レーン



■ 発進シーケンス

これは加速レーンを展開した艦首部分を透視した図である。コンテナの床が下方に展開して加速レーンの末尾に接続。機体を加速レーンに接続後、高速で射出するのである。



加速レーン末尾に接続されたガンダム(天井部分のハッチがコンテナに通じている)。この後、機体固定用のフックが外され、加速が行われるのだ。

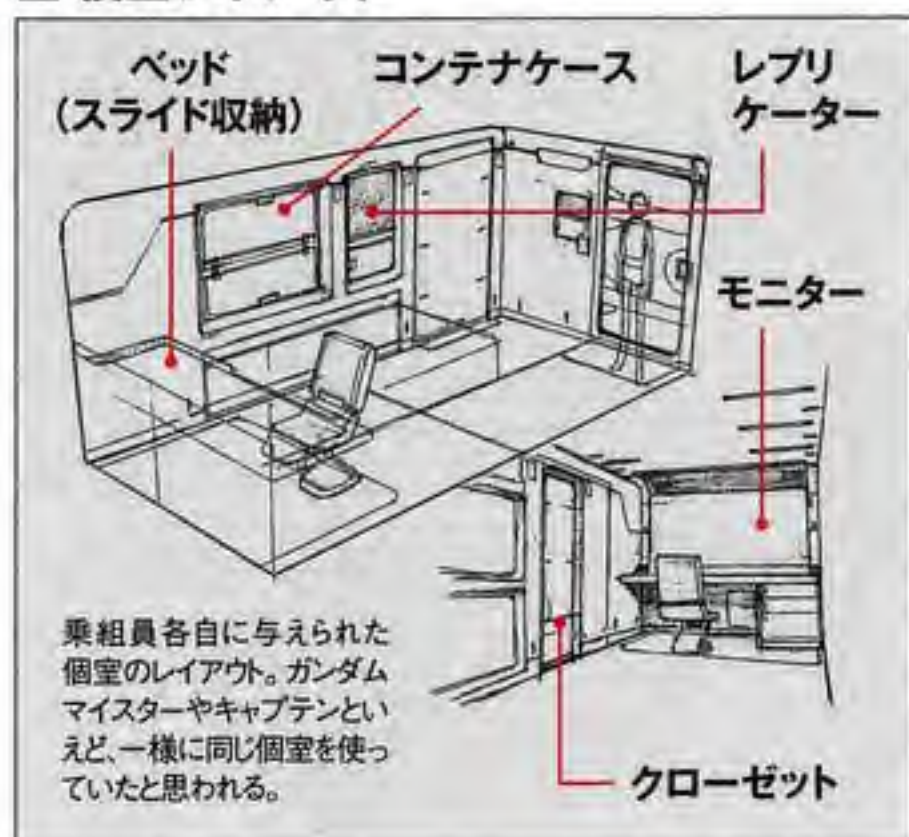
プライベート区画

長期航海にも耐えられるよう考慮された設備

紛争介入に従事するプトレマイオスだが、乗組員にとっては生活の場でもある。そのためプライベート区画は他艦よりも充実しているようだ。介入作戦の内容次第では長期に亘る単独行動を余儀なくされるため、乗組員の肉体

／精神両面に対するケアが考慮されたのだらう。中でも個室は、限られたスペースしかない艦内だけにコンパクトにまとめられているとはいえ、ベッドや収納スペース、情報端末といった設備が置かれ、優れた居住性を有している。

■ 個室レイアウト



乗組員各自に与えられた個室のレイアウト。ガンダムマイスターやキャプテンといえど、一様に同じ個室を使っていたと思われる。



個室のベッドに身を横たえるガンダムマイスターのアレキヤ・ハブティズム。マイスターには休息も大切な任務なのだ。

個室に私物を持ち込む者はあまりいなかったが、スメラギは酒(しかもボトル)を常備。息抜きと称して堪能していた。



舷側部には艦外を一望できる展望室が設けられ、激務が続く乗組員やマイスターの格好の休憩場所となっていた。

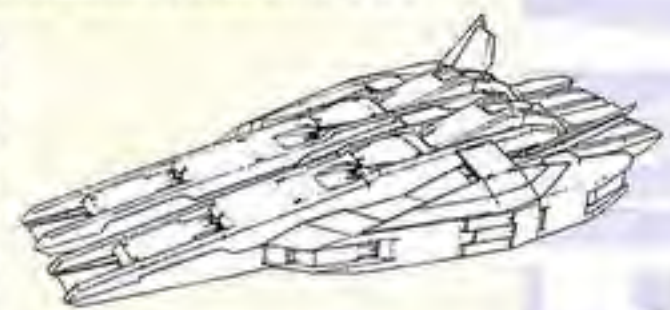
MORE INFO!

強化されたプトレマイオス

各種能力を搭載したプトレマイオスだが火器は用意されておらず、戦闘への参戦はおろか、自艦の防御ができない点が問題視された(それだけ隠密性が重視されていたのだらう)。そのため国連軍との戦闘からは新型装備が配備され、戦闘介入が可能になった。ただしこれらはあくまで追加装備であり、完全に問題点が解消したわけではない。

■ 強襲用コンテナ

通常コンテナの代わりに設置された装備。GNキャノンやGNビーム砲、GNサイルを有するほか、ガンダムやGNアームズを積載しての航行も可能である。



■ GNアームズ

ガンダムの強化装備として開発された。通常は強襲用コンテナの艦尾に格納されているが必要に応じて分離。ガンダムと連携するようになっている。



7基の疑似太陽炉を搭載した巨大MA

GNMA-XCVII

アルヴァトーレ

ALVATORE

? unknown

GNドライブ [T]

機体後方には、GNドライブ [T] (タウ) が7基設置されているのがわかる。その結果として得られた大出力を用い、巨大な機体を稼働させることができた。

後部

上方に突き出す形で設置されているスタビライザー。その内部には、合計6基のファンが格納されており、射出時は装甲パーツがスライドする構造であった。

コクピット

MSアルヴァアロンが機体中央に設置され、アルヴァトーレのコクピットブロックとして機能している。本体は重厚な装甲に守られ、頭部のみが露出した状態となっている。

側面

曲線を描く機体側面部には、サイドから迫る敵に対応したビーム砲を設置する。また、パーツ自体が可動し、マニピュレーター付きの格闘用アームともなる。

SPEC

全長	56.1m
全高	42.6m
重量	—
ジェネレーター出力	—
スラスター推力	—
装甲材質	Eカーボン
武装	ビーム砲 / 大型ファン×6 / 格闘用アーム×2 / 側面ビーム砲×22
所属	国連軍
搭乗者	アレハンドロ・コーナー

COMPARISON CHART



COLOR



アレハンドロが搭乗した金色のMA

ユニオンの国連大使であったアレハンドロ・コーナーは、ソレスタルビーイング (CB) の監視者という裏の顔を持っていた。さらに彼は、CBの計画を独断で歪め、世界を牛耳ろうとしていたのである。西暦2307年～2308年、謎の侍者リボンス・アルマークを使った「ヴェーダ」の掌握や三大勢力 (国連軍) への疑似太陽炉の供与など、様々な手段を駆使して権力掌握を進めていたアレハンドロは、CB壊滅作戦として「FALLEN ANGELS」を発動。「用なし」となったプトレマイオス (トレミー) チームを撃破しようとした。その作戦でアレハンドロ自身が運用

した機体がアルヴァトーレである。

アルヴァトーレは、全高42.6m、全長56.1mの巨大MAで、各部にビーム砲や大型ファンを備えた戦略兵器である。最大の特徴は、ジンクスにも搭載されたGNドライブ [T] (タウ) を7基設置していることで、その圧倒的な出力をGNフィールドの形成や主砲発射のエネルギーとしていた。機体のコントロールは、コアユニットとして搭載されたMSのアルヴァアロンが担当。緊急時には外部パーツをすべて排除し、アルヴァアロン単体として出撃できる構造となっている。

関連ファイル

GNX-603T ジンクス	00-01-26
GNMA-04B11 トリロバイト	00-01-31
GNMS-XCVII アルヴァアロン	00-01-33
GNMA-Y0001 エンプラス	00-01-50
GNMA-0001V レグナント	00-01-51
アレハンドロ・コーナー	00-02-15

FILE PREVIEW

00-02-15 アレハンドロ・コーナー



CBの監視者で、表向きはユニオンの国連大使。「イオリア計画」を裏取り、コーナー家の宿願を果たして世界を我が物にしようとしていた。

武装／構造

強力な武装群と重力下への対応

GNドライブ [T] (タウ) を7基搭載するアルヴァートーレには、その出力を活かした多彩な射撃兵器が設置されている。主砲となっているのは、機体正面に設置されたビーム砲で、射撃時には砲身が露出・スライドする方式となっていた。ほかにも、遠隔誘導兵器のファングや側面ビーム砲を備え、複数の敵に対応できる機構を有している。さらに格闘用兵器として大型のアームを設置し、接近戦でもMSの撃破を容易としていた。また、機体にはアームだけでなく脚部も設置されており、重力下での運用も想定されていたと見られる。

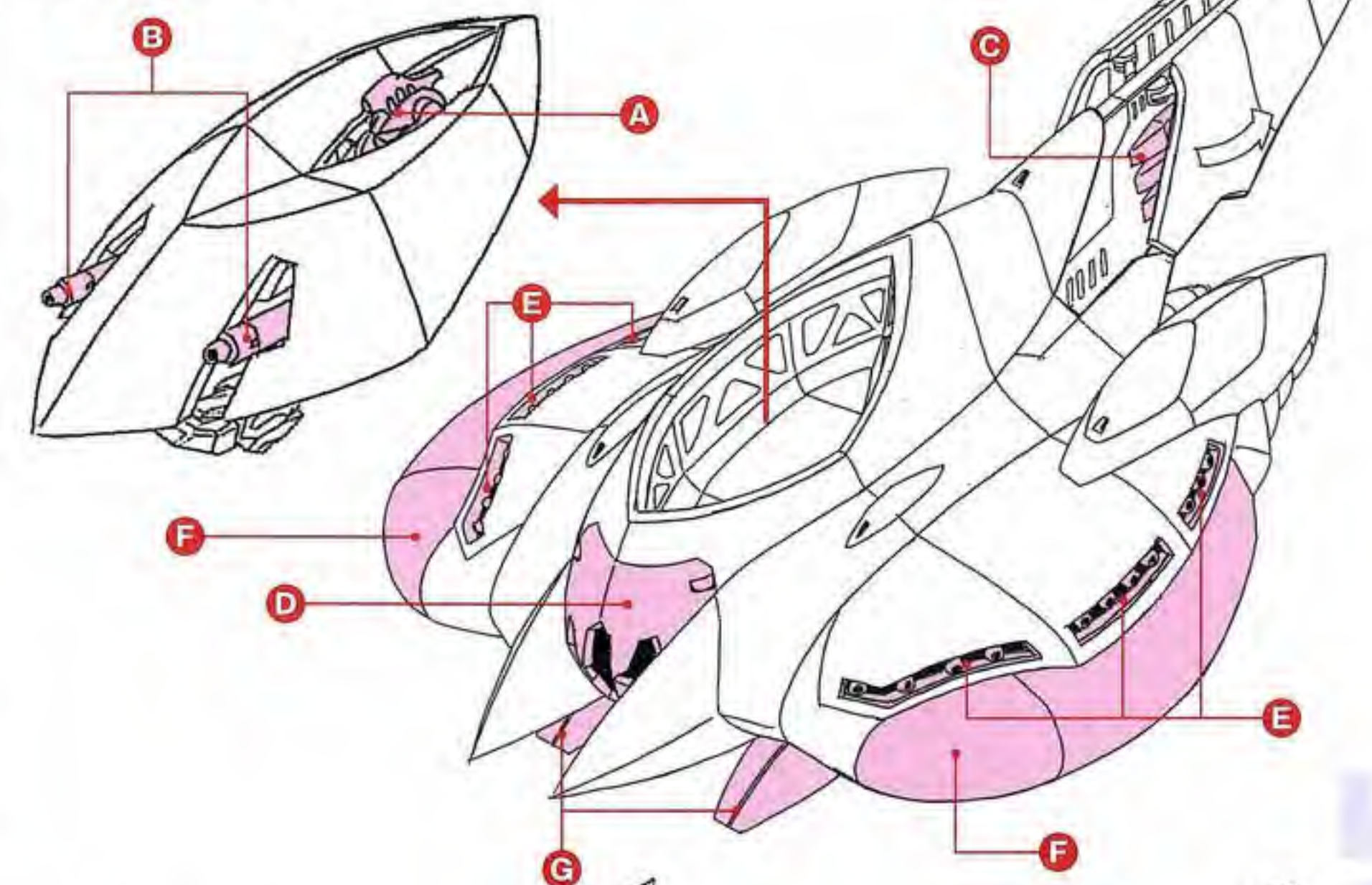


大型の機体であるが、機体を包囲するようにGNフィールドを形成できる。これにより、実体弾やビーム攻撃を無効化することが可能であった。

ガンダムエクシア&GNアームズと交戦。ビーム砲やファングを駆使した攻撃で互角以上の戦いを交したが、最後はエクシアのGNソードで撃破された。



■ アルヴァートーレ武装配置図



A コアユニット / B ビーム砲

コアユニットと2基のビーム砲 (GNビームライフル)。このビーム砲は、アルヴァアロン離脱時には主武装として使われた。



● アルヴァアロン

C ファング

スタビライザーの内部に設置された遠隔誘導兵器。左右のパーツに3基ずつ設置されている。その先端からビームを射出でき、複数のファングを用いてオールレンジ攻撃も可能であった。

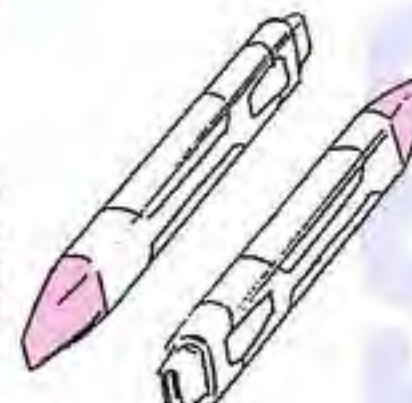


D ファング位置

装甲がスライドするとファングが露出。この状態から複数基を同時に射出することができた。

▶ ファング本体

アルヴァートーレに搭載されたファング。MS用のファングよりも大型で、威力・連射性能どちらにも優れる。右図着色部分がビームの射出口、その反対側がスラスタノズルである。



遠隔操作できるファングは使い勝手の良い中距離戦闘用兵器で、敵機の足止めや牽制用途としても十分に機能していた。

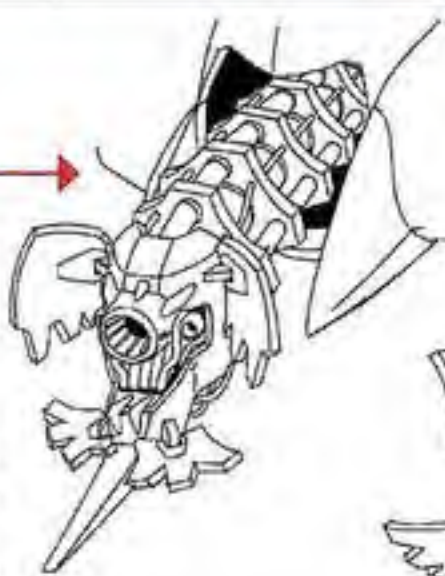
D ビーム砲

機体正面に設置された本機の主武装。フレキシブルな砲身を持ち、射角を変更することもできた。一度の射撃でプロレマイオスに甚大な被害を与えるほどの圧倒的な破壊力を有する。



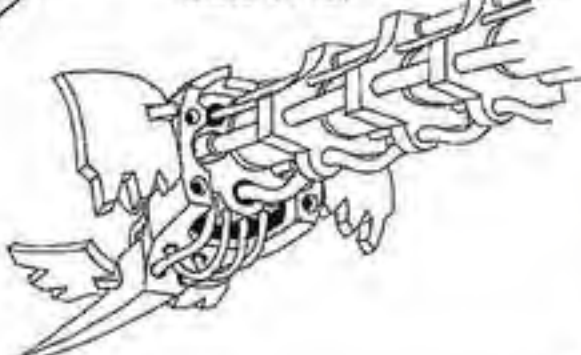
● 砲塔

砲塔の露出シークエンス。フレキシブルな砲身部分が延伸したあと、砲口を守るカバーが開き、発射態勢となった。



● 後方部

後方から見た主砲。疑似太陽炉から得られた出力をビームのエネルギーに転換していた。



E 側面ビーム砲

機体の左右側面に各11基設置されているビーム砲。アルヴァートーレに設置された砲の中では小型だが、直撃すればMSを撃破できるほどの威力を有していた。



● ビーム砲

使用時には装甲が上部にスライドし、砲口が露出する構造であった。サイドから迫る敵にも効果は絶大であった。



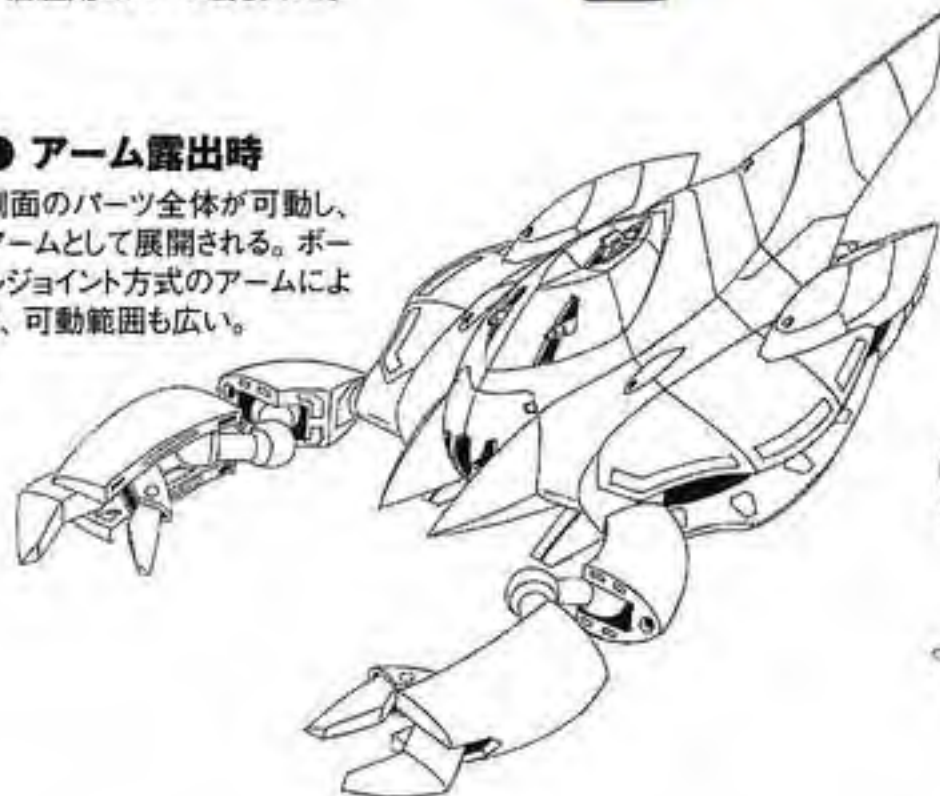
F 格闘用アーム / G 脚部

機体側面、ビーム砲の下部に設置されたアーム。アームの先端にはハサミのような大型のマニピュレーターを持ち、敵機を捕獲、そのまま粉碎できるパワーを有した。脚部は重力下での行動や着陸用のパーツと見られる。



● アーム露出時

側面のパーツ全体が可動し、アームとして展開される。ボールジョイント方式のアームにより、可動範囲も広い。



● アーム・脚部露出時

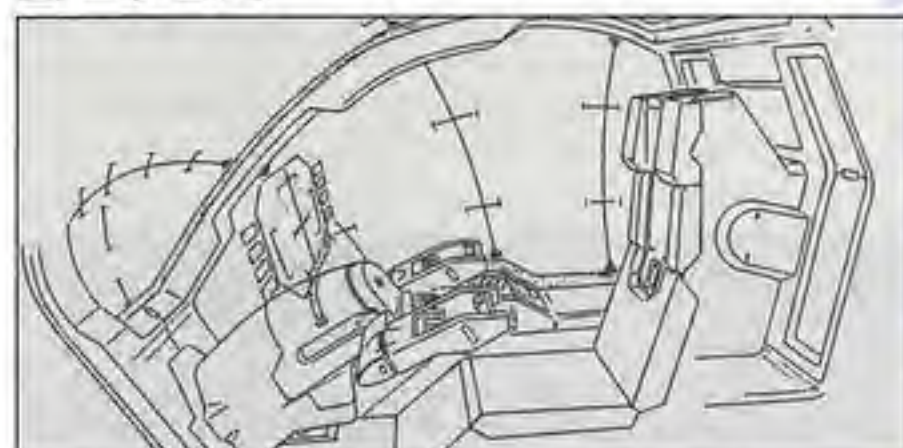
アームと脚部が展開した状態。脚部は通常、底部に折り畳まれた状態で固定されている。



● ランディング時

脚部はランディングギアとしても機能しており、自艦への着陸時などに使用されたと見られる。

■ コクピット



アルヴァアロンのコクピットで操縦するが、MS単体時とは異なる、MA専用のコントローラーアームを用いた。

決起の尖兵を率いた指揮官機

XM-04

ベルガ・ダラス

BERGA-DALAS



胴体部

同じ試作小型MS(デッサ・タイプ)をベースにしているデナン・タイプとは、胴体部の形状が大きく異なり、その基本ラインはXM-05にも継承されている。

脚部

膝や脛、ソール部などにアボジ・モーターを備え、その他にも機体各部に総計82基のアボジ・モーターを装備している。また、踵部分に小型のスラスター・ノズルを配している。

SPEC

全高	15.8m
重量	9.3t(全備重量 22.1t)
ジェネレーター出力	4,530kW
スラスター推力	92,610kg
装甲材質	チタン合金ハイセラミック複合材
武装	ショット・ランサー(ヘビー・マシンガン×2内蔵) / ビーム・サーベル×2 / ビーム・シールド / シェルフ・ノズル×6
所属	クロスボーン・バンガード
搭乗者	ドレル・ロナ 他

COMPARISON CHART



COLOR



腕部

左下腕部に突き出す形でビーム・シールドの発生デバイスを備え、右下腕部にショット・ランサーを外付けする構造となっている。

バックパック

バックパックには、3基のスラスター・ノズルと3基一対のシェルフ・ノズルを備える。また、バックパック中央にはビーム・フラッグ発生器が装備されていた。

近接格闘戦を重視したクロスボーン・バンガードの指揮官用MS

XM-04 ベルガ・ダラスは、クロスボーン・バンガード(CV)が独自に開発した小型MSである。指揮官用格闘型MSという分類が示すように、本機は近接格闘戦に主眼を置いた設計を特徴としており、総合性能と通信・管制機能を重視した従来の指揮官機とは方向性を大きく異にした。すなわち、本機はコロニー制圧というCVの基本戦略を色濃く反映し、MSの核融合炉の爆発を避けるための近接戦闘が主となるコロニー内戦闘を想定した仕様となっていたのである。そのコンセプトはCV製MSの多くに見られる特徴だが、本機の場合は一般兵用となる

デナン・タイプとは一線を画した性能が与えられていた。特に、初めて本機に採用されたシェルフ・ノズルによって、デナン・タイプを大幅に上回る機動性を獲得している。

CVが決起したU.C.0123当時には、XM-04と同系列で性能に勝るXM-05 ベルガ・ギロスが配備されていたが、XM-04もフロンティア・サイド襲撃に投入された。中でも、ロナ家の一員であるドレル・ロナが本機を運用し、ドレル大隊の先頭に立って地球連邦軍の旧式MSを圧倒した。その戦果は、ドレルの優れた操縦技術もさることながら、本機の性能にも支えられていたと言えよう。

関連ファイル

XM-01 デナン・ゾン	F91-01-06
XM-05 ベルガ・ギロス	F91-01-10
ロナ家の人々	F91-02-13
フロンティア・サイド襲撃	F91-03-02
クロスボーン・バンガードのMS開発	F91-03-08
ビーム・シールド	F91-03-09

FILE PREVIEW

F91-02-13 ロナ家の人々



マイツァー・ロナは、コスモ貴族主義を唱えてコスモ・バビロニア建国戦争を引き起こす。ドレル・ロナはベラ・ロナの異母兄で、クロスボーン・バンガードのMS大隊長を務めた。

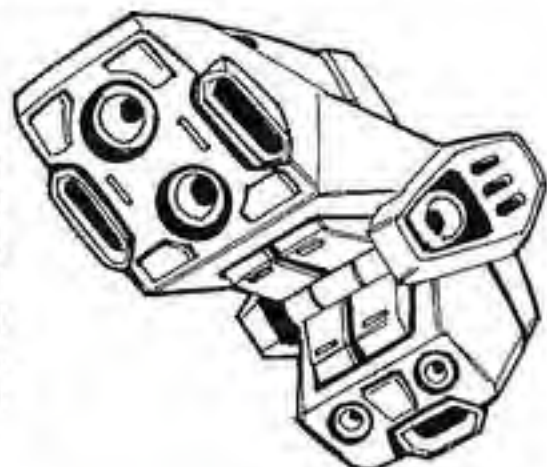
機体構造

ベルガ・タイプの出発点となった指揮官機としての設計

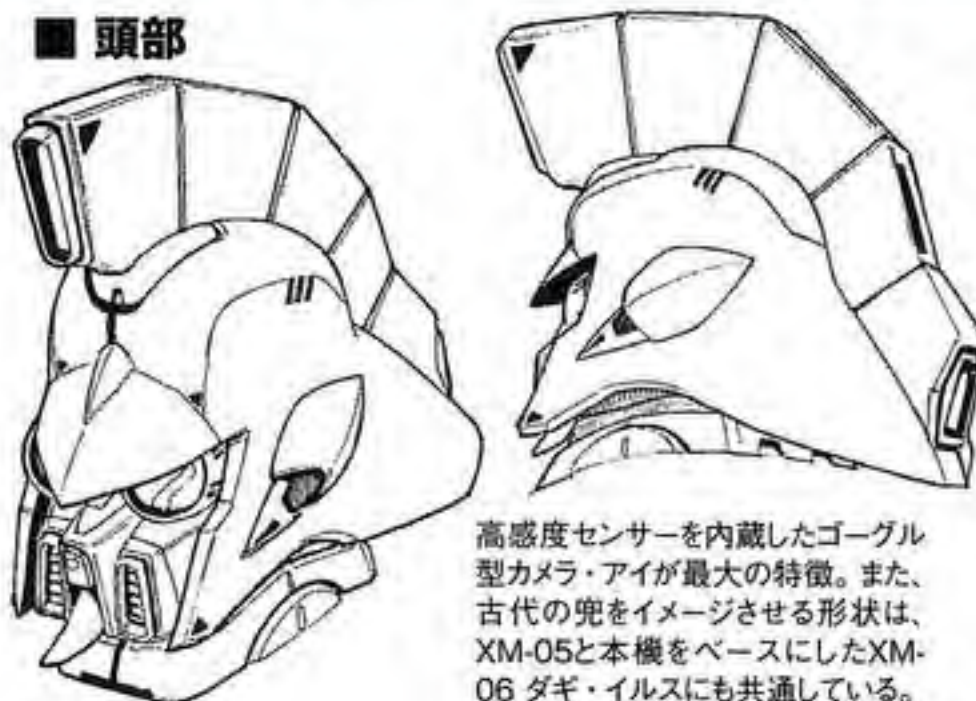
XM-04の開発には、CVの母体であるブッホ・コンツェルンに属するブッホ・エアロダイナミクスが携わっていたとされ、同社が試作したデッサ・タイプと呼ばれる小型MSが本機のベースになっている。デッサ・タイプから指揮官用MSとして必要な機能を選定して設計されており、小型化に際してジェネレーターを機体の外に移すというベース機の発想は、本機において後述のシェルフ・ノズルに発展している。また、本機の設計はXM-05の参考にされているが、トータルにおける性能は発展型とも言えるXM-05に劣る。それでも、当時の地球連邦軍が運用していた20m級MSを凌駕する機動性を誇り、フロンティア・サイド襲撃でもその性能を申し分なく発揮することとなった。

■ 足裏

右はソール部底面の構造を示したもので、足裏の接地部分には、形状が異なる複数のアポジ・モーターが設けられており、空間戦闘における機動性を重視した小型MSとしての設計コンセプトが窺える。



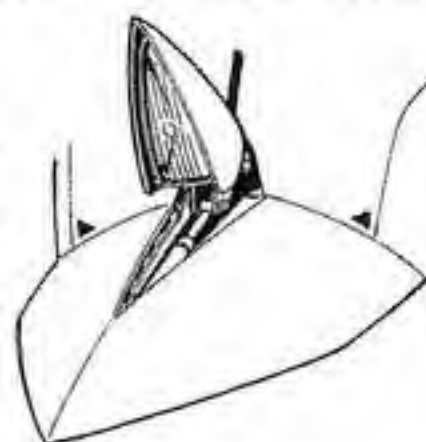
■ 頭部



高感度センサーを内蔵したゴーグル型カメラ・アイが最大の特徴。また、古代の兜をイメージさせる形状は、XM-05と本機をベースにしたXM-06 ダギ・イルスにも共通している。

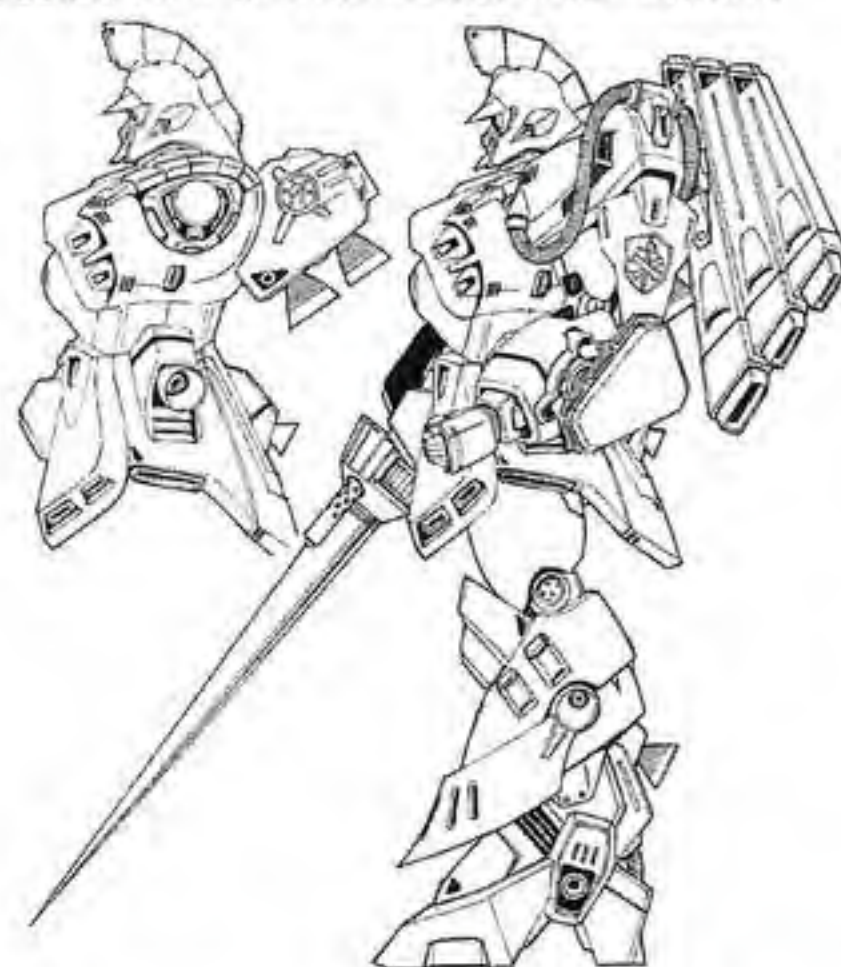
ヘッドライト▶

頭部のひし状パーツの中央には、展開式のサーチライトが内蔵されている(右はライトを展開させた状態)。フロンティアIの坑道制圧戦において、明かりのない坑道内を前進する際に用いられた。



■ 側面

右図は機体を側面から見た図で、左図は腕部が省略されたもの。CV製MSの中では最もサイズが大きく、シェルフ・ノズルや張り出した胸部などもあり、デナン・タイプと比べると前後のボリュームも大きい。

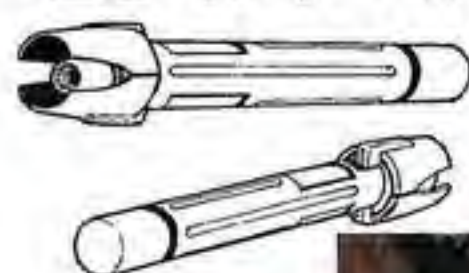


武装

高い格闘戦能力を発揮したCV製MS独自の武装

分類が示すように、XM-04は格闘戦に比重を置いた武装を採用している。その特徴を端的に示すものがショット・ランサーで、ガンダリウム合金の装甲を貫通するほどの威力を有したこの武装は、敵機を爆発させずにコロニーへの被害を抑えるCVの戦法を物語っている。また、ビーム・シールドによって耐弾性が飛躍的に向上し、脆弱性という小型MSの欠点を補っている。近接戦闘に特化した本機の性能を発揮させるためには高い操縦技術が必要だったが、CVはそれを可能とする高い練度を誇っていた。

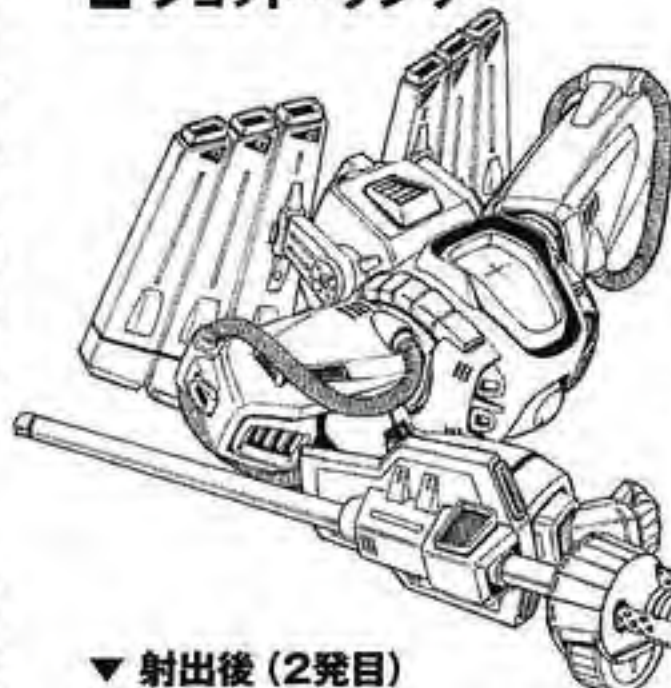
■ ビーム・サーベル



ビーム・サーベル2基を装備している。形状はXM-05のものと同様。メインとなる近接戦用武装はショット・ランサーであるため、ビーム・サーベルは補助武装だったと考えられる。



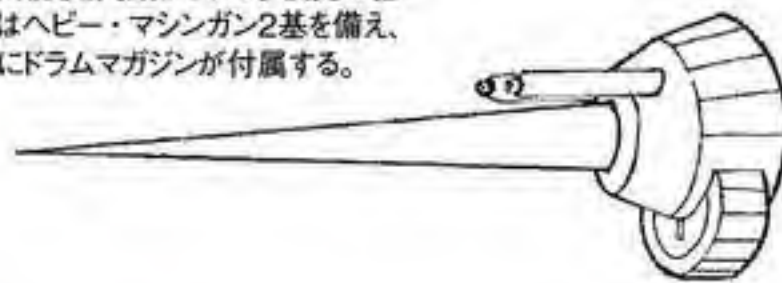
■ ショット・ランサー



リニア射出式の槍とヘビー・マシンガンを組み合わせた、CV製MSの特徴的な武装。XM-04のものは右下腕部にマウントする固定武装に近いタイプで、右腕のマニピュレーターが自由に扱える代わりに柔軟性に欠ける一面を持つ。

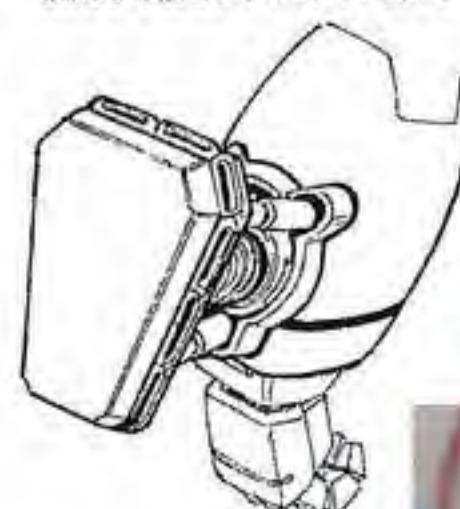
▼ 射出後(2発目)

下はショット・ランサーの穂先を射出した状態。通常の穂先の内側に一回り小さな穂先を内蔵している。根元の部分にはヘビー・マシンガン2基を備え、下部にドラムマガジンが付属する。



■ ビーム・シールド

左下腕部に配された防御装備で、ビームを面状に展開して実体弾とビームの両方を防ぐ。小型化によるジェネレーター出力の余剰がこの装備の使用を可能としており、CV製MSのアドバンテージのひとつでもあった。



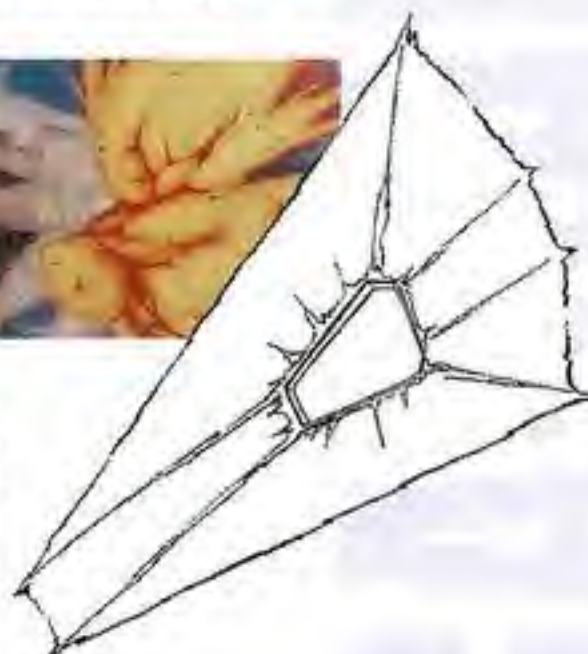
▶ ビーム・シールド発生デバイス

デバイスは腕部に直結した構造で、連結部と3本の支柱によって台形のデバイスを支える。通常のシールドに比べて軽量で、機動性の妨げとならない点もメリットである。



▶ ビーム・シールド展開時▶

右はビーム・シールドを展開した状態。デバイスの辺に沿ってビーム膜が展開され、通常のシールドよりも広範囲をカバーできる。ただし、許容量を超える攻撃は防ぎ切れないケースもあった。



装備

高い機動性を付与するシェルフ・ノズル

XM-04の特徴を示す装備のひとつが、シェルフ・ノズルと呼ばれる可動式スラスター・ユニットである。これは、ジェネレーターを機外に設置し、推進力を機体各所に分散させるというデッサ・タイプのコンセプトに着想したものだった。スラスター・ユニット自体の質量をAMBACシステムに利用することで機動性の向上を実現したシェルフ・ノズルによって、本機は極めて柔軟な機動性を誇っている。また、シェルフ・ノズルは各ユニットを分離して射出することも可能で、攻撃や攪乱にも転用できたが、機動性の低下を招くため、あくまでも非常手段だったと考えられる。

■ 取付基部スイングアーム

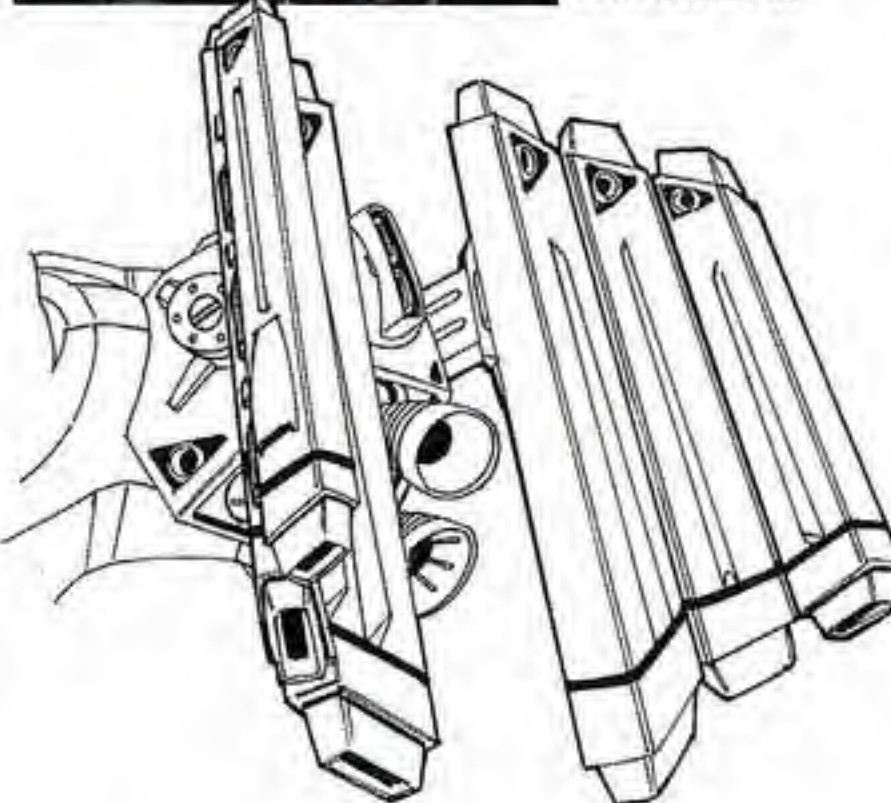


シェルフ・ノズルはバックパック側面に設けられたスイングアームを介して機体に接続される。スイングアームの先端は一番内側のシェルフ・ノズルに連結しており、バックパック側の回転軸は広い可動域を有していた。

■ シェルフ・ノズル



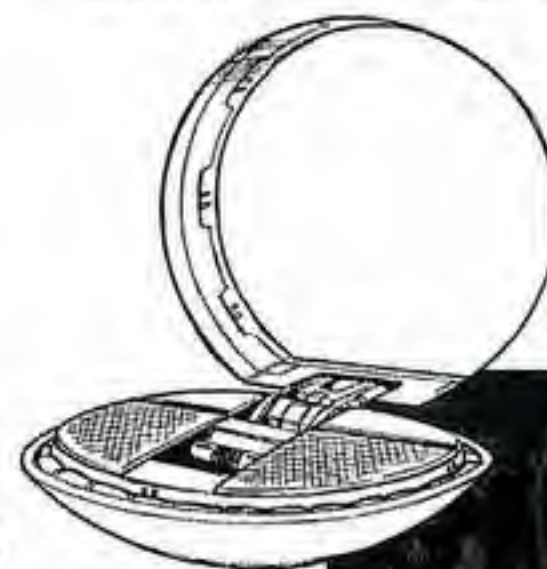
可動式スラスターのコンセプトは旧世代機のバーニア・バインダー等にも見られる発想だが、シェルフ・ノズルはそれをより高度化したものと言える。本機は片側3基(計6基)のシェルフ・ノズルを装備する。



コクピット

CV共通の構造

XM-04のコクピットは胴体部中央に位置し、胸部に円形のハッチを配している。内部構造はCV製MSに共通で、パイロットの頭上に位置するようにアームで中空に設けられたコンソール・パネルなどが特徴である。ただし、旧世代のMSに比べてコンソールが複雑化しており、リニア・シートの側面から後方にかけて視界を遮るように構造物が配されているため、視認性がやや悪かったとも考えられる。



■ コクピット・ハッチ

胸部中央のコクピット・ハッチは下方に展開し、乗降時のステップを兼ねる。ハッチとパイロットの対比からは、コクピットがさほど広くないことが見て取れる。



DENAN TYPE MS

デナン・タイプMS

DENAN TYPE MS

unknown

頭部

ヘルメット型の外装、ダクト型の口吻部など、デナン・ゾンと酷似した形状の頭部。巨大な横一列のゴーグルは、デナン・ゾンと同系のハイブリッド・センサーを隠蔽するためのものである。

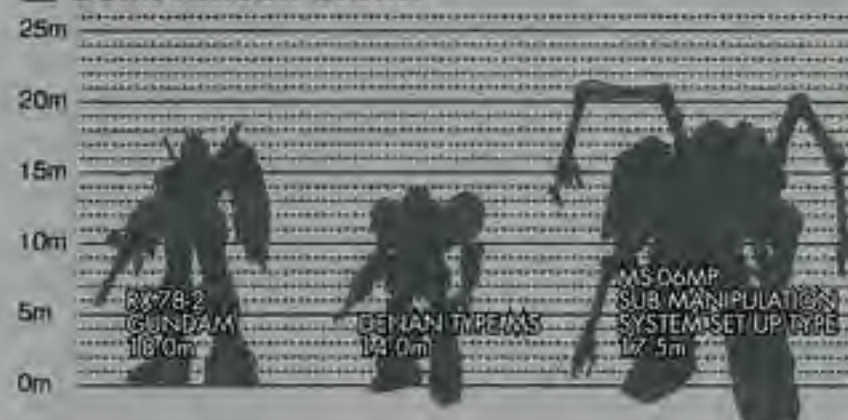
■ SPEC -DENAN TYPE MS-

全高	—— (頭頂高 14.0m)
重量	——
ジェネレーター出力	——
スラスター推力	——
装甲材質	——
武装	——
所属	——
搭乗者	——

■ SPEC -MS-06MP SUB MANIPULATION SYSTEM SET UP TYPE-

全高	—— (頭頂高 17.5m)
重量	——
ジェネレーター出力	976kW
スラスター推力	——
装甲材質	超硬スチール合金
武装	——
所属	ジオン公国軍
搭乗者	——

■ COMPARISON CHART



■ COLOR

DENAN TYPE MS

ORANGE	YELLOW	BLACK
--------	--------	-------

MS-06MP SUB MANIPULATION SYSTEM SET UP TYPE

LIGHT GREEN	GREEN	BLACK
-------------	-------	-------

MS-06MP マニピュレーションシステム装着型ザクII

SUB MANIPULATION SYSTEM SET UP TYPE



ランドセル

4本の作業用マニピュレーターを持つランドセル。作業用ボッドを利用したもので、精密作業性能はザクの腕部以上に高い。メイン・スラスターも搭載。

胴体

デナン・ゾンの民生用改造機であるため、胴体の形状もそれに準じている。ランドセルは戦闘用のような高推力スラスター搭載型ではないが、外装式ジェネレーターは低出力化して継承している。

胴体

マニピュレーター操作員が搭乗する専用のコクピットを胸部に増設。MSパイロット用のコクピットは別個に残されているため、搭乗員は2名必要。コクピットとランドセルの接続部を除けば、一般的なザクIIとほぼ同じものだ。

各時代に存在する作業用MS

兵器として誕生したMSは、始祖であるZI-XA3(MS-01)の時点で高度な作業性能を有していた。ただし、戦闘任務用を作業専任に転用する余裕は少ないため、作業用MSが造られた。当初は、修理の目的が立たないMSを作業用に改造したが、より高度な作業性能を求めて、フルスペックのMSを基に作業用MSを開発する例が増加する。

そうした事例のひとつが、ジオン公国軍のMS-06MP マニピュレーションシステム装着型ザクIIである(型式番号は便宜上のもの)。一年戦争末期、ザクII以上の精密作業性能を求めて、宇宙作業用に開発されたと伝え

られる。ザクIIのランドセルを作業用ボッドに換装しており、4基の作業用マニピュレーターを追加している。生産数は3機または4機と言われ、全機がスペース・コロニー「マハル」のソーラ・レイ化作業に投入された。

U.C.0110年代にも、軍用MSベースの作業用MSが生まれた。ブッホ・エアロダイナミクス社のデナン・タイプMSがそれで、公にこそされなかったがXM-01 デナン・ゾンの民生用改装機だった。実働データの収集、本機の生産を名目とするクロスボーン・バンガード(CV)用MSの部品調達など、特殊な背景を持つMSである。

関連ファイル

MS-06F ザクII F型	FG-01-08
XM-01 デナン・ゾン	F91-01-06
ソーラ・レイ・システム	FG-03-69
クロスボーン・バンガードのMS開発	F91-03-08

FILE PREVIEW

F91-01-06 XM-01 デナン・ゾン



CVが開発した小型MS。試作機デッサ・タイプをベースとして開発された一般機用格闘型量産機で、CVの代名詞的なショット・ランサーのほか、ビーム・シールドを備える。

ソーラ・レイの改造を担ったザク

デナン・タイプMSの機体構造

軍用MSデナン・ゾンの改造機

CV用MSを秘密裏に開発していたブッホ・エアロダイナミクスは、U.C.0108.07にデッサ・タイプの1号機をロールアウトした。このデッサ・タイプを原型として、CV用小型MSの開発が進み、U.C.0110年代に主力機XM-01デナン・ゾンが完成したと見られる。そして、デナン・ゾンの民生用改造機として誕生したのが、作業用MSのデナン・タイプMSである。U.C.0115に量産計画が発表され、U.C.0121のMSショーに出品されている。

量産が進んでいたデナン・ゾンの存在は秘匿され、デナン・タイプMSはブッホ・エアロダイナミクスがMS産業参入用に開発した機体と発表された。触れ込みは「空間作業から警備まで、幅広く運用できる民生用MSの決定版」で、アピールポイントは従来機に匹敵する性能を持ちながらも、小型かつ運用コストが低い点だった。

デナン・タイプMSの発表は、ブッホ・コンツェルンの意図を見抜かれかねない危険な行為だったが、そうせざるを得ない理由があった。本機の量産を名目に、アナハイム・エレクトロニクス社やヤマ重工などから、部品の大量調達できたのである。この部品は、CV用MSの製造に使用された。本機の貸し出しで得られた実働データを、実戦用MSにフィードバックできる点もメリットだった。

なお、本機の生産数や販売、レンタルの実体についてはよくわかっていない。

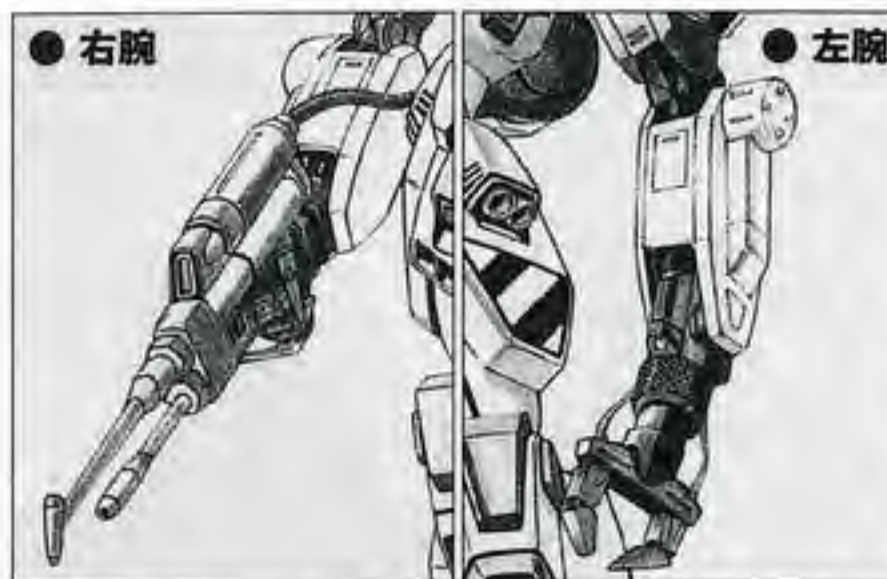
■ 正面

デナン・ゾンに酷似したシルエットを持つ。頭部のゴーグルは、ハイブリッド・デュアル・センサーを隠蔽する装備だった。カラーリングは作業時の視認性を確保するため、警戒色を採用。

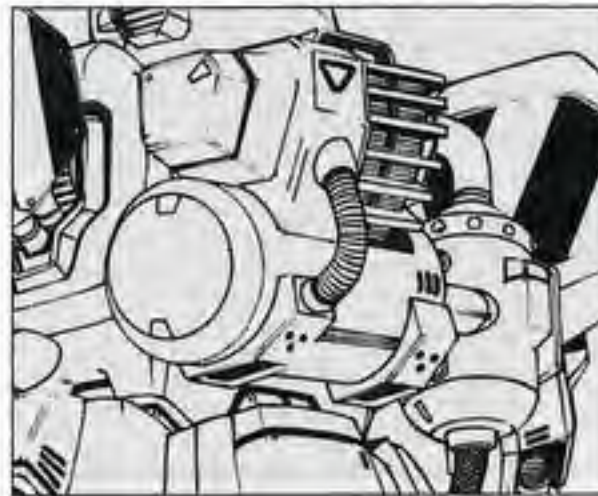


■ 背面

民生用作業MSには不要なレベルの大型フォルムや無数の補助バーニアが、軍用MSベースであることを窺わせる。本機を含むCV系MSの情報は、ブッホ・コンツェルンが操作していた。



右腕はトーチなどを使用可能な簡易式マニピュレーター、左腕はマジックハンド式で、民生用の作業機としては十分な性能を持つ。各駆動部の性能は抑えられており、デナン・ゾンほどのパワーは発揮できない。



■ ランドセル

ランドセルはジェネレーター出力の低下などが施されたデチューン仕様で、デナン・ゾン用とは別のモデルとなった。右側にトーチ用のパワー・サブライ・ケーブルを接続できる。

マニピュレーション装着型ザクⅡの機体構造

ランドセル換装型の作業用MS

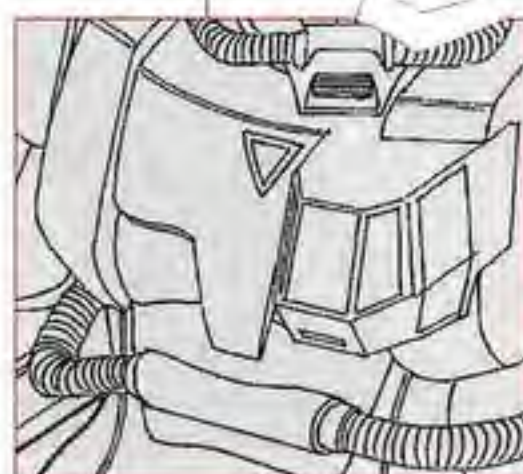
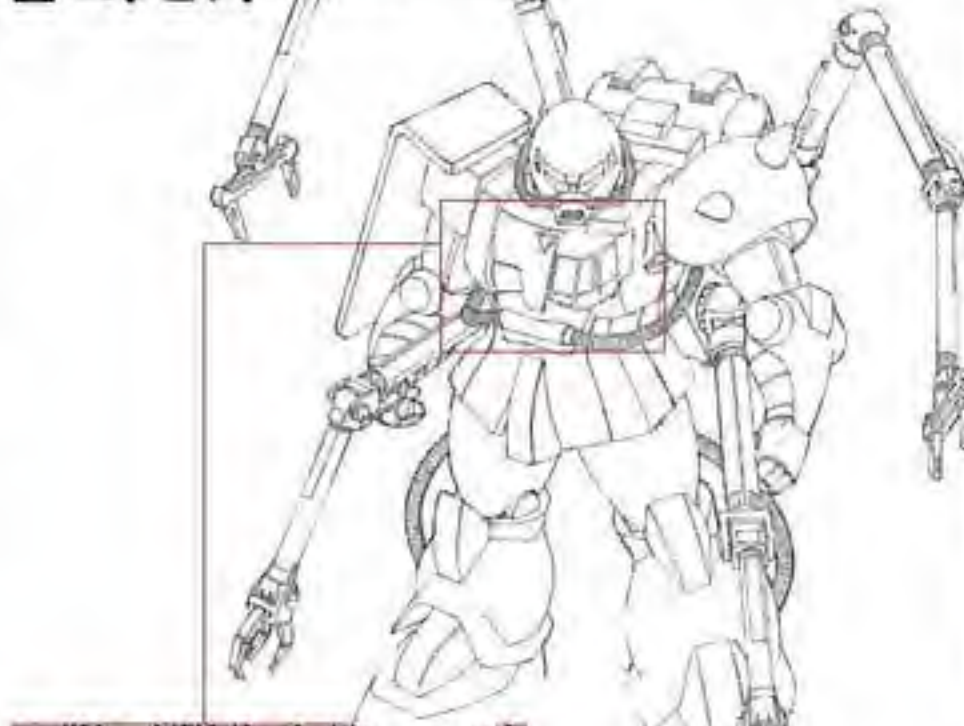
マニピュレーションシステム装着型ザクⅡは、ザクⅡと作業用ポッドの組み合わせにより開発された作業用MSだった。大きな改造ポイントは、ザクⅡのランドセルを四肢式の作業ポッドに換装したこと、追加マニピュレーターを操る操作員用のコクピットを増設したことで、宇宙における精密作業性能が大きく向上した。改造ベースにザクⅡが選ばれたのは、ランドセルの交換が容易な構造、絶対数の多さが理由だろう（ゲルグはザクⅡ以上にランドセルの換装が容易だが、作業用に回せるほど数がない）。

一年戦争時の作業用MSとしては、最高度の機能性を誇るだろう本機だが、問題点も指摘できる。MSの操作に1名、ランドセル部マニピュレーターの操作に1名の計2名の搭乗員を必要とする点、MSの腕部はMS側のパイロットが操作するらしい点は、急造された様子が拭えない。



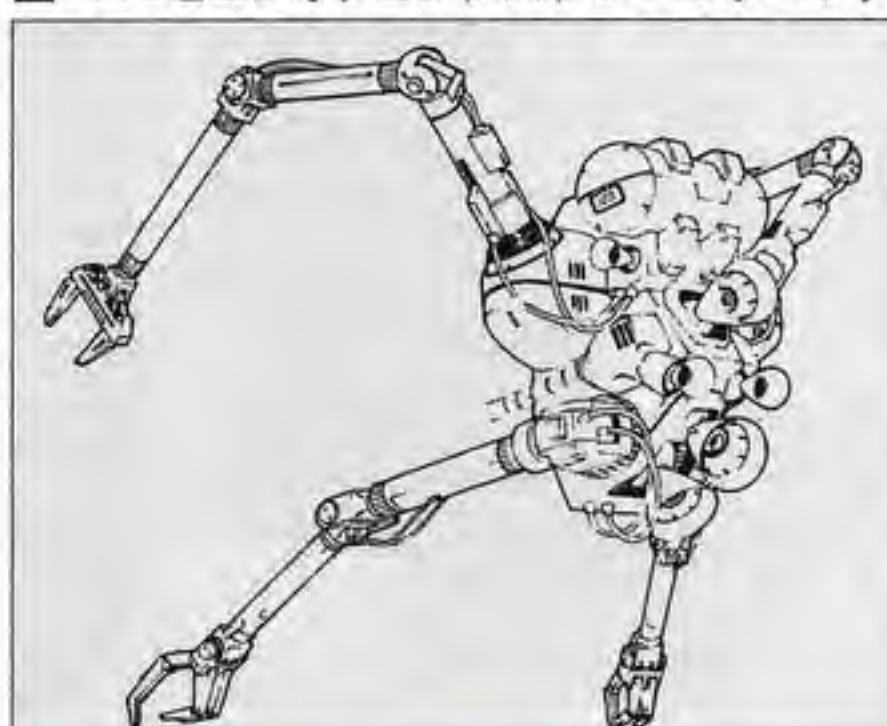
3〜4機が生産されたマニピュレーションシステム装着型ザクⅡは、すべてがソーラ・レイの改造作業に充てられた。作業後の転用先は不明だ。

■ コクピット



ランドセル部マニピュレーターの操作員用コクピットが、左胸部に増設された（右胸とも）。キャノピー式の張り出し型で、直接視界による作業を重視していたことがわかる。MS本体のコクピットは、右胸部に残されている。

■ マニピュレーションシステムバックパック



2対4基の作業用マニピュレーターを持つランドセル。メイン・スラスターも搭載されている。精密作業性能は、MSのマニピュレーターを上回るようである。ランドセルへの可動肢搭載は、バンダーやヴェスパーなどの始祖のシステムであった。

MORE INFO!

様々な開発系譜を持つ作業用MS

作業用MSの開発経緯は機体ごとに様々だが、大きくふたつに分類できる。既存のMSを原型としてバリエーション展開した機体（改造機）と、新規に設計された機体（新設計機）である。

改造機は軍用に多く見られるもので、一年戦争時にはすでに存在した。ジオン公国軍のザク・タンクが有名である。新設計機は民生用で多いがフルサイズのMSは少なく、Jr.MSやプチMS、ミドルMSのように重機性格が強い小型機が目立つ。ジャンク屋のハンドメイド機は両者の中間的存在と言える。



MSに連なる作業機器としてモビルワーカーも誕生。MW544B サンドージュが有名だ。ただし、MS以外の作業機器の垣根は低い傾向にあり、分類も明確ではない。



MS-06W 一般作業用ザク

最初期の作業用MS。個体差から運用に適さなかったMSや部品類を、作業用に組み上げた現地改修機と考えられる。大パワーや作業用固定装備により優れた作業性能を発揮。



MS-06V ザク・タンク

MSとAFVを組み合わせた現地改修の作業用MS。マゼラ・ベースの上に、戦闘能力を喪失したザク系MSの上半身を接続している。地球各地で同様の機体が多数製造された。



ゲゼ

サイド1のジャンク屋ゲモン・バジャックのハンドメイド機。U.C.0088ごろの大型ジャンク運搬用作業機である。ジャンクパーツを多用しているが、パワーは一般的な軍用MSを上回る。



MW544B サンドージュ

U.C.0150年代にコロニー外壁の補修に用いられたMW（モビルワーカー）。8本ものマニピュレーターを持つが、コンピュータの処理速度が遅く、操作には3名のパイロットを必要とした。頭部、両肩の計3か所にコクピットを持つ。

アレルヤ・ハプティズム

Allelujah Haptism

PROFILE

年齢 19歳
所属 ソレスタルビーイング
階級 ガンダムマイスター
出身 不明(超人機関)
技能 MS操縦、脳量子波



超人機関出身という過去に苦しむ ガンダムマイスター

超人機関——人類革新連盟(人革連)が究極の兵士を生み出すために設立した極秘の研究所である。そこでは非人道的な人体改造が行われており、ソレスタルビーイング(CB)のガンダムマイスター、アレルヤ・ハプティズムもまたかつて被験者であった。超人機関での出来事はアレルヤのトラウマとして残り、その過去が彼をCBに導く。超人機関を憎んだ彼は、戦うことしかできない超兵の力をもって世界を変えるため、CBに参加したのである。

超兵となるべく脳改造されたアレルヤは、脳量子波処置が原因となって第二の人格「ハレルヤ」を生み出した。第二人格はアレルヤと正反対と言うべき性格で、決意をためらうアレルヤの代わりに引き鉄を引く存在となる。だが、それもまたアレルヤという人物の一面なのであった。そして、生き残るため仲間を死に追いやり、自分の弱さを別人格に肩代わりさせている罪の意識はアレルヤを苛んでいく。



アレルヤと第二人格のハレルヤ。アレルヤが忌避する内面に深く切り込むハレルヤの存在は、自分の秘めた心が表面化したようなものである。



自分の同胞である超兵ソーマ・ビーリスとの出会いが、アレルヤに超人機関での過去を突き付け、背負った罪と向き合うきっかけとなっている。

CHARACTER

その人格

いつもは物静かで優しいアレルヤだが、「ハレルヤ」という残忍な別人格を宿しており、脳量子波の影響を受けた際に現れる。好戦的で生きることに執着し、アレルヤの秘めた内面を代弁するかのよう忌憚らない言葉を放つ。



ハレルヤという人格に好戦的な面を預けているためか、本来は慎重なアレルヤだが、人命救助には躊躇なく行動をとった。

RELATIONS



ふたつの人格を宿す
超人機関出身のマイスター

MAIN MS



GN-003

ガンダムキュリオス

可変機構を取り入れた第三世代ガンダム。飛行形態に変形でき、高速戦闘を得意とする。オプション装備のテールユニットにより多彩な武装を運用でき、汎用性は極めて高い。

関連ファイル

プロレマイオス	00-01-20
GN-003 ガンダムキュリオス	00-01-06
スメラギ・李・ノリエガ	00-02-06
ソーマ・ビーリス	00-02-30
ガンダムVS人革連	00-03-04
私設武装組織ソレスタルビーイング	00-03-33

FILE PREVIEW

00-02-30 ソーマ・ビーリス



人類革新連盟の超人機関が造り出した「超兵1号」。対ガンダムの切り札として、セルゲイ・スミルノフの指揮下に配属された。アレルヤとは超人機関の同胞である。

この悪夢のような連鎖を 僕が断ち切る—— 今度こそ、僕の意志で

人革連の低軌道ステーションにおいて、脳量子波に何者かの干渉を受けたアレルヤ。それは付近で演習していた人革連の超兵1号ソーマ・ピーリス少尉によるものであった。その後、人革連による「ガンダム鹵獲作戦」でピーリスとMS越しに邂逅を果たし、アレルヤは自分の同類——脳量子波を持つ超兵の存在と、超人機関が未だ存続していることを確信。そうして自らの過去と向き合い、悲劇を断ち切ることを決意する。非人道的な研究で兵士を生み出す超人機関を戦争補助であると断じ、スメラギ・李・ノリエガに作戦の提案を行う。そのミッションはヴェータにも認められ、超人機関研究施設のあるスペースコロニー「全球」への武力介入が行われた。超人機関に否応なく戦闘用の兵士として改造され、普通の生活が送れない自分のような境遇の人間をこれ以上増やさないため、アレルヤは苦渋の選択を下す。同胞を救う術を持たず、その手に掛けるのだった。

過去と決別したかに見えたアレルヤだが、依然として超兵であるピーリスとの因縁は続いていた。一方で、世界支配を目論むアレハンドロ・コーナーの思惑により、疑似太陽炉搭載型MSが三大勢力の手に渡り、世界は国連軍を結成。CBは苦境に立たされていく。その総攻撃でピーリスと対峙したアレルヤは、彼女が超人機関時代に心の支えだった少女、マリー・パーファシーであったことに気づき衝撃を受ける。そして傷を負ったアレルヤはこの戦いで国連軍に捕われ、虜囚の身となってしまふ。

足跡 アレルヤの過去

孤児であったことから、超人機関の被験体となったアレルヤ。E-0057という番号で管理されていた彼は、脳改造後に脳量子波を得たことで、五感を失いながらも脳量子波を持つマリーと出会い、お互いを生きる支えとしていた。その後アレルヤは、研究所の処分を免れようとして仲間たちと共に脱走を試みる。輸送船を奪ってスペースコロニーからの脱出には成功したものの、まだ幼い被験体たちにとって、逃亡生活はあまりにも過酷だった。行く当てもなく宇宙を漂流した結果、食料や酸素は瞬間に尽きてしまう。その際にアレルヤのもうひとつの人格ハレルヤが表面化し、自分が生き残るために仲間を皆殺しにしてしまい、心に大きな傷跡を残す。

能力 超人機関で培われた戦闘力

超人機関で肉体強化と脳改造が施され、常人を超える能力を持つアレルヤ。その最たるものが脳量子波だが、自在には操れず他の脳量子波を持つ者の影響を受けやすい。その反面、ハレルヤの方が扱いに秀でており、身体能力を遺憾なく発揮するのもハレルヤの方であった。ふたりの人格を宿すアレルヤにとってMS形態と飛行形態、両方の側面を持つキュリオスは相応しいガンダムだと言えよう。



アレルヤが「思考」、ハレルヤが「反射」を担い、それを融合させることで、「本物の超兵」として本来のありべき能力を引き出す。



- ① 西暦2307年の武力介入時は19歳であり、超人機関の襲撃ミッション後に20歳を迎えた。身長は185cm、体重は65kg、血液型はO型だった。誕生日は2月27日だとされる。
- ② パイロットスーツはガンダムマイスター共通のもの。ただしカラーリングはキュリオスの機体色に合わせてあり、オレンジ系を基調としたパーソナルカラーが施されている。
- ③ 穏やかで理知的な容顔を備えた青年。前髪は左右で分けられ、右目を隠すようにしている。左目が露出している際は「アレルヤ」の人格が、右目だと「ハレルヤ」が表出する。



低軌道ステーションの事故に、居合わせたアレルヤは、ミッションを放り出して救助に向かう。



人革連のガンダム鹵獲作戦でアレルヤは捕われてしまう。その危機にハレルヤが表出し敵を圧倒。アレルヤの制止をよそに、残虐な手段で敵の副官ミン中尉をなぶり殺しにする。



「引き鉄ぐらい感情で引け！ 己のエゴで引け！」
同胞を手に掛ける罪の重さから逃げようと攻撃を遂行するアレルヤをハレルヤは糾弾し、引き鉄の重さを自覚させる。



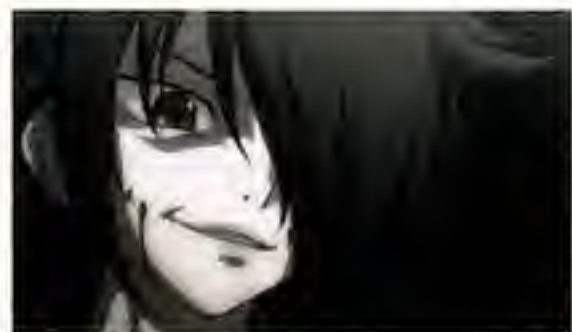
同胞を手に掛けたアレルヤは、その罪悪感から逃げるためにスメラギと酒を酌み交わす。20歳となり初めて飲んだ酒の苦さは、アレルヤに複雑な想いを抱かせるのだった。



「僕はまだ世界の答えを聞いていない」死ねないというアレルヤとハレルヤの意思が一致して超兵の力を発揮し、ピーリスを圧倒。だが彼女がマリーと知り戦意を喪失した。

MORE INFO!

「超人機関技術研究所」、通称「超人機関」は人革連の特殊機関であり、宇宙時代に適合した兵士「超兵」を人為的に生み出す研究が成されていた。その方法は非人道的で、体内に埋め込んだナノマシンによる肉体強化や神経系統の感覚増幅措置、脳改造による脳量子波の取得などが施された。ハレルヤは脳改造の弊害で生まれたアレルヤの第二人格で、その存在によって結果的に超兵の真の力を発揮できるようになる。



アレルヤとは正反対の、粗暴で残忍な性格を持つハレルヤ。幼少時、自分が生き残るため肉体の主導権を握り、超人機関の仲間を殺した。

超人機関ともうひとりの人格



ハレルヤ・ハプティズム
アレルヤの第二人格。宇宙を漂流して命の危機に見舞われたことを契機に表出した。アレルヤが疎む負の行動を担い、脳量子波の扱いに長ける。

アレハンドロ・コーナー

Alejandro Corner

PROFILE

年齢 34歳
 所属 ユニオン／ソレスタルビーイング
 階級 国連大使／監視者
 出身 ユニオン
 技能 政治指揮、MS操縦

リボンを従え武力介入を見つめた
ソレスタルビーイングの監視者

圧倒的な戦闘力を誇る機動兵器ガンダムを主戦力とし、あらゆる戦闘行為に対して武力介入を行ったソレスタルビーイング(CB)。彼らは、ガンダム4機を乗せたブトレマイオスをメインの実働部隊としていたが、その介入行動を資金面や政治面で秘密裏にバックアップする人々がいた。それが監視者と呼ばれる有力者グループであり、その中でもリーダー的存在として振る舞っていたのがアレハンドロ・コーナーである。

アレハンドロは、三大勢力のひとつであるユニオンの国連大使を務めていた人物で、表社会でも高い発言力を有していた。一方でコーナー家は、イオリア・シュヘンベルグが立ち上げた「イオリア計画」に以前から関与しており、アレハンドロも計画の進行を監視する立場に就いていたのである。当初はブトレマイオスによる介入行動を静かに見つめていた彼だが、その裏に大きな野望を抱えていたのだった。



リボズ・アルマークを侍者としたアレハンドロは、ブトレマイオスによる武力介入行動を利用し、世界を牛耳ろうとしていた。

チームトリニティをCBの一部隊として認めさせるなど、監視者グループの中でも高い発言力を活かして計画を思うがままに歪めていった。



CHARACTER

その人格

ユニオンの国連大使としては紳士的な振る舞いを見せ、困窮に喘いでいた中東の小国アザディスタンに支援を行うなど、穏健な人物として知られていた。だが、裏ではCBの監視者として、世界情勢を見極めていたのである。



国連大使としてマリナ・イスミールと会談も行っている。その際は終始にこやかな対応を見せ、本性を見せなかった。

RELATIONS

イオリア計画を歪めた
コーナー一族の子孫

MAIN MECHANIC

GNMA-XCVII
アルヴァトーレ

ブトレマイオスと国連軍の最終決戦時にアレハンドロが運用した大型MA。疑似GNドライブを7基備えているのが特徴で、ビーム砲の出力も圧倒的である。

GNMS-XCVII
アルヴァアロン

アルヴァトーレのコアユニットとして搭載されていた金色のMS。背部に疑似GNドライブを1基搭載しており、ガンダムらと同等の戦闘力を有している。

関連ファイル

GNMA-XCVII アルヴァトーレ	00-01-32
GNMS-XCVII アルヴァアロン	00-01-33
王留美／紅龍	00-02-12
リボズ・アルマーク	00-02-18
私設武装組織ソレスタルビーイング	00-03-33

FILE PREVIEW

00-02-18 リボズ・アルマーク



アレハンドロに付き従っていたイノベイト。量子演算処理システム「ヴェーダ」の掌握を実現したが、彼はアレハンドロとは別の野心を持っていた。

世界を変えるのはこの私、アレハンドロ・コーナーだ!!

アレハンドロの野望——それはイオリアの計画を歪め、世界を我が物にすることであった。彼はブトレマイオスが三大勢力をひとつにまとめていくと、脳量子波を操る侍者のリボズを利用しながら、世界の掌握に向け徐々にその本性を現していく。まずは実働部隊のセカンドチームとしてチームトリニティを参加させ、武力介入行動を強化。さらにジグスの設計図と共に疑似GNドライブを三大勢力に供与し、国連軍の結成を促したのである。またそのことで、不必要な存在となったブトレマイオスを葬り去ろうとしたのだった。

一方でアレハンドロ本人は、リボズと共に月へと移動。イオリア計画の遂行を管理する量子演算処理システム「ヴェーダ」のアクセス権を掌握する。これにより計画そのものに乗っ取る形となったアレハンドロは、最後の仕上げとして、自らもアルヴァートレで対ブトレマイオス戦に出撃した。刹那・F・セイエイが搭乗するガンダムエクシアに予想以上の苦戦を強いられることになったが、アレハンドロには「ヴェーダ」を掌握している余裕が感じられた。だが、彼が寵愛していたリボズが、突如として裏切りを宣言。後ろ盾を失ってしまったアレハンドロは、そのまま刹那の攻撃によって命を散らしたのである。CBを用いて世界をその手に収めたかに見えたアレハンドロだが、信頼する部下の裏切りに遭い、単なる道化としてその生涯を閉じることになったのだった。

足跡 リボズとの関係

アレハンドロは、侍者として付き従っていたリボズには絶大な信頼を寄せていた。リボズが有していた能力は、コーナー家が以前から掲げていたCBの掌握と世界征服を成し遂げるために不可欠なものであったからだ。またアレハンドロは、リボズの妖しげな存在感到に惹かれ、主従関係以上の想いを彼に向けるようになる。「リボズ……君はまさしく私の天使だ……」と囁くその姿からは、ひとりの男性としてリボズの虜になっていた様子が窺える。だがそうしたアレハンドロの盲目的な姿勢は、リボズの反逆を簡単に許してしまう大きな要因となった。アレハンドロ自身がそのことに気付くのは、リボズが「ヴェーダ」を掌握して以降、アルヴァートレで出撃した最終決戦の最中のことである。もはや逆転のチャンスがないと悟った彼は、コクピット内でその怒りを吐き出すことしかできなかった。

能力 元軍人としての操縦能力

西暦2307年の時点ではユニオンの国連大使を務めていたアレハンドロだが、元々はユニオン軍に所属するMSパイロットであったという。その能力を誇示するためか、最終決戦では自らアルヴァートレを駆って参戦したのである。ファングを操るなど、その空間認識能力も高く、ガンダムエクシアとGNアームズ (TYPE-E) を追い詰めるほどの奮闘を見せる。だが、リボズの裏切りと刹那の執念の前に敗れ屈するのだった。

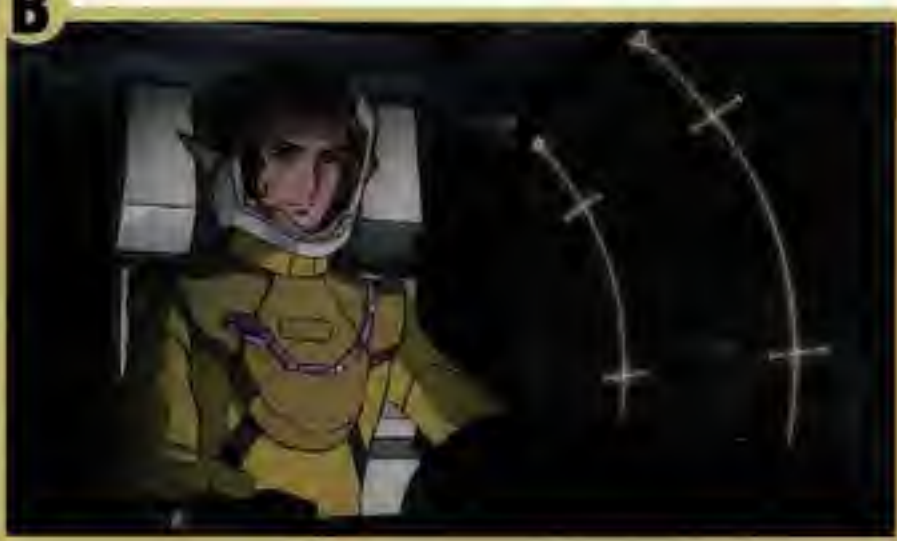


アルヴァートレ、アルヴァアロンを操ってみせたアレハンドロ。元軍人としての能力は示したものの、勝利を掴むまでには至らなかった。

A



B



- ① 切れ長の目とウェーブがかった髪の毛が特徴的。一見、穏やかで紳士的な人物であったが、裏ではコーナー家の宿願である世界の主導権掌握に野心を燃やしていた。
- ② アルヴァートレ／アルヴァアロンに搭乗した際は、自分専用と見られる金色のパイロットスーツを着用した。機体のカラーリングも含めて金色にこだわりを見せていた。



リボズを従え行動したアレハンドロは、ブトレマイオスの行動を常に監視。彼らの民間人に配慮した武力介入には不満を抱いていた。



アザディスタンに向き、第一皇女であるマリナと会談を持った。だが支援に協力的な彼の姿勢は、アザディスタン内部からも疑問の声が挙がっていた。



リボズの力で「ヴェーダ」へのアクセス権を掌握し、さらにコールドスリープ状態にあったイオリアを殺害。世界を手中に収めたかに見えた。



満を持してアルヴァートレで出撃した彼を待ち受けていたのは、最も信頼を寄せるリボズの裏切りであった。

MORE INFO!

イオリア計画を遂行するために設立されたCBには、「ヴェーダ」のみならず、その活動をバックアップ／監視する人々が存在した。アレハンドロと、リニアトレイン公社の総帥ラグナ・ハーヴェイ以外、その素性は明らかになっていないが、富豪や権力者が参加していたと見られる。「ヴェーダ」と共にイオリア計画の遂行をチェックする機関であったが、アレハンドロの暴走を止められなかったこともあり、本戦乱以降、監視者制度は廃止されたようだ。



アレハンドロの推薦を受けてチームトリニティの参加を認めるなど、彼の意向が支持される賛賛会的な組織と言えた。



監視者の存在

ラグナ・ハーヴェイ

リニアトレイン公社総帥で、アレハンドロとの繋がり深い。チームトリニティへの指示や疑似GNドライブとジグスの輸送を行った。



疑似GNドライブの輸送を終えると、アレハンドロの密命を帯びたアリー・アル・サージェスによって殺害された。





セシリー・フェアチャイルド(ベラ・ロナ)編

Case of Cecily Fairchild (Berah Ronah)

ロナ家の血縁という呪縛に囚われたセシリー・フェアチャイルドの心は、コスモ・バビロニア建国戦争の混乱の中で激しく揺れ動いた。



ロナ家の理想と暗部に翻弄されたセシリーの葛藤



U.C.0123.03

フロンティアIV

私はセシリー・フェアチャイルドです
ベラ・ロナではありません

入浴中にまで側に控える侍女たちに、あからさまな不快感を示すセシリー。侍女が語る貴族の義務に、違和感を抱いていた。

U.C.0123.03.16に起こったクロスボーン・バンガード(CV)のフロンティアIV襲撃によって、セシリーは戦火の中から逃避行を強いられた。そして、養父シオ・フェアチャイルドの手引きでロナ家に迎えられたセシリーは、ロナ家の長女ベラ・ロナとして周囲の者たちにかしずかれることになる。しかし、セシリーはそうした扱いに反発し、自らを市井に暮らしてきたひとりの少女だと語るのだった。

ロナ家から離れて育ってきたセシリーの目には、貴族主義を掲げるロナ家の在りようが異様に映ったことだろう。加えて、ロナ家はCVを組織してフロンティアIVを襲い、理想の下に流血を行った。戦場となったフロンティアIVを目の当たりにし、友人の死にも直面したセシリーにしてみれば、自らがそのようなロナ家の一員であることは受け入れ難かった。それゆえ、自分はベラではなくセシリーだと言い張ったのである。



U.C.0123.03

フロンティアIV

モビルスーツとは、とても柔らかないマシーンだと感じました



MSの基本動作を短期間でマスターしたセシリーに、ザビーネは賞賛の拍手を送る。その感性はザビーネをして本物と評された。

激変した状況に迷いを抱きながらも、他の選択肢を与えられなかったセシリーは、ベラ・ロナとして歩んでいくことになる。しかし、その思いとは裏腹に、CVの一員となってパイロットの訓練を受ける中で、才能を開花させていくセシリー。上達の早さはCV随一のエースパイロットであるザビーネ・シャルも感嘆するほどであり、ザビーネの評価に対するセシリーの独特の表現もその才能の片鱗を物語っていたのである。

ザビーネはのちに「あるがままを見ただけで、そのものの本質を洞察できるのがニュータイプ」と語っている。その見方に当てはめれば、MSというマシーンを「柔らかない」と感覚的に捉えたセシリーのセンスは、ザビーネにニュータイプを連想させるものだったのである。事実、セシリーはフロンティア・サイドの攻防戦の中で幾度となく鋭敏な感覚を見せた。その片鱗は、この頃からすでに現れていたのだった。



U.C.0123.03

フロンティアⅣ

お母様のおっしゃる自由は 逃げ回るための口実にしか聞こえません



10年振りに顔を合わせたセシリーたち親子。お互いの言い分をぶつけ合う両親の姿が、セシリーの目には醜悪に映ったのかもしれない。

セシリーは髪を切って過去の自分と決別し、連れ戻しに来たシーブック・アノーを拒んだ。そして、コスモ・バビロニアのアイドルとなることを覚悟し、ロナ家の一員としての務めを果たそうとする。そんなセシリーの前に、かつて自分を連れてロナ家から出奔し、これまで姿を消していた母ナディア・ロナが現れる。しかし、セシリーは自分を再びロナ家から引き離そうとする母を、冷然と拒絶するのだった。

死んだと思っていたシーブックが自分を迎えに来て、セシリーは手遅れと語ってその手を振り払った。ペラとしての自分を受け入れるしかない状況に追い込まれ、もはや戻れないと感じていたのである。それは、ナディアに対しても同じであり、先の言葉はその表れだった。しかし、そうした振る舞いに見えるロナ家の一員としての責任感もまた、本心を押し殺して状況に埋没するためのセシリーの口実だったと言えよう。

U.C.0123.03

フロンティアⅣ

私はまだ、セシリー・フェアチャイルドよ！



避難を余儀なくされたフロンティアⅣの子供たちの姿を見て、泣き崩れるセシリー。ロナ家の理想の犠牲を実感したのだろう。

CVは抵抗派が立て籠もるフロンティアⅠの制圧を目的とした作戦を展開し、セシリーはビギナ・ギナのパイロットとしてザビーネが率いる黒の部隊に随同行した。そして、コロニー内部でシーブックのガンダムF91と対峙し、相手が誰か知らぬまま激しい戦闘を繰り広げる。しかし、その戦いの中でふたりはお互いのことに気づき、セシリーはそれまで心に留めていた想いをシーブックにぶつけるのだった。

ペラ・ロナであることを一度は受け入れようとしたセシリーだったが、心のどこかには常に違和感があった。祖父マイツァー・ロナが語る貴族主義や父カロッゾ・ロナへの不信感に納得できなくとも、他に道はないという思い込みでそれを抑えていたのだろう。だが、シーブックとの再会がセシリーの本心を明らかにさせた。ロナ家に迎えられた当初の思いを、セシリーはまだ抱え込んでいたままだったのである。

U.C.0123.03.30

フロンティアⅠ宙域

仮面を着けなければ何もできない男性 それが世直しを言うなんて！



実の父を敵と断じ、叩かなければならないと語ったセシリー。その気負いはセシリーを戦いに駆り立て、窮地に追い込むことになる。

シーブックとの再会を機にロナ家と袂を分かったセシリーは、スペースアークに身を寄せてCVとの対決に臨んだ。その矢先に、フロンティアⅠの内部でバグによる大量殺戮に遭遇するセシリー。眼前で繰り広げられる惨劇が父カロッゾ＝鉄仮面が画策していた計画によるものと知ったセシリーは、シーブックと共に鉄仮面を討つことを決意する。そして、鉄仮面の弱さと欺瞞を責める言葉を口にするのだった。

ロナ家の一員として動乱に直面する中で、セシリーが明確な敵として認識したのが、実父であるカロッゾだった。マイツァーの理想の陰に隠れて、バグによる殺戮を躊躇なく行う人間性の欠如。そして、素顔を隠さなければ自らの弱さに向き合うことさえできない人間が地球圏の改革を唱える欺瞞に、セシリーは憤りを覚えたのである。それが実の父親であったことも、セシリーにとっては許せない現実だったに違いない。

MORE INFO!

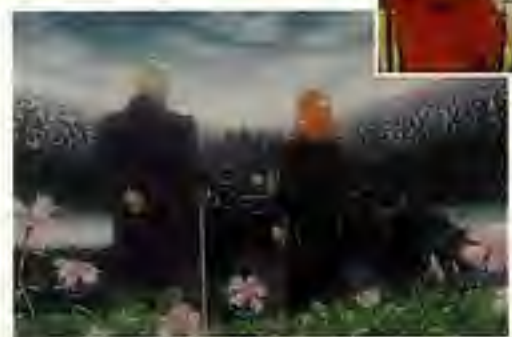
マイツァーへの共感

セシリーはロナ家で過ごした幼少期には祖父マイツァーによく懐き、フロンティアⅣでロナ家に連れ戻された以降も彼に敬意を払っていた様子が見られた。ロナ家とCVの行いに疑問を抱きながらも、改革を志すマイツァーの理想には共感を覚えていたのだろう。また、幼い頃から度々教えられていたマイツァーの貴族主義にも、ある程度の理解を示していた。しかし、それが原因で母がロナ家から出奔したことには複雑な感情を抱いていたようだ。

再会を果たしたマイツァーに、大衆のためのアイドルになることを請われるが、大それたことと語ってその場では辞退している。



貴族主義についてマイツァーと語り合うセシリー。セシリーは貴族主義の矛盾を指摘しながらも、マイツァーの志の高さは認めていた。



カロッゾとの関係

母ナディアがロナ家を出奔した理由のひとつに父カロッゾとの不和があったことから、セシリーは父に良い感情を持っていなかった。再会した際にはそれを責め、仮面を外すよう要求もしている。さらに、カロッゾの得体の知れない部分に募らせた不信感をザビーネに明かしたこともある。そうした積み重ねがCVとの決別によって噴出し、ラフレシアとの対決ではカロッゾを機械呼ばわりまでしていた。親子の間に刻まれた溝は、非常に深かったと言えるだろう。

セシリーは10年振りに再会した父の仮面姿に嫌悪感を露わにしつつ、母の心情を顧みなかった不義を責める。さらに、まったく動じないカロッゾに不信感を募らせていく。



血縁を自らの手で断ち切るという決意の下、カロッゾと対峙したセシリー。窮地に陥ってもなお、臆することなく父の非道を追及するのだった。

ロナ家の人々

The Ronah Family

PROFILE

年齢 69歳(マイツァー)、18歳(ドレル)
 所属 クロスボーン・バンガード(CV)
 階級 不明
 出身 不明
 技能 人心掌握(マイツァー)、MSの操縦(ドレル)



高貴なる理想を掲げ、 歴史の表舞台に出現した男たち

U.C.0123、マイツァー・ロナを頂点とするロナ家が提唱した「コスモ貴族主義」は、地球連邦政府による腐敗した政治基盤を一新すると同時に、地球圏の環境保全にも繋がる思想となるはずだった。理想を持たない人民や現政権に代わり、「高貴なる精神」を有する貴族階級による施政を確立する——その理想実現を目指してマイツァーは行動を起こし、彼の孫であるドレル・ロナは腐敗の連邦政府および連邦軍討伐の先頭に立ったのである。しかしこれは、裏を返せば貴族による寡頭政治に他ならない。そして人民の上に立つ者は、圧倒的なカリスマ性を発揮して人々を牽引しなければならない。惜しむらくは、マイツァーたちには理想実現に足るカリスマ性が不足していた。信念だけでは理想は実現できない——その意味を、彼らはのちに身をもって体験することとなる……。



自ら血を流すことを恐れない高貴な者が人類と世界を司るべきなのだ——その理念を胸にマイツァーは行動を開始した。

マイツァーの代わりに血で手を汚す役を買って出たドレルは、手始めにフロンティアIV襲撃を指揮。新政権の基盤作りに貢献を果たした。



「コスモ貴族主義」実現のため、
戦乱をも辞さなかった奸雄の矜持

CHARACTER ———— その人格

自らのカリスマ不足はマイツァーも自覚しており、出奔した娘の子供(ペラ・ロナ=セシリー・フェアチャイルド)を新政権のアイドルに仕立て上げようとした。完全な人間ではなくとも、己の能力を冷静に判断する力は有していたようだ。



聡明なペラを新体制の象徴として立てる一方、マイツァー自身は陰から支配力を行使しようと目論んでいたようだ。

RELATIONS



▲マイツァー・ロナ

▲ドレル・ロナ

関連ファイル

XM-04 ベルガ・ダラス	F91-01-09
セシリー・フェアチャイルド(ペラ・ロナ)	F91-02-02
鉄仮面(カロッゾ・ロナ)	F91-02-12
ロナ家の戦争準備	F91-03-01
コスモ・バビロニア建国宣言	F91-03-03
コスモ貴族主義	F91-03-12
ブッホ・コンツェルンとロナ家	F91-03-16

FILE PREVIEW

F91-02-02 セシリー・フェアチャイルド



フロンティア総合学園に通う女子学生。実はマイツァーの孫娘であり、素性を知らされた後は本人の意思とは関係なく、コスモ・バビロニアの王女として祭り上げられている。

MAIN MS

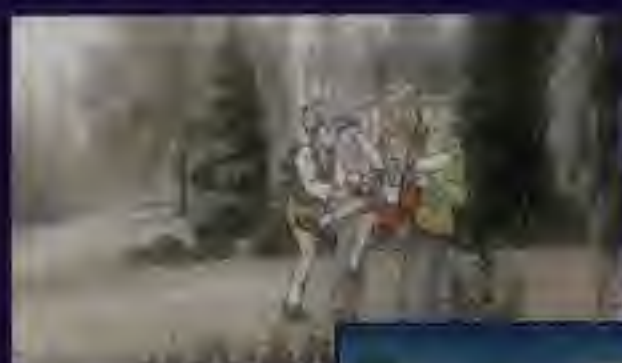


XM-04 ベルガ・ダラス

CVが独自に開発した指揮官用MS。CV機の中では比較的初期に開発されたもので部隊内の機種転換が急がれているが、ドレルは敢えて好んで、この機体に搭乗したとされている。

マイツァー・ロナ

コスモ貴族主義の確立とこの主義を基盤とする新たな国家(コスモ・バビロニア)建国を目指したマイツァーの動機は、人類種の保存にあったとされる。宇宙進出を果たしてもなお人類は過去のしがらみに囚われ、戦争を繰り返すと同時に地球圏を汚染していた。この歴史が惰性的に続く限り、人類の未来は閉塞したものになるだろう。だからこそ人類の営みを未来永劫に渡って継続させるには、高貴な精神を有する貴族が人の上に立たなければならないのだ——このような理想の上にマイツァーは行動を開始したのである。だが自らを貴族と定義した瞬間、導くべき人民との間に線を引いてしまったことにマイツァーは気付いていたのだろうか。旧世代の貴族が権勢を誇ったのは、被支配層である農民がさまざまな判断を貴族に委ねた結果である。だが宇宙世紀に生きる人々は個別の思想を持ち、トップダウンの指示がすんなりと受け入れられる土壌は作られていなかった。高みに目を向けるばかりに人民との乖離を見抜けなかったマイツァー。それだけに、彼の理想実現には初めから困難が待ち構えていたのである。



幼いドレルやペラと戯れるマイツァー。好々爺然とした光景だが、コスモ貴族主義に懸ける想いは、この頃からマイツァーの胸中に去来していたとされる。

マイツァーはひたすら純粋に、人類の未来のために理想を貫こうとした。彼にもう少しだけ柔軟な発想があれば、コスモ貴族主義は別の顔現を示したかもしれない。



ドレル・ロナ

マイツァーを貴族とするならば、その孫であるドレルはさしずめ「騎士」と称されるだろう。彼は政治に対する関心が薄く、マイツァーの理想推進のために障害を排除することを選んだのである。これはドレルの血統がロナ家の本流から外れており、初めから後継者として見なされていなかったことも影響しているようだ。それでも彼は自らの境遇に不平を漏らすこともなく、コスモ貴族主義を守護する矛であり盾である実働部隊CV(クロスボーン・バンガード)の武人となった。マイツァーの手足となり、コスモ貴族主義実現のために邁進する道に、貴族としての矜持を見出したのである。コスモ貴族主義の根幹を流れる思想「ノブリス・オブリージュ」は「高貴な者が帯びる義務」を示す言葉だが、まさにこの言葉を体現すべく、ドレルは戦場に向かったのだ。だが成り上がりと思ひ嫌われるザビーネ・シャルがマイツァーから厚く信頼されていると気付くや、対抗意識を剥き出しにしたドレルは戦功に逸ようになる。戦場に生きることを誓ったドレルではあったが、ロナ家の一員としてのプライドは捨て切れなかったのだ。



MSパイロットとしての技量は群を抜いており、フロンティアIV襲撃の際には連邦軍MS(ヘビーガン)を圧倒。ドレル大隊指揮官としての実力を内外に示すことに成功している。

実力に見合ったプライドの高さもドレルという人物を表す要素。戦場から凱旋する際には、機体にビームフラッグを高々と掲げ、コスモ貴族主義の正統性を訴えた。



- ① 69年の人生で体験した悲喜こもごもの感情、特に連邦政府への絶望感が、マイツァーの表情から伺える。そのため普段は温和だが、時折苛烈な思想家としての顔を覗かせることがあった。
- ② マイツァーの理想推進のためなら血を流すことも厭わないという決意を秘めたドレル。冷やかな視線から彼の胸中が窺えるというものである。
- ③ 戦場ではドレル大隊指揮官として、恐れを知らない勇猛果敢さを披露した。右目は前髪に隠れているが、MSの操縦に支障は出なかったようだ。
- ④ 連邦軍によるフロンティアIV砲撃時に見せたガウン姿。未明の事件だったにもかかわらず、身だしなみに気を遣う冷静さを保っていた。
- ⑤ 大隊長を務めるドレルだが、ノーマルスーツは一般兵用の装備を着用した。ただし右肩にはロナ家の紋章があらわれ、その出自を高らかに宣言している。



ドレルたちCVの活躍によってフロンティアIVは陥落。コスモ・バビロニアの首都とされた地に、マイツァーは満足げな顔で降り立った。



ペラを新政権のアイドルにする一方、マイツァーは自らの胸の内を彼女だけに語っている。聡明なペラを、コスモ貴族主義を受け継ぐ者と考えたようだが……。

市井で暮らしていたペラは、コスモ貴族主義の背後に見え隠れする過激思想の危険性に気付いたが、理想に邁進するマイツァーはそのことに思い至らなかった。



フロンティアIV襲撃の指揮を執ったドレルは、戦闘の最中、連邦軍MSに追尾されるペラを発見。これを見事に救出するという殊勲を挙げている。

続く戦闘でも連邦軍残存部隊を一掃。さらにコロニー建設用の核融合炉を擁するフロンティアIの占拠作戦でも活躍している。



しかしドレル大隊と双壁をなす「黒の部隊」(部隊長はザビーネ)の戦果を聞かされるや功に逸り、逆に僚機を撃墜されるという失態を演じている。

MORE INFO!

「戦場では一般市民は怖いと言って逃げ出してもいいが、貴族は血を流すことを恐れてはならない」——ペラとの会話の中でマイツァーは施政者としての「貴族」の有り様を語っている。民主主義を隠れ蓑に利権を貪る連邦政府関係者に対し、彼は施政者の権利と義務を明確にしたのである。だが彼の想いを曲解した者もいた。その筆頭に挙げられる人物がCV司令官の鉄仮面だ。地球環境の保全には余剰人口の間引きが必要と判断した鉄仮面は、無人兵器バグによる大量粛清を実施。コスモ貴族主義の理念を血に染めている。貴族以外の人民を無用視する——高貴に見えるコスモ貴族主義だが、その奥には深い闇を抱えている。



■ 鉄仮面 (カロッツ・ロナ)
マイツァーの娘婿としてコスモ貴族主義に傾倒。しかし妻を別の男に奪取られてしまい、それを恥じて仮面を着用するようになる。同時に強化処置を受け、エゴの拡大を図っている。

鉄仮面による粛清は留まるどころを知らず、いずれは地球や月にもバグを投入し、人類の9割を抹殺する算段だったと言われる。肥大したエゴがマイツァーの理想を捻じ曲げたようだ。



歴史
フォーカス

CBの活動と世界の動向

Global evaluation to CB
AD 2307世界的批判を浴びた
CBの武力介入

西暦2307年に武力介入を開始したソレスタルビーイング(CB)は、批判を浴びた。紛争根絶という理念はともかく、その達成手段を武力に求める矛盾が反発を招いたのである。三大勢力にとっても、各国の勢力圏内で武力を行使するCBは国家の権威を否定する存在であり、許容できるものではなかった。

上述の理由以外にもCBの活動は問題を抱えていた。代表的なものとしては紛争の発端となった各種権益の問題、また、ゲリラ・テロ組織の資金源となった資源や麻薬などから波及する問題である。

まず、CBの武力介入の結果、特定地域の紛争が終結しても、紛争の原因が解決されるわけではない。特に利権が絡んだ紛争では、戦後の利益調整がうまくいくとは限らず、紛争勃発以前の利益配分が固定されてしまう可能性は充分にある。CBの武力介入が、世界の不均衡を固定化してしまうのだ。

また、武力介入が、資金源を断つことも問題となり

えた。ゲリラ・テロ組織と結び付いていた国や地域が、輸出品を失って困窮するのは当然だが、世界情勢にも悪影響を与えかねないのである。

世界経済に大きな影響を与える貴金属や宝石の原石、レアメタルなどの供給源が、ゲリラ・テロ組織が運営する鉱山という事例は珍しくなかった。そうである以上、ゲリラ・テロ組織が打撃を受けたために、各種資源の供給が滞り、世界経済の混乱や連鎖的インフレが起こる可能性は無視できない。

CBが実施したタリビア共和国の麻薬農園焼却は、世論の支持を集めたが、これにも問題があった。麻薬農園が存在する地域は、収入を麻薬に依存しているケースが多く、麻薬農園の喪失が経済の破綻に直結する。一地域の経済破綻が、周辺に飛び火するのは時間の問題であり、ここでもCBの活動が弱者を苦しめてしまうのだ(こうした経済的弱者が、宇宙開発に強制従事させられた可能性もある)。

こうした事例は、世界が多大な犠牲の上に成り立っていることを認識させる効果はあった。だが、武力介入が自身の生活に悪影響を与える可能性に気付けば、人道主義者でなくともCBに否定的にならざるを得ない。武力介入するだけで、その先にある

新時代を示さないCBに対する苛立ちもあったかもしれない(そもそもイオリアの計画でのCBは、紛争解決後の世界を提示する存在ではなかったが)。

それでも紛争根絶のため、そしてイオリア計画における「人類の意思統一」のため、CBは武力介入を続けた。テロ組織の活動を助長することもあったが、CBの活動は効果を上げていく。だが、その道程は平坦ではなかった。

(レイモンド・ボグナイン A.D.2364)

関連ファイル

イオリア・シュヘンベルグ	00-02-23	■
イオリア計画の立案と実行	00-03-01	■
武力介入開始	00-03-02	■
西暦2307年の世界	00-03-31	■
私設武装組織ソレスタルビーイング	00-03-33	■
ユニオン/AEU/人類革新連盟	00-03-34	■
イオリア計画	00-03-39	■

FILE PREVIEW

00-03-39 イオリア計画



イオリアが立案した計画で、地球外生命体との接触「来るべき対話」を成し遂げるために、人類の意思統一を目指した。CBによる武力介入をはじめ、量子コンピューターの開発などが含まれていた。

大国による CBの利用

CBの出現と活動を受けた各国やテロ組織は、それぞれの思惑からCBに注目した。三大勢力によるガンダムの調査・鹵獲計画が代表的なものの、それ以外にもCBを利用しようとする動きが見られた。タリビア共和国への武力介入が、ユニオンにおけ

るアメリカの支配体制強化とタリビア政権の安泰に繋がった例、モラリア共和国への武力介入が、AEUの軍備増強とPMCTラストとの連携強化を促した例が知られる。CBによるテロ組織ラ・イデンラの殲滅も、三大勢力に利用されたという側面があった。



Illustration by AKIO UNUMA

1 タリビアへの武力介入

南米のタリビア共和国が、ユニオンからの脱退を表明すると共に、独自のエネルギー使用権を主張。ユニオンからの介入があった場合、軍力による排除を行うと伝えた。これに対してユニオンは、タリビアに軍を派遣。CBはタリビアを紛争援助国と断定し、3機のガンダムでタリビア軍を攻撃後、撤退した。結果、タリビアはユニオン脱退を取り消してアメリカに接近し、政権の安定化と反米勢力の封じ込めに成功。ユニオン参加国が反米政策を取り難くなったことで、アメリカも利益を得た。



ユニオン軍と交戦するが、武力介入を行わないかで注目されたCBは、タリビア軍を攻撃した。紛争の結果、アメリカとタリビアは共に利益を得た。

2 「天柱」での人命救助

人類革新連盟軍が、超兵器用新型MSティエレンタオツの性能実験を計画。実験場は、軌道エレベーター「天柱」の低軌道ステーション宙域だった。CBはその監視（場合によっては破壊）のため、ガンダム1機を派遣した。試験中、脳量子波の干渉を受けたティエレンタオツのパイロットが暴走し、搭載兵装を乱射。結果、低軌道ステーションの有人重力ブロックが切り離され、地球への落下コースに入ってしまった。CBはプランを変更して救助作戦を展開し、重力ブロックを落下コースから外した。



CBの目的や秘匿性を考えれば、重力ブロックは見捨てられるはずだったが、監視役のマスターの判断で救助が決定され、他のメンバーも支援した。

3 モラリアへの武力介入

欧州のモラリア共和国において、AEU、モラリア軍、民間軍事会社PMCTラストによる合同軍事演習「オペレーション・ドーン」が行われた。軌道エレベーターの完成と宇宙開発のため、AEUがPMCTラストの技術と人材を欲していたこと、PMCTの母体であるモラリアの経済が破綻しかかっていたため、その支援の必要があったことなどが演習の理由だった。合同軍事演習には130機以上のMSが投入されたが、CBの武力介入を受けたモラリア軍司令部は、非常事態宣言から5時間足らずで無条件降伏した。



ガンダム4機による武力介入を受けた合同軍は、MSの大半を喪失。しかし、AEUはモラリアおよびPMCTラストと密接な関係を築いた。

4 ラ・イデンラ殲滅

CBによる武力介入の中止と武装解除を求める国際テロ組織が、世界各地で同時爆破テロを起こしたうえ、要求が容れられない場合、無差別報復を続けると声明。CBは、テロ組織の正体が自然回帰主義組織ラ・イデンラであることを掴むが、放棄された拠点しか発見できなかった。しかし、三大勢力の諜報機関がラ・イデンラの情報ネットワークに流出させたことで、活動拠点と移動中の船をガンダムが攻撃、殲滅した。CBと三大勢力の利害が一致した、珍しい事例であった。



領土外のテロ拠点への攻撃が困難だった三大勢力は、CBを利用。MSや水中用MAすら装備したラ・イデンラだが、ガンダムの敵ではなかった。

MORE INFO!

西暦2300年頃のテロ組織

三大勢力が世界の大半を支配する時代にあっても、国際テロネットワークは活動しており、数百年の歴史を持つ組織も存在した。CBも三大勢力の視点ではテロ組織であり、武力介入はテロリズムと見なされていた。CBの武力介入や国連/地球連邦による世界統一の中で、テロ組織は消滅していくが、地球連邦の専政や独立治安維持部隊アロウズの出現が、新たな「テロ組織」を生むことになる。



ガンダムマスターの刹那・F・セイエイや、フェレシュに所属したフォン・スバークは元テロリストで、チャイルドソルジャーだった。

■ リアルIRA

4世紀近く散発的なテロ行為が続いていた北アイルランドのテロ組織。CBの活動を受け、武力によるテロ行為の完全凍結を発表。

■ KPSA

旧クルジス共和国のテロ・ゲリラ組織で、アザディスタン王国と戦った。アイルランドで爆破テロを起こしたこともある。

■ ラ・イデンラ

欧州を中心に活動した、自然回帰主義の国際テロネットワーク。世界各国で爆破テロを起こしたが、CBの攻撃を受けて壊滅。

■ ソレスタルビーイング

イオリア計画の一環として誕生した私設武装組織。三大勢力時代、国連・地球連邦時代を通じて、公にはテロ組織として扱われた。

■ カタロン

地球連邦政府の専政に対抗したレジスタンス組織。イノバードに支配された時代の地球連邦政府からは、テロリストと名指された。

MS
運用理論

GN粒子とGNDドライブ

MS Technology in AD

西暦のMSの技術

人類を革新に導いた
特殊光子とその生成機関

意識の伝達に代表される特性を持つ原初粒子であり、多様変異性フォトン（光子の一種）がGN粒子、それを発生させる動力機関がGNDドライブである。

GN粒子は、21世紀後期の時点でイオリア・シュヘンベルグが発見していた。意識の伝達をはじめとする諸特性もすでに判明していたが、西暦2307年のソレスタルビーイング（以下CB）による武力介入まで、GN粒子の存在は一般に知られなかったようだ（それでも、一部の科学者には24世紀初期の時点で多様変異性フォトン自体は知られていたようで、ユニオンのレイフ・エイフマン教授はガンダムが放つGN粒子とGNDドライブの理論に気付きつつあった）。

ほかにも、GN粒子は様々な特性を持つ。ECM効果、質量の増減、ビーム兵器や推進システムなどに利用可能な圧縮粒子、そして人類のイノベーター化である。これらの特性は「イオリア計画」における武力介入用機動兵器＝ガンダムの実用化、人類の相互

理解、そして異種生命体との接触を意味する「来るべき対話」において重要な意味を持っていた。

「太陽炉」と別称されるGNDドライブも、イオリアの業績の結実である。遅くとも西暦2091年の時点で、彼はGNDドライブの基礎理論を構築しており、イオリア計画の賛同者たちによって実用化が進められた。計画が秘密裏に行われたため人員や機材に制約があったこと、製造に木星の高重力環境が必要だったことなどから、開発には長い時間がかかり、23世紀初期に5基が、2314年に追加で2基が完成したに過ぎない（後に地球連邦も製造したが総数は不明）。

GNDドライブの製造は「宇宙の卵」ことトポロジカル・ディフェクトの採取から始まる。木星周辺に配置された6機のファクトリー衛星船の粒子加速器で加速されたトポロジカル・ディフェクトは、木星中心部に打ち込まれる。高エネルギー状態で高重力環境に置かれ、相転移直前の状態となったトポロジカル・ディフェクトは、GN粒子を無限に放出するようになる。これを「TDブランケット」と呼ばれる機材で封印し、粒子制御機能を付与することでGNDドライブが完成に至る。

こうして誕生したGNDドライブは半永久的なGN粒子製造機関で、「オリジナルのGNDドライブ」とも呼ば

れる。「オリジナル」と呼ばれるのは、他のタイプのGNDドライブが存在するためだ。

それが疑似太陽炉ことGNDドライブ[T]（タウ）である。CBの監視者にして造反者のコーナー一家が、独自に入手したGNDドライブのデータを基に製造させたものだ。オリジナルと異なり、放出する粒子量は有限だが製造が容易なため、地球連邦平和維持軍を中心としてMSやMA、艦艇の動力機関に多用された。（執筆者、執筆時期不明）

関連ファイル

GN-001 ガンダムエクシア	00-01-02
GNT-0000 ダブルオークアンタ	00-01-19
GNX-603T ジンクス	00-01-26
イオリア・シュヘンベルグ	00-02-23
ツインドライブシステム	00-03-26
イオリア計画	00-03-39
イノベーター	00-03-46

FILE PREVIEW

00-03-46 イノベーター



イオリアが出現を予見した「進化した人類」の姿。脳量子波による意識共有をはじめ、空間認識能力の拡大などの特性を持つ。イノベーターとして覚醒したCBの刹那・F・セイエイは「来るべき対話」を成し遂げた。

GN粒子の特性

イオリアが発見したGN粒子は原初粒子のひとつで、多様変異性光子、つまり光子の一種または亜種として知られている。粒子の状態によって特性が変わる場合もあるが、意識の伝達という極めて特殊な効果を持つうえ、質量を増減させるなど物理学上の特筆すべき効果も示す。他にも質量がゼロ、熱を発さないといった特性があるようだ。



技術上の制約は多かったが、GNドライブ搭載機の量子化や量子ジャンプ(テレポート)すら可能とした。

意識(脳量子波)の伝達

GN粒子は、意識や思考を他人に伝達する媒介となる。粒子濃度がゼロ、または薄い状態では脳量子波レベルが高い者のみとなるが、高濃度状態では万人が意思疎通可能だ。



トランザムライザーやダブルオークアンタが形成する意識共有領域は、イノベーターでなくとも容易に意思伝達を可能とする。

ECM効果

GN粒子は電磁波を阻害し、レーダーや無線通信を使用不可能とする。電子装置に障害を起こすことでも知られる。このため、GNドライブ搭載機の周囲には通信遮断領域が展開される。



ガンダムスローネードのGNステルスフィールドは、広大な通信遮断領域を形成する。少なくとも数百kmの範囲をフォロー可能。

質量増減効果

物体の質量(重量)を減らしたり、逆に増やしたりできる。質量の軽減効果により、MSなどの軽量化を図る例が多い。質量増加の利用例としては、MS用兵装のGNハンマーがある。



本来は極めて大量のガンダムヴァーチェだが、質量軽減効果によりユニオンフラッグ以下の66.7%にまで軽量化された。

イノベーターへの覚醒

人類のイノベーター化を促す。本人の資質に加え粒子濃度が高い(浴びる粒子量が多い)ほど、覚醒の可能性が高まるようだ。刹那・F・セイエイが覚醒したのは、このためである。



トランザムバーストの影響で覚醒したというイノベーター、デカルト・シャーマン。刹那と同じく初期のイノベーターだ。

圧縮粒子の利用

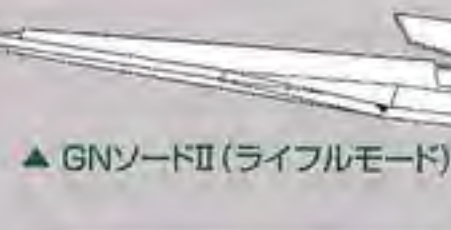
目視可能なほど圧縮されたGN粒子は、通常とは異なる特性を持つ。多くは物理的な振舞いによるもので、ビーム兵器や防御障壁、推進器などに転用できる。ただし、GN粒子で刃を包み威力を高めた実体剣のGNソードや、GNフィールドを展開して防御力を向上させたGNシールドのように、不可視のGN粒子でも近い効果を得られる場合もある。



GN粒子の輝きは、光子の崩壊現象によるもの。特別に圧縮されていなくとも、緑や赤などに輝く。

圧縮粒子兵器

圧縮したGN粒子は、高火力のビームや格闘兵装のビーム刃として使用できる。通常のGN粒子は熱を発さず、質量もゼロと思われるが、ビーム兵装として使用可能なほど圧縮した場合、高熱と質量を得る。ただし、ビームの速度は光速を大きく下回る。



▲GNソードII(ライフルモード)



圧縮粒子を充填した実体弾式兵器(砲弾やミサイル)もある。命中時に粒子を噴射、爆発することで大きな破壊力を生む。



多くのMS用ビーム兵装は手持ち式でコンパクトだが、威力は実体弾式より遥かに高く、通常のMSなら一撃で撃破可能。

GNフィールド

全周囲あるいは特定箇所に圧縮粒子を展開することで、高防御力の障壁(バリア)とする。ビーム/実体弾を問わず防御力を発揮するが、実体式の格闘攻撃には貫通される可能性がある。圧縮率が判明しても貫通される。



全周囲に展開するGNフィールドは、死角のない防御が可能。全周囲式を持つ機体は少なく、多くはシールド上などに展開する。



GNスラスタ/GNバーニア

GN粒子を噴射することで推進力を得たり、姿勢を制御したりする技術。旧来の推進器と比べて、推力比が極めて大きい(小型かつ大推力にできる)。粒子の圧縮率はビーム兵器より遥かに低く、噴射時に熱も発生しない。



ダブルオーガンダムやジンクスなどに見られる、GNドライブ直結式のコーン型構造物が推進器。腰部、脚部に配置されることもある。



GNドライブ(太陽炉)

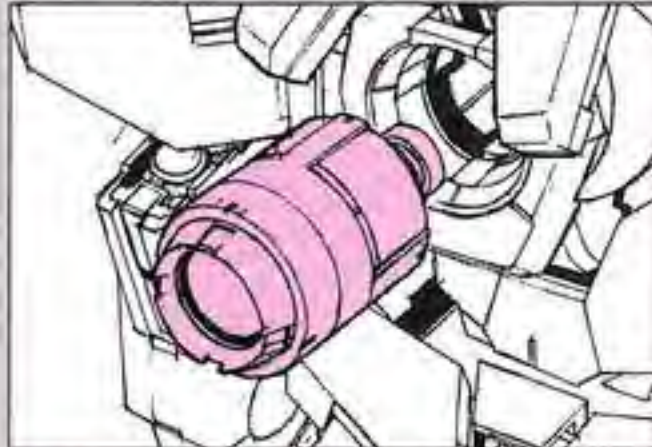
GN粒子を発生させる機関が、GNドライブ(GUNDAM NUCLEUS DRIVE=ガンダム中核ドライブ)である。太陽炉という別名は「光を生み出し続ける炉」であることから付けられた。トポロジカル・ディフェクトを利用した粒子発生量無限大のGNドライブの他に、電気をGN粒子に変換するGNドライブ[T]がある。



オリジナルのGNドライブは極めて少なく、ほとんどがGNドライブ[T](疑似太陽炉)であった。

GNドライブ(オリジナル)

イオリアの基礎理論に沿って開発されたGNドライブ。「オリジナルのGNドライブ」と呼ばれ、半永久的にGN粒子を発生させる。相転移直前のトポロジカル・ディフェクトにより、一旦稼働すると半永久的に動き続ける。



ダブルオークアンタのGNドライブ
背中に挿入される筒状の部品がGNドライブ。最小限の構成のようで、シンプルな外見が特徴。



西暦2312年以降の紛争で運用されたガンダムのGNドライブは、第三世代ガンダムと同じ。補機、搭載位置などは変更された。

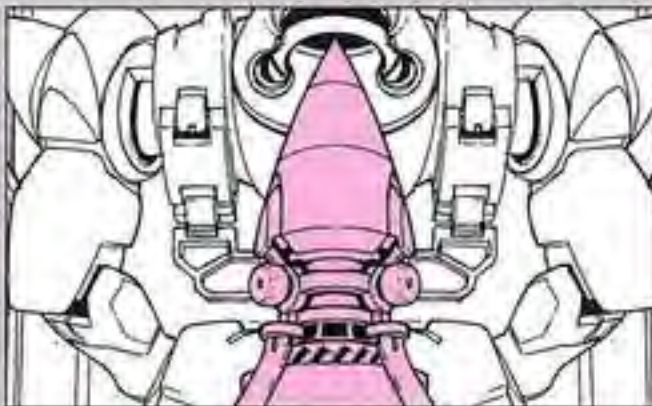


GN-001
ガンダムエクシア

西暦2307年の紛争に投入された第三世代ガンダムの1機。胸部搭載のGNドライブは、後部にコーン型スラスタを接続している。

GNドライブ[T](疑似太陽炉)

GNドライブのデータを手に入れたコーナー家が開発・製造させたタイプ。理論的には、電気をを用いたGN粒子変換機である。TD(トポロジカル・ディフェクト)ブランケットを持たず粒子発生量は有限だが、生産性が高い。当初有害だった圧縮粒子ビームは後に無害化された。



ジンクスのGNドライブ[T]
コーン型のパーツにGNドライブ[T]が接続されている。始動には、別個にスターターが必要である。



ガデッサなどのイノベイド用機動兵器が搭載するタイプは高性能で、オリジナルのGNドライブに迫る性能を持っていた。



GNX-603T
ジンクス

GNドライブ[T]搭載の量産仕様機。西暦2308年、初めて使用された。GNドライブの搭載位置は、当時標準的だった胸部。

GNコンデンサー(粒子貯蔵タンク)

GNドライブではなく、GN粒子を貯蔵する機器。大容量モデルはGNドライブの代わりに使用できるが、稼働時間は短い。GNドライブの不足に悩んだCBが、西暦2312年頃からGNドライブの代用品としてMSに搭載したが、地球連邦平和維持軍は興味を示さなかった。



Oガンダム(実戦配備型)の超大型GNコンデンサー
GNドライブの代わりに搭載した大容量モデルで、いわばGN粒子のバッテリー。推進器が一体化している。



大型GN粒子貯蔵タンクを搭載するガンダムデュナメスリベア。エクシアリベアIII、ケルディムガンダムサーガなども搭載。



GNR-101A
GNアーチャー

超大型GNコンデンサーを搭載する可変式支援機。CB製。超大型GNコンデンサーは胴体内に格納されており、露出はしていない。

GNドライブと系列機器の違い

	GNドライブ(オリジナル)	GNドライブ[T](疑似太陽炉)	GNコンデンサー(粒子貯蔵タンク)
粒子発生量	無限	有限	有限(貯蔵した粒子量による)
出力	高出力	基本的にオリジナルと同等	タイプによるが最大でオリジナルと同等
粒子の色	緑	赤/オレンジ	貯蔵した粒子による
圧縮粒子の毒性	無害	有害(後に無害化)	貯蔵した粒子による
トランザム	可能	不可能(後に可能)	不可能(後に可能)
生産性	低(高重力環境が必要)	高	高

トランザム

蓄積された高濃度圧縮粒子を全面解放することで、スベックの3倍相当の出力を発揮できる特殊モードが、トランザム・システム (TRANS-AM SYSTEM) である。システムはGNDライブのブラックボックスに隠されていた。



トランザム発動時、全面解放された粒子の影響で機体が赤く光る。イオリア計画で反逆者が出現した場合、使用可能となるシステムであった。

トランザムのメリット→3倍のスベックを発揮

GN粒子を全面解放することで、通常時の3倍に相当する出力を発揮する。単純なパワーやスピードだけでなく、粒子ビーム兵器の出力やセンサー性能なども向上するようになった。



トランザム時、超精密射撃用のフォロースクリーンが使用可能になるケルディムガンダムなど、特殊な機能が付与されるケースもある。

トランザムのデメリット→制限時間

蓄積したGN粒子を全面解放するため、短時間で粒子を使い切り、トランザムが強制解除されてしまう。トランザム中に被弾した場合も、強制解除されてしまうことがある。



当初は粒子を使い切るまでトランザムが続いたが、西暦2312年以降のガンダムは任意のタイミングで解除可能となった。

トランザムのデメリット→使用後のパワーダウン

粒子残量の都合上、トランザム解除後は著しくパワーダウンしてしまう。強制解除後の性能は、通常時以下である。オリジナルのGNDライブをもってしても、粒子の回復は容易ではない。



第三世代までのガンダムはトランザム終了が即パワーダウンに繋がったが、再始動後のCBのガンダムは極端な出力低下は回避できた。

トランザムのデメリット→対応GNDライブの制限

当初、トランザムはオリジナルのGNDライブ専用のシステムだった。その後、イノベイドやアロウズがGNDライブ [T] で、CBがGNコンデンサーでのトランザムを可能とした。



GNDライブ [T] によるトランザムは、解除後にドライブが破壊された。イノベイド用以後はこの欠点が解決された可能性がある。

ツインドライブシステム

2基のGNDライブを同調させることで、二乗量のGN粒子を発生させるのがツインドライブシステムである。イオリアが想定したシステムのひとつであり、その理論はトランザムと共にCBにもたらされた。搭載兵器の性能を飛躍的に向上させるが、その真価は膨大な粒子量による人類のイノベーター化と意識共有領域の形成にある。

二乗量のGN粒子発生

2基のGNDライブを同じ機体に搭載し、同調させることで二乗量のGN粒子を発生させる。GNDライブ1基の出力を10と仮定した場合、単にドライブ2基を搭載するなら出力20だが、ツインドライブシステムでは出力が100になる。ツインドライブシステム搭載機がトランザムを使用した場合、3倍を大きく上回る出力を発揮し、粒子放出は理論値を超える。



システム稼働時には突出した出力を発揮する。トランザムライザーは超巨大ビームサーベルの「ライザーソード」を展開可能。

意識共有領域の形成

トランザム状態のツインドライブシステム搭載機は、意識共有領域を形成する。意識を伝達するGN粒子の特性と、ツインドライブシステムおよびトランザムによる膨大な粒子放出量が可能とした。イノベーターのみが稼働できるトランザム・バーストやクアンタム・バーストは、高純度のGN粒子で広大かつ濃密な意識共有領域を形成するだけでなく、共有領域内の人間がイノベーター化する可能性を高める。



トランザム状態になるだけで意識共有領域を形成しうる。イノベーターの脳量子波との組み合わせは異種生命体との対話すら可能となる。

その他/システムの安定化装置

初期のGNDライブは、ツインドライブシステムでの同調に難があった。GNDライブには「個性」と呼べるほどの個性差があったことなどから、相性がいいドライブ同士でも、ダブルオーガンダムのツインドライブシステムは安定稼働しなかった。そこで、支援機オーライザーにツインドライブ用安定機構「ライザーシステム」を搭載、ダブルオーと合体させることで完全稼働に至った。



ダブルオーガンダムはオーライザーやGNバスターソードIIなどの安定機構を必要としたが、ダブルオーアンタでは不要となった。



疑似太陽炉、GNコンデンサーによるツインドライブ

オリジナルのGNDライブ用だったツインドライブシステムだが、トランザム同様、GNDライブ [T] とGNコンデンサーでも可能となった。GNDライブ [T] によるものはツインドライブシステムのデータを入手したイノベイドが、GNコンデンサーによるものは西暦2312年の紛争後にCBが実現した。一部効果がオリジナルと異なるようだ。



GNDライブ [T] のものはリボーンズガンダムが、GNコンデンサーのものはGNドライブ喪失後のダブルオーライザーが搭載した。

ツインドライブシステム採用機

複数のGNDライブを搭載する機体は存在するものの、ツインドライブシステムを備える機体は極めて少なく、CBのダブルオーガンダムとダブルオーアンタ、イノベイドのリボーンズガンダムの3機しか確認されていない。性能を十分に引き出せるイノベーターとGNDライブが極めて少なかったこと、ヴェーダが関連情報を漏らさなかったことが大きな理由だろう。



リボーンズガンダムはリボーンズキャノンに変形する。非ツインドライブ機のリボーンズガンダム オリジンの改造機にあたる。



GN-0000
ダブルオーガンダム

GNT-0000
ダブルオーアンタ

史上初のツインドライブシステム搭載機。「世界を変える機体」と呼ばれるが、システムは不安定だった。

純粋種イノベーター、刹那・F・セイエイの専用機。ツインドライブ用の新造GNDライブ2基を搭載。

MORE INFO! 複数のGNDライブを搭載する機動兵器

ツインドライブシステムにこそ対応しないが、2基以上のGNDライブを搭載する機動兵器も存在する。高出力化を目指した結果だが、高コスト化や操縦の困難化などの弊害があるため普及せず、一部の高性能機が採用したに過ぎない。



三連直列式のGNDライブ [T] を2セット搭載したガデラーザ、3基のGNDライブ [T] を持つトリロバイトなど、MAでの採用例も目立つ。



アルヴァターレ&アルヴァアロン
MAアルヴァターレに7基、格納されたMSアルヴァアロンに1基、計8基のGNDライブ [T] を備える。



アルケーガンダム
背部に1基、各脚部に1基、計3基のGNDライブ [T] を搭載。

ブレイヴ指揮官用試験機
腰部左右のバインダーに1基ずつ、計2基のGNDライブ [T] を持つ。マスラオ、スサノオも同様。

イオリア計画におけるGN粒子とGNドライブ

イオリア計画は、戦争による人類の絶滅を回避しつつ、人類のイノベーター化を含む相互理解と意思統一、宇宙進出と「来るべき対話」を見据えた、数百年単位の大プロジェクトである。そのイオリア計画におけるGN粒子とGNドライブは、極めて重要なファクターだった。GNドライブは紛争根絶を目的とする武力介入用機動兵器ガンダムの動力機関として、GN粒子は人類の相互理解やイノベーターへの覚醒において重要な位置を占めていたのだ。

GN粒子とGNドライブは、イオリアによる発見と基礎理論の構築を原点とする。だが、イオリア自身はまず紛争根絶と相互理解を望んだようで、ツインドライブシステムは保険としての意味合いが強かったと思われる。



人類がイノベーターに進化する潜在能力を秘めていることは、当初から判明していた。GN粒子はそれを促進するものだった。

紛争根絶はイオリア計画の第一義だった。その意味では、ガンダム用動力炉としてのGNドライブの方が優先順位は高かった。



I GN粒子の発見とGNドライブの基礎理論構築

21世紀後期、イオリア・シュヘンベルグ博士が、人間の意識を伝達する原初粒子を発見し、それを発生させる半永久機関の基礎理論を構築した。これがGN粒子とGNドライブである。後の研究で、トランザムやツインドライブシステムの理論も打ち出された。



軌道エレベーターの提唱者でもあったイオリアは人類の相互理解を望み、GN粒子とGNドライブを利用したイオリア計画を立案した。

III ガンダムの開発

GNドライブを受領したCBとヴェーダは、機動兵器ガンダムの開発に着手した。紛争根絶のための武力介入に投入する機体だ。23世紀後期には第1世代ガンダムと第2世代ガンダム各機が完成。24世紀初頭には、武力介入用の第3世代ガンダムがロールアウトした。



第一・第二世代のガンダムは技術開発や武力介入のテスト用であり、第3世代機が実戦に投入された。GNドライブを基幹とする性能は圧倒的だった。

II GNドライブの製造

イオリアの意志を受けてCBが誕生し、計画に共鳴した科学者たちがGNドライブの開発と製造を進めた。22世紀末期に木星でGNドライブの製造が開始され、23世紀前期には5基のGNドライブが完成した。完成したGNドライブは、すべて地球圏のCBに送られた。



開発拠点となった木星探査船エウロパ。GNドライブ完成後、科学者たちはエウロパごと抹殺された。その中にはリボンズタイプのイノベイドもいた。

IV 武力介入と世界の変化

西暦2307年に始まったCBの武力介入は、イノベイドによる計画乗っ取りという不測の事態に見舞われたが、紛争を減少させ、地球連邦の誕生による人類の意思統一も大筋で叶えられた。その後、イノベイドは倒され、ツインドライブを契機に人類の覚醒も始まった。



圧倒的高性能機であるガンダムの出現は、紛争を確実に減少させた。イノベイドの暗躍は、ツインドライブシステムの実用化を促すことにも繋がった。

オリジナルGNドライブの変遷

CBが製造したオリジナルのGNドライブは、確認されている限り7基のみである（当初5基が、西暦2312年の紛争後、追加でツインドライブ用の2基が建造された）。製造数が少ないのは、生産性が著しく低かったことが主な要因だ

が、大量生産による他組織への流出を防ぐ意味もあった。各GNドライブは時期によって搭載されたMSが異なるが、戦闘で失われた個体も存在する。MSとGNドライブ各基の組み合わせは、ドライブの「個性」を鑑みて決められたようだ。



西暦2364年時のワークローダー、サキブレに搭載されたオリジナルのGNドライブは、地球連邦が新規に建造したものだという。

■ オリジナルのGNドライブの変遷

	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	7号機
23世紀初期	完成	完成	完成	完成	完成	—	—
23世紀後期 ～24世紀初頭	0ガンダム ガンダムアルテミー、ラジエルガンダム、1ガンダム、GNキャンオン	ガンダムアストレア	ガンダムサダルスード	ガンダムアブルホール	ガンダムブルトネ ガンダムヴァーチェ フィジカル	—	—
2307年～	フェレシュテに移管 第2世代ガンダム各機	ガンダムエクシア	ガンダムデュナメス	ガンダムキュリオス フェレシュテが回収 ガンダムサダルスード タイプF	ガンダムヴァーチェ (ガンダムナドレ)	—	—
2312年	CBに返還 ダブルオーガンダム(テスト) ダブルオーガンダム リボンズ・アルマーウが奪取 0ガンダム(実戦配備型) 喪失	ダブルオーガンダム ガンダムエクシア リベアII 喪失	ダブルオーガンダム(テスト) ケルディムガンダム	CBに返還 ダブルオーガンダム(テスト) アリオスガンダム	ダブルオーガンダム(テスト) セラヴィーガンダム (セラフィムガンダム) 喪失	—	—
～2314年	—	—	ダブルオーガンダム セブンソード/G(3、4号機のうち、1基のみ搭載) ガンダムサバーニャ	ガンダムハルット	—	完成 ダブルオークアンタ	完成 ダブルオークアンタ

※GNドライブ各機の名称は仮のもの。機体名は搭載されたMSで、推測/未確認を含む

SCIENCE
Key Word

GN粒子の制御

GNドライブ搭載機は、機体外に放出したGN粒子を制御するための装置を持つ。そのひとつがクラビカルアンテナ、またはそれに相当するデバイスである。GN粒子による姿勢制御、GNフィールドの操作などを司る。



首元に設置された、2基のブレード状構造物がクラビカルアンテナ。他のガンダムも搭載した。



胸部と腰部から、X字に伸びているのがGN粒子発生装置。クラビカルアンテナの機能も持つ。



マスラオ、スサノオは頭部に強化発展型のクラビカルアンテナを持つ。ビームチャクラムを発射可能。

MORE INFO! MS/MA以外のGNドライブ搭載機

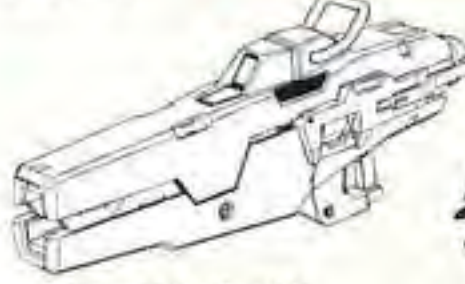
GNドライブが普及すると、MSやMA以外にもドライブを搭載する兵器が増えた。艦艇への搭載例が顕著だが、GNドライブを持つMS/MA用兵装も出現した。ソレスタルビーイング号のGNレーザーもGNドライブを直接使用する。



特殊な使用例として、通信妨害用に設置されたGNドライブがある。反地球連邦組織の連携を断つため、中東などに設置。



ガデラーザ用大型GNファンング
ガデラーザに14基搭載。GNドライブ[T]を持ち、小型GNファンングを10基搭載。



ラファエルガンダム
ドミニオンズ用GNバズーカ
ヴァーチェ用GNバズーカの改良型。後部にGNドライブ[T]を搭載する。



トリニティ艦
チームトリニティの母艦。GNドライブ搭載艦としては、最初期のタイプである。

宇宙世紀
ガイド

ブッホ・コンツェルンとロナ家

Organization in U.C.

宇宙世紀の組織・勢力

人類の革新を志した一族と その基幹企業

宇宙世紀の名家のひとつにブッホ・コンツェルンの創業者一族、ロナ家がある。私設軍クロスボーン・パンガード(以下CV)を編制し、コスモ・バビロニア建国戦争を引き起こしたことで知られる。元々のロナ家は旧世紀から続く欧州の名家だが、宇宙世紀のロナ家との間に血縁関係はないようだ。ロナ家の名は、ブッホ・コンツェルンの創始者シャルンホルスト・ブッホが、U.C.0068に買い取ったものだった。

ロナ家が、歴史ある家名を買い、地球圏が安定していたU.C.0120年代に戦乱を起こした背景には、彼らなりの世界への不満があった。

10代でジャンク屋となり、U.C.0055にブッホ・ジャンク・インクを創業、その後、短期間でブッホ・コンツェルンを設立したシャルンホルストは、自身の業務の中で地球圏の現状と人類に疑問を感じるようになった。人口増加と環境破壊から人類および地球を守るために実施された宇宙移民が、汚染の拡大再生産に

繋がる現実に気付いたためである。既得権益の維持拡大に明け暮れる地球連邦政府、それを後押しする官僚組織やコロニー公社をはじめとするNGO、そして環境問題を顧みずに消費とジャンクの排出を続ける人類そのものが、シャルンホルストの不信を招いたのだ。

人類総体の腐敗と墮落を確信したシャルンホルストは、問題の原因を平等論や自由主義に求めた。シャルンホルストをはじめとするロナ家にとって、人類の欲望に端を発する平等論や自由主義、絶対民主主義の牙城である地球連邦政府は否定されるべきものだった。自身だけでなく、他人にも厳しいシャルンホルストの人となり、そうさせたのかもしれない。

これを受けて、シャルンホルストの次男マイツァー・ロナが示したのがコスモ貴族主義である。コスモ貴族主義とは、人類存続のため「高貴な精神を持つ者」による統制社会を目指すもので、ロナ家の根本思想となった(ロナ家の家名買収も同様の文脈上にあるもので、虚栄心とは一線を画していた)。

長男を政界に送り出し、次男にブッホ・コンツェルンを継がせたシャルンホルストの死後、次男マイツァーを筆頭とするロナ家は、コスモ貴族主義実現

のための活動を加速した。それは、連邦議員となったマイツァーの息子による「地球保全法案」の提出、コスモ貴族主義の浸透を担うコスモ・クルス教団の設立といった平和的手法だけでなかった。コスモ貴族主義国家「コスモ・バビロニア」の建国を目指すコスモ・バビロニア計画、私設軍CVの編制、人類粛清計画に変貌した「ラフレシア・プロジェクト」の準備など、軍事力に依存する計画も並行して進められた。その中心となったのはブッホ・コンツェルンだった。

(ナイト・マンカッド U.C.0154)

関連ファイル

鉄仮面(カロッツ・ロナ)	F91-02-12	■
ロナ家の人々	F91-02-13	■
ロナ家の戦争準備	F91-03-01	■
クロスボーン・パンガードのMS開発	F91-03-08	■
コスモ貴族主義	F91-03-12	■

FILE PREVIEW

F91-03-12 コスモ貴族主義



ロナ家の掲げた思想で、「高貴な者にはそれに伴う義務がある」ことを体現したものとなる。この考えに則り、ロナ家はコスモ・バビロニア建国戦争を引き起こした。

ロナ家の一族と理念

「ビッグ・ブッホ」ことシャルンホルスト・ブッホ（ロナ）に始まるロナ家は、地球圏と人類の革新を志した一族であり、シャルンホルストの次男マイツァーの時代に入ると、コスモ貴族主義国家「コスモ・バビロニア」の建国に動いた。シャルンホルストが創業したブッホ・コンツェルンも、目的達成のための機関となっていた。



シャルンホルストの遺志を継いだマイツァー・ロナ。U.C.0120年代までのロナ家の当主であった。

■ ロナ家の目的

ロナ家が目指したのは、人類の永久的な生存である。シャルンホルスト以来、ロナ家は人類全体の腐敗と墮落を感じ、自滅を防ぐための世作りを目指した。その一段階として、地球圏規模でのコスモ貴族主義の実践が志向されたが、裏では人類の間引きを容認していた。



ロナ家上層部は個人という末端の生死は重視しない。人類の9割を不要と見做し、虐殺しようとしたのはこのためである。

■ ロナ家と周辺組織の関係図

ロナ家の血脈に連なる者の多くはコスモ貴族主義に共鳴し、政界・財界・宗教界など多方面でシャルンホルストの理念の実現を目指した。もっとも、全員がコスモ・バビロニア計画の全貌を知らされていたわけではなく、コスモ貴族主義に反対の立場を取る者もいた。



ロナ家に嫁入りしたカロツォもマイツァーに賛意を示し、CVの指揮やラフレシア・プロジェクトを進めた。



ブッホ・コンツェルンの位置付け

ブッホ・ジャンク・インクから発展したブッホ・コンツェルンは、業務で培ったノウハウやアナハイム・エレクトロニクス社などとの取引を活かし、事業を拡大した。CV向けMSの開発は事業拡大の中で可能となったもので、職業訓練学校はCV将兵の選出や基礎訓練にも利用された。ブッホ・コンツェルンはコスモ・バビロニア計画の中心だったのだ。



傘下企業や職業訓練学校で見出された若者は、連邦軍士官学校などで軍事教練を受け、CVの戦力になった。



ブッホ・コンツェルンの関連組織

ブッホ・コンツェルンは内外に関連組織を多く持つ。内部組織は傘下企業や職業訓練学校などで、コスモ・バビロニア計画やCVにおける装備や人材の調達に関与した。コスモ・バビロニアやCVの後方支援組織と言っている。外部組織はロナ家の理想を実現するための「尖兵」であり、コスモ貴族主義の実践や普及、反対勢力の排除を行う。

ブッホ・エアロダイナミクス

ブッホ・コンツェルンの傘下企業。軍用MSの開発／製造能力を持つ。CV用MSの原型機デッサ・タイプを開発し、デナン・シリーズなどを製造、CVに納入。



コスモ・バビロニア

コスモ貴族主義を掲げる宇宙国家。首都コロニーはコスモ・バビロン。U.C.0123、フロンティア・サイドに建国されたが、短期間で崩壊した。



クロスボーン・バンガード

コスモ・バビロニアの建国や、反対勢力の排除を担う私設軍。将兵および兵器の質は地球連邦軍を上回った。後にペラ・ロナの指揮下で木星帝国と戦った。



ブッホ・ジャンク・インク

ブッホ・コンツェルンの前身。スペースジャンクの回収、資源小惑星の確保・移送などが業務。ブッホ・コロニーの改修にも参加したと思われる。

ブッホ・エアロマシン

ブッホ・コンツェルンの傘下企業のひとつ。小型MSを含む、機動兵器の開発能力を持つ。ショット・ランサーやビーム・シールドも実用化した。

コスモ・クルス

一般人にコスモ貴族主義を広めるための宗教団体で、教義もそれに準じる。サイド1のロンデニオンに神殿が建設された。シェリー・ロナが参加。

職業訓練学校

U.C.0081.03.14、利益の公共還元のためブッホ・コンツェルンが設立。コスモ貴族主義に同調した将来性ある生徒は、CVに勧誘されるようになった。

MORE INFO!

宇宙世紀の名家

ロナ家以外にも、名家と呼ばれる家系は多数存在する。旧世紀以来の名家、宇宙世紀に入ってから名家など、名声や実力を得た時期は様々だが、地球圏の政治経済に与える影響は極めて大きい。ヤシマ家、カーバイン家などが有名である。



サイド3系だけでも、ダイクン家、ザビ家、カーン家、サハリン家、ラル家、ト家などが知られる。



リカルド・マーセナス
政治家一族として知られるマーセナス家のひとり。地球連邦初代首相。「ラプラス事件」で死亡した。



サイアム・ビスト
「ラプラスの箱」を保有し、地球連邦政府に絶大な影響力を持つ一族の長。「箱」の譲渡、解放を目指した。

機動戦士ガンダム00

TIMELINE

AD 2312

CB、再降臨

国連軍との壮絶な戦いによって姿を消したCB（ソレスタルビーイング）。とはいえ紛争根絶を願う彼らが滅び去ったわけではなかった。最終決戦から4年の歳月が過ぎ去った西暦2312年。世界に再び混乱の予兆が現れた時、生まれ変わったCBが降臨を果たすことになる。

AD 2312

沙慈、アロウズに拘束される

CBとの決戦後、世界は地球連邦政府に統合され、平穏が約束されたかに思われた。だが統合政策を推進するために連邦政府は独立治安維持部隊「アロウズ」を組織。これ



宇宙技師となった沙慈・クロスロードはコロニー・ブラウドの建造業務に携わっていた。だがある日、アロウズに身柄を拘束されてしまう。

に反発する反連邦グループ「カタロン」との間に衝突が絶えなかった。そんな折、カタロンの支部長クラウド・グラードは、拘束された仲間を救うために、ある作戦を実行に移す。



コロニー・ブラウドの高重力工業区画には極秘裏にカタロン構成員が拘束されており、カタロンとは無関係の沙慈も強制労働を強いられることになった。

AD 2312

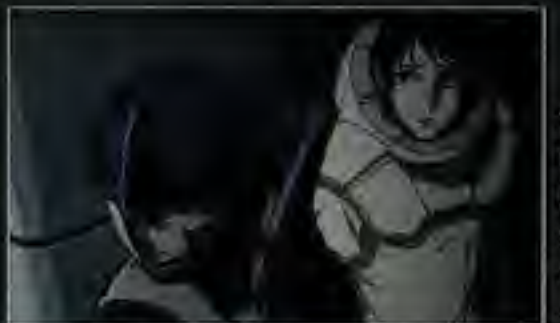
ガンダムエクシアリペア、戦闘に介入

カタロンの計画はアロウズに漏洩しており、事態を重くみたアロウズ准将アーサー・グッドマンは巡洋艦とMS部隊を派遣。さらにコロニー・ブラウド内に自動殺戮兵器オー



仲間を救おうとするカタロンに対し、アロウズはオートマトンの投入を決定。拘束者を含むカタロン全員の口封じを図ろうとする。

沙慈もオートマトンに追われ、危うく命を落とそうになる。するとその場に謎の人物が現れ、訝る沙慈の窮地を救ったのだった。



沙慈を救った謎の人物は、アロウズの調査をしていた刹那・F・セイエイだった。さらにガンダムエクシアリペアを起動させた刹那は、アロウズのMS（アヘッド）と交戦するが……。

トマトンを投入し、無差別掃討作戦を実施する。無実の罪で囚われていた沙慈も犠牲になりかける。しかし刹那・F・セイエイの介入によって窮地を救われたのだった。



最新鋭機のアヘッドを相手に半壊状態のガンダムエクシアリペアでは敵うはずもなく、刹那は劣勢に立たされる。だがそこにティエリア・アーデのセラヴィーガンダムが現れ、圧倒的な火力でアヘッドを撤退に追いやった。

AD 2312

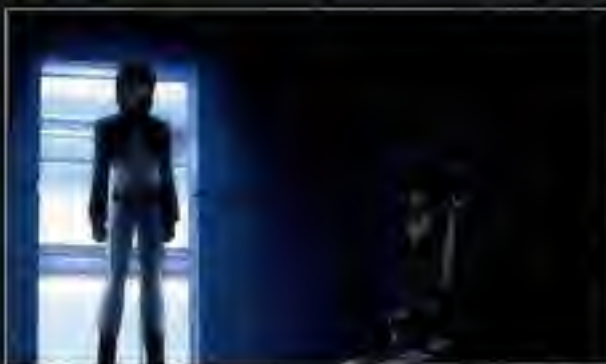
沙慈、刹那に銃を向ける

アロウズを撃退したティエリアと刹那は4年振りの再会を喜び合う。だがCBの振る舞いによって大切なものを奪われた沙慈が穏やかでいられるはずもなく、ついに怒りを



刹那から銃を奪った沙慈は、激情のままに銃口を刹那に向けて。だが「人を撃てばCBと同じになる」という考えから、引き鉄を引けなかった。

爆発させると刹那に銃口を向けた。それでも引き鉄を引くことはできず、ブトレマイオス2に収容された沙慈は自らの不甲斐なさや運命のいたずらに塞ぎ込んでしまう……。



この事件以降、刹那はCBへの復讐を果たす。一方、行き場を失った沙慈はブトレマイオス2の独房に入れられることになった。

AD 2312

カタロン、コロニー・ブラウドに拘束された仲間の救出作戦を実施。

アロウズ、カタロンの作戦を察知。対抗策としてMS部隊をコロニー・ブラウドに派遣。

沙慈、アロウズに拘束。高重力工業区画に送られる。

カタロン、アロウズ部隊と交戦。

アロウズ、コロニー・ブラウド内にオートマトンを投入。

沙慈、オートマトンに襲われるが、刹那に救出される。

刹那、ガンダムエクシアリペアでアロウズ部隊と交戦。

ティエリア、刹那の援護に駆け付ける。

刹那、ブトレマイオス2と合流。

沙慈、刹那に銃を向けるが、引き鉄を引けずに終わる。

MORE INFO!

西暦2312年の世界

CBとの最終決戦から4年が経過した西暦2312年。それまで三大勢力による利権争いに明け暮れていた世界は、新たに結成された地球連邦政府を中心とする統一体を形成した。これはある意味でCBの成果であり、人類の意思統一機関である連邦政府の出現は、紛争根絶のための新たなステージであると言っても過言ではなかっただろう。しかし実際には連邦政府の政策は理想通りには進まず、統一に名を借りての主義・思想の弾圧行為が横行する有様だった。つまり2312年の世界は異分子弾圧から成る平和の上に成り立った虚構であり、世界の歪みはなおも存在し続けていたのである。



平和を満喫しているように見える地球連邦政府だが、実際には反連邦国家や組織との紛争が継続していた。

大多数の人々は政府の公式発表を鵜呑みにし、平和の陰で行われている苛烈な戦闘のことは目もくれなかった。



NEXT PAGE

AD 2312

刹那、CBメンバーを訪れる

新たな作戦行動を急ぐCBだが、新型MS ダブルオーガンダムの始動テストに手間取っていた。2基のGNドライブを同調させる「ツインドライブシステム」が不安定で、起動に至らなかったのだ。一方、ひとり別行動を取る刹那は地



刹那から事情を聞かされたライルは亡き兄の遺志を継ぐことを決意。新たに「ロックオン・ストラトス」としてCB参加を表明した。

最終決戦の悪夢から逃れるために自暴自棄な生活を送っていたスメラギも、刹那に背中を押される形でブトレマイオス2に合流する。



球各地を訪問。まずは4年前の決戦で命を落としたロックオン・ストラトスの双子の弟（ライル・ディランディ）を、さらにCBから身を引いた戦術予報士スメラギ・李・ノリエガを訪ね、ふたりにCBへの参加を促したのだった。



同じ頃、刹那のいないブトレマイオス2では、ラッセ・アイオンたちが沙慈の説得に当たっていた。最初は拒絶していた沙慈だったが……。

ミレイナ・ヴァスティの残した情報端末（ハロ）から4年前の事件の真相を引き出し、次第に考えを改めていくようになる。



AD 2312

アロウズ、戦力拡大を図る

CB復活の予兆を感じ取ったアロウズ司令官ホーマー・カタギリは、新たな戦いに備えて組織の拡充を実施。旧人革連が生み出した超兵であるソーマ・ピーリスや、AEU出身の戦術予報士カティ・マネキンを招集すると共に、リ



アロウズの強硬な弾圧政策を疑問視するカティだが、組織の内部から真相を探るために、敢えてアロウズへの入隊を承諾している。

戦力が増強されたアロウズには多種多様な人材が集まったが、その中には「ミスター・ブシドー」と名乗る仮面の男の姿もあった。



ボンズ・アルマークから得た情報を基にブトレマイオス2の位置を特定し、CB討伐に乗り出した。対するブトレマイオス2にはティエリアのヴァーチェルが待機しておらず、このままでは4年前の惨劇が繰り返されると思われたが……。



ブトレマイオス2に急ぐ刹那は、アロウズ部隊の接近を感知。するとスメラギが戦術予報士としての手腕を発揮し、対抗策を告げた。

スメラギからの連絡を受けたブトレマイオス2はGNミサイルを斉射。さらにセラヴィーのGNキャノンでアロウズ部隊の接近を抑え、刹那たちが帰艦するまでの時間を稼いだ。



AD 2312

ダブルオーガンダム、ツインドライブシステムの始動成功

ブトレマイオス2に帰艦した刹那はダブルオーガンダムでの出撃を試みる。しかしツインドライブシステムの始動は依然難航しており、このままでは満足に動くこともできない。すると刹那は「トランザム」の発動を決意した。機体



一足早くブトレマイオス2に到着した刹那の前に、新たな機体が姿を現した。それが刹那の新たな機体、ダブルオーガンダムだった。

ただちに機体を発進させようとする刹那をイアン・ヴァスティが制止した。ダブルオーガンダムのツインドライブシステムは未だ始動していなかったのだ。



やむなく刹那はトランザムを発動させ、ツインドライブシステムの始動を促した。たちまち赤く発光する機体。それでもシステムは始動しようとしなかった……。

出力を一時的に増大させるトランザムによって、ツインドライブシステムを強制的に始動させようというのだ。これは、失敗すれば機体が爆発しかねないという危険な賭けだったが、刹那の強い意思がシステムの起動を促した。



アロウズ部隊の攻撃がブトレマイオス2に放たれる直前、ついにツインドライブシステムが始動。その直後、艦から発進したダブルオーガンダムは、圧倒的な機動力を発揮してアロウズ部隊を一掃している。



AD 2312

イアン、ダブルオーガンダムのツインドライブシステム始動を急がせる。

刹那、地球に移動。ライルとスメラギを訪ね、CBへの参加を促す。

ライルとスメラギ、刹那と共にブトレマイオス2に向かう。

アロウズ、CBの復活に対抗するため、戦力拡大を図る。

イノベイドのリボンズ・アルマークからブトレマイオス2の現在位置がもたらされる。

アロウズ部隊、ブトレマイオス2攻撃のために発進。

スメラギ、ブトレマイオス2にアロウズへの対抗策を伝達。

刹那、ブトレマイオス2に帰艦。ダブルオーガンダムに搭乗する。

刹那、トランザムを発動。ツインドライブシステムが始動する。

ダブルオーガンダム、始動。アロウズ部隊を撤退に追いやる。

MORE INFO!

独立治安維持部隊アロウズ

地球連邦軍とは別に組織された独立治安維持部隊アロウズ（a-laws）とは、「恒久平和の実現」を目的とする政府直轄部隊である。そのため部隊に与えられた権限は極めて大きく、反連邦勢力と見なした対象を自らの判断で攻撃・制圧することも許されている。そのため部隊成立から数年で数万人にも及ぶ反連邦主義者やその容疑者を抹殺しており、CBからは「鎮圧という名の虐殺」と非難されるほどである。だがこれらは表向きの姿に過ぎず、アロウズの実態は「人類の統合」のためにイノベイド勢力が陰から組織したもので、いくつもの虐殺事件が露呈しないのはヴェーダによる完璧な情報操作が為されているため。さらに情報操作はアロウズ内部でも徹底されており、特にイノベイドの存在を知らされている者はごく少数に限られている。つまりアロウズはイノベイドの野望を満たすための道具であり、イノベイドは自ら表舞台に出ることなく、人類の統合を図る手筈になっていたのだ。



アロウズが保有する機体は、連邦軍機と区別するために、機体色が青系統から赤系統に一新されている。

アロウズ司令のホーマー・カタギリはイノベイドを利用していただけだったが、真相は真逆だった。



ハサン

HASAN

エウゴに賛同する軍医で、グリプス戦役ではアーガマに乘艦している。傷病兵の治療だけでなく、生物学的な研究者としての一面を発揮し、ロザミア・バダム（ロザミィ）が強化人間であるかどうかの検査を行った。一方、戦闘中にはシンタとクムのお守りをすることもあり、さまざまな場面ではアーガマにとってはなくてはならない人材である。



【ハサン】「久しぶりに健康診断してやろう」というハサン（右）に困り顔のエマ・シーン（左）。ハサンに他意はないものの、うら若き女性にとって男性医師はつきあいにくいということまで気が回らなかったようだ。

バスク・オム

BASK OM

ティターンズの指揮官。アースノイドこそ至上とするエリート意識に取り憑かれており、スペースノイド排斥のためにはあらゆる手段が正当化されると考え、「30パンチ事件」では集会の鎮圧に名を借りたコロニー住民の虐殺を指示。これが直接的な要因となってエウゴとの武力衝突が勃発した。だがバスクはスペースノイドの権益を優先するエウゴも排除すべき敵と見なし、全面的な武力衝突にささかためらいを見せなかった。のちにグリプス戦役と呼ばれたこの戦乱は、公国軍残党組織「アクシズ」や木星帰りの男パプテマス・シロッコを巻き込んだ高度な政治劇の側面を見せるに至ったのだが、バスクはあくまで武力制圧を狙っていたようである。それは彼が生粋の軍人であることの証明であり、政治的な側面をまったく有さないことを示すものでもあった。そして政治面の疎さがバスクの命運を分けることとなった。水面上で暗躍するシロッコやハマーン・カーンの真意を見抜けず、気が付いた時には彼らの影響力は無視できないほど巨大になっていたのである。そしてグリプス戦役終盤、戦局の巻き返しを図るためにニュータイプ部隊を編制したバスクは、サイコ・ガンダムMk-IIの運用試験を行っていたのだが、友軍からの攻撃を受けて死亡した。一時は一軍を動かすほどの権力を有した男としては、それはあまりに呆気ない最期だった。



【バスク・オム】ティターンズ総帥に就任したジャミトフ・ハイマンの副官として、軍事面を一手に引き受けたバスク。だがシロッコの暗躍によって組織内に綻びが生じてしまう。そんなシロッコをバスクは毛嫌いしていたのだが、彼の台頭を最後まで阻めなかったようだ。

【パプテマス・シロッコ】自らは率先して戦おうとはせず、背後から人を操ることで地球圏を混乱に陥れたシロッコ。自らを「天才」と呼んではばからず、一握りの天才によって人々は統治されるべきだと考えていた。優秀な人材が高みを目指すのは当然だが、彼がどこで道を誤ったのかは不明である。ひとつだけ言えるのは、優秀過ぎる才能を持つシロッコを止められる人材が彼の周囲にはおらず、それが彼の増長を許したのではないかということである。



バスクの副官

BASK'S ADJUTANT

ドゴス・ギアに着任したバスク・オムの補佐を担当すべく配属されたティターンズ士官。コロニー・レーザーの調整からニュータイプ部隊の配備まで、上官の手足となって働いていたようである。しかしサイコ・ガンダムMk-IIの運用試験中にドゴス・ギアは友軍から攻撃を受けてしまい、彼も艦と運命を共にしたようである。



【バスクの副官】バスクの副官としてよく知られるのはジャマイカン・ダニングンだが、その死後に配属された新たな副官（左）が彼である。とはいえ前任者がかなりあくの強い人物だっただけに、印象は薄い。

バッハ

BACH

アレキサンドリアの操舵手と航法士を務めるティターンズ士官。アレキサンドリアの艦長はガディ・キンゼーだが、ジャマイカン・ダニングン着任後は彼に従うように命じられていた。何かと口うるさいジャマイカンには閉口したと思われるが、文句のひとつも言わずに任務を遂行したようである。ただしジャマイカンがヤザン・ゲブルに謀殺されてからはガディの部下に復帰し、グリプス戦役を戦い抜いた。だが最終決戦でコロニー・レーザーの直撃を受けたアレキサンドリアは消失し、バッハも命を落としている。



【バッハ】カミーユ・ビダンの母親を人質にしたバスク・オムの作戦に関与するバッハ（右上）たち。だが作戦内容が非道なものと知っても、彼らが異議を唱えることはなかった。彼らもティターンズの体質に染まっていたということか。

【ハマーン・カーン】他人を見下したような態度を取るのには、若くして組織の長に選ばれたハマーンが身に付けた処世術なのであろう。そのため胸の内に秘めた想いを知られることに激しい嫉妬感を示し、カミーユ・ビダンと精神的な交感を果たした時には相手を「俗物」と呼び、目の前から消し去ろうとまでしている。



パプテマス・シロッコ

PAPTIMUS SCIROCCO

U.C.0087に勃発したグリプス戦役の陰で暗躍し、地球圏の支配を企んだ男。木星船団のキャプテンとしてジュピトリス級H3輸送艦を指揮していたシロッコは、持ち前のカリスマ性を発揮してティターンズに接近。ジャミトフ・ハイマンと血判状の盟約を結び、彼との協力を誓った。だがそれはシロッコ流のポーズであり、ティターンズに与すると見せつつも、その裏で静かに影響力を伸ばしていく。そしてエウゴの台頭とアクシズの出現によってジャミトフの影響力が弱体化したと見るや、彼を暗殺し、組織を手中に収めた。地球圏の腐敗は男性の粗野な感覚に起因していると考えたシロッコは、女性を中心とした支配体制の確立を目指していたとされる。そのためか自らの周囲に女性士官やパイロットをはべらせ、彼女たちを手足のように使っていた（ただし当の女性たちはシロッコの真意に気づかず、彼に盲目的な忠誠を誓っていた）。しかしカミーユ・ビダンやクワトロ・バジーナといった一部のニュータイプはシロッコの悪意を感じ取っており、その排除を試みた。そしてコロニー・レーザーを巡る三つ巴の攻防戦においてカミーユと対峙したシロッコは、相手の力に屈し、野望半ばにして果てたのだ。主な搭乗機はジ・0。

ハマーン・カーン

HAMAN KARN

小惑星基地アクシズに逃げ延びたジオン公国軍残党を率いる才女。類稀なるカリスマ性と冷静な判断力の持ち主で、弱冠16歳でアクシズ摂政の地位に就くや、地球圏への帰還を標榜。アクシズを高度な軍事組織として再編すると共に、MSや宇宙戦艦の開発にも着手し、エウゴやティターンズに匹敵するまでに力をつけた。そしてグリプス戦役の最中に地球圏に帰還すると、第三勢力として戦に加わったのである。その際、ハマーンはザビ家の血統に連なる少女——ミネバ・ラオ・ザビを擁し、ザビ家の復興を目論んだ。そして数々の権謀術数を駆使してエウゴとティターンズを手玉に取り、最終決戦で両者が弱体化したところを見計らって、ジオン復興の基盤を作り上げたのである。ちなみにクワトロ・バジーナ（シャア・アズナブル）とはアクシズ時代に親密な関係にあり、ハマーンは彼を慕っていたという。だが地球圏に派遣したクワトロがエウゴに与し、自分とは別の道を歩むようになると、相容れぬ存在として排除しようとした。だが、心底では最後までクワトロに戻ってきて欲しかったようである。主な搭乗機はキュベレイ。

ハミル

HAMIL

ドゴス・ギアに所属するティターンズ中尉。コロニー・レーザーの攻略を狙うアーガマを迎撃すべく、レコア・ロンドと共に出撃した。対戦相手がかつての仲間であることを気にして萎縮するレコアを叱責する姿が記録されているが、その直後、リック・ディアスからの一撃を受けて戦死している。主な搭乗機はバーザム。



【ハミル】グリプス戦役後半のドゴス・ギアはパプテマス・シロッコからバスク・オムに返還されており、ハミルはバスク寄りのティターンズ兵だったと思われる。しかしハミルは戦死してしまったため、詳しい情報は判然としていない。

ハヤイ

HAYAY

アーガマ隊に所属するエウゴのスタッフ。ティターンズから亡命してきたエマ・シーンの監視をブレックス・フォーラに任せ、彼女の部屋をモニターした。レコア・ロンドがエマを訪問した際のふたりの会話も監視しており、彼の報告からエマがスパイでないことが判明した。



【ハヤイ】ハヤイ（左下）たちがモニターしているとも知らずに、エウゴへの批判を口にするエマ。だがその率直な物言いをブレックスが気に入り、彼女を同志として迎え入れることになった。

ハヤト・コバヤシ

HAYATO KOBAYASHI

一年戦争後、ニュータイプ部隊として危険視されたホワイトベース隊の面々は地球連邦軍の監視下に置かれ、ハヤトもケネディ宇宙港に併設された戦争博物館館長という閑職に回されてしまった。しかしティターンズの台頭を危惧したハヤトは、館長職を全うする素振りを見せつつ、その裏で反地球連邦組織「カラバ」の活動に参加。ジャブロー侵攻作戦を遂行したエウゴのMS隊のサポートを引き受けると、超巨大輸送機アウドムラのキャプテンとして地球各地を転戦した。主な搭乗機はアウドムラ。



【ハヤト・コバヤシ】かつてのMSパイロットが組織のリーダーとしての責務を有するまでに成長。ケネディ宇宙港を中心とする情報ネットワークを形成し、ティターンズと連邦軍の動向を注視していた。その手腕には、アムロ・レイやクワトロ・バジーナ（シャア・アズナブル）も感心したということだ。

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ



【バリュート・パック】左はバリュート展開前、右は展開後の百式。こうして見るとバリュート展開前後における装備形状の変化がよくわかるだろう。ちなみに大気圏突入後はエア・バッグは速やかに除去されるので、機体の動きを邪魔することはない。



パラス・アテネ

PALACE-ATHENE

バブテマス・シロッコが設計したPMX系MSの1機。火力に特化した機体であり、メガ・ビーム砲や拡散ビーム砲といった固定武装の他に2連ビーム砲やミサイル内蔵シールドなどの携行兵装を装備。さらに対艦大型ミサイルも搭載できるだけの拡張性を有している。そのため全高は27mを超えるが、背部に設置したバーニア・スタビライザーの機能によって機動性の低下を補っている。これほどまでに火力に特化した本機は他のPMX系MSとの連携を考慮したものであり、索敵役のポリノーク・サマーンや格闘戦主体のジ・Oと連携することで、機体性能を最大限に発揮できるようになっている。だが実際には単機で出撃することが多く、運用コンセプトが十分に活かされることはなかった。とはいえ単機でも至近距離からの一撃でドゴス・ギアを撃沈に追い込んでいる。主な搭乗者はレコア・ロンド。



【パラス・アテネ】全身に大火力兵器を搭載し、対艦・対要塞戦で優れた能力を発揮したパラス・アテネ。対MS戦用にはビーム・サーベルと脚部クローが用意されていたが、巨体が災いしてか、格闘戦はあまり得意ではなかったようだ。

ハリオ

HARIO

グリプス戦役時に地球連邦軍が建造した宇宙重巡洋艦。アレキサンドリア級に属するが、ブリッジの形状が異なるのが特徴である。地球連邦軍の主力艦であるサラミス級やマゼラン級とは異なり、艦体各部が独立したブロック構造になっている。これは、被弾時にほかのブロックに被害が拡大するのを防ぐための構造であり、ジオン公国軍系の技術転用を窺わせるものである。



【ハリオ】グリプス戦役の最終決戦で、重傷を負ったエマ・シーンをカミーユ・ビダンが避難させたのがハリオだと言われる。この時のハリオは直前の戦闘で大破し、乗員は退艦した後だった。さらにこの後、コロニー・レーザーの照射を受けたハリオは跡形もなく消し飛んでいる。

バリュート・パック

BALLUTE PACK

MSや宇宙艦艇が大気圏に突入する際に用いられる耐熱装備。グラスファイバーなどの繊維で造られたエア・バッグをMSや艦艇の周囲に展開することで、大気圏突入時の空力加熱から機体を保護するというものである。また展開前はコンパクトに折り畳まれて、MSの背部（艦艇ならメイン・スラスター周辺）に搭載されるので、機体の運用に支障を来すことはない。その反面、展開時には機体の機動性を著しく削ぐことになり、敵からの格好の標的にされる危険性があった。この問題点を克服したのがフライング・アーマーである。とはいえ安価で使い勝手の良いバリュート・パックが廃れることはなく、ビーム・シールドの普及までは、大気圏突入時の必需品としてさまざまな組織に用いられた。

バルキリー

VALKYRIE

旧世紀に建造された有人戦略爆撃機。B-52に次ぐ次期戦略爆撃機計画の一環として開発された機体は、全長56.39m、全幅32m。デルタ翼とカナードを装備し、最高速度マッハ3という超音速爆撃機であり、米ソの冷戦時代を象徴する機体になった。しかし大陸間弾道弾(ICBM)の出現によって超音速爆撃機の配備は見直され、実際には2機が試作されるに留まっている。U.C.0087のケネディ戦争博物館に展示されている機体は、当時の設計を極限まで再現したレプリカである。レプリカとはいえ細部まで忠実に建造されており、ハヤト・コバヤシはこの機体を操って、ケネディ宇宙港を目指すアウドムラを先導している。



【バルキリー】はっきりとしたフォルムと純白の機体色がマッチし、発表当時は「航空機史上もっとも美しい機体のひとつ」と賛美された。それはレプリカにおいても同様だが、ケネディ宇宙港を襲撃したプラン・ブルタークによって破壊されてしまう。

【反地球連邦活動】民間レベルでの反地球連邦活動が最も活発化したのはU.C.0085前後であろう。人類は地球環境の復活に手を貸すべきではなく、地球に残る人々はただちに宇宙に移住すべきだと主張するスペースノイドに対し、連邦側は激しく反発。ついには反地球連邦集会に参加した人々をティターンズが虐殺する事件(30万バチ事件)が勃発するに及び、地球連邦とスペースノイドの対立は修復不可能な状況にまで発展してしまったのである。



ハロII

HORO II

一年戦争の英雄であるアムロ・レイがハロを所有していた事実はハロの人気を再燃させることにつながり、製作元のSUN社はアムロ・レイ・モデルを逆ライセンスすることで新たなハロを生み出した。それが「ハロII」と呼ばれるタイプである。外見上の違いはさほど見られないが、「II」に相当するラインが開閉し、内部にモバイルPCやボイスノートを設置できるようになっている。またアムロ・モデルにあったマニピュレーターはなくなったが、代わりに回転や跳躍能力を加えることで移動能力の向上を図っている。月面都市アンマン近くのジャンク・ヤードでカミーユ・ビダンが発見したのも「ハロII」であり、カミーユの手で修理が施されたのちは、アーガマのマスコットとして可愛がられたようである。

反地球連邦活動

宇宙移民とそれに続くスペースノイドの歴史は、反地球連邦活動の歴史とおおよそ部分で重ね合わせることができる。環境汚染の進行を食い止めるべく宇宙移民政策を実施した連邦政府だが、その手法は半ば強制的なものであり、土地や財産を奪われたうえに宇宙に追いやられた人々の不満が募るのは当然だった。しかも連邦政府は移民政策を途中で打ち切り、連邦関係者と一部の特権階級のみで地球を独占してしまったのである。さらに宇宙移民者(スペースノイド)の自治独立を認めず、地球からスペースノイドを支配するに及んだため各スペース・コロニーからは不満の声が続出。自治独立を求める運動が勃発したのである(その最たるものが、ジオン公国が引き起こしたジオン独立戦争＝一年戦争だと言ってもいいだろう)。一年戦争終結後も連邦政府は態度を改めようとせず、そればかりかスペースノイドの中から誕生したニュータイプがいずれ地球圏を脅かすとの妄想に取り憑かれ、スペースノイド弾圧を強めることとなった。この時流に乗って誕生した連邦軍エリート部隊のティターンズはスペースノイド弾圧の先陣を切ったものの、反地球連邦感情を抑圧するには至らず、最後には連邦軍内で内乱を勃発させる事態(グリプス戦役)ともなっている。その後、連邦政府の威光は地に落ち、地球環境と人類に良かれと連邦政府によって行われた移民政策は、長期間に亘って地球圏に混乱を引き起こすこととなった。しかし地球の環境は未だに癒えておらず、もし移民政策が実施されていなければ、地球が人類居住不可能な星に成り果てていたこともまた事実である。

バンデンバーク

VANDENBERG

北米大陸カリフォルニア州に位置するアメリカ空軍基地。旧世紀ではフロリダ州のケープカナベラル空軍基地に次ぐロケット打ち上げ場であり、シャトルの離発着場として運用された。宇宙世紀に移行してからは地球連邦軍の管轄下に入ったが、グリプス戦役の頃にはカラバの活動拠点のひとつとなり、北米大陸に移動したアウドムラ隊をサポートする手筈となっていた。



【バンデンバーク】ティターンズに追われるハヤト・コバヤシらカラバのメンバーはアウドムラでケネディ基地を離脱。ヒッコリーに道路を取り、そこからカミーユ・ビダンたちを宇宙に上げる算段を取ったが、それが阻止された場合、バンデンバークの同志に連絡をつける予定だったようだ。

ハンブラビ

HAMBRABI

グリプス戦役時に地球連邦軍が開発したTMS(可変MS)。既存のMSとは一線を画する独特なシルエットを有しているのは、基本設計にバブテマス・シロッコのアイディアが加味されているためとも言われる。シンプルな可変機構を採用したのはMS形態とMA形態での性能差を縮めるためで、MA形態でも格闘戦が可能。一方、MS形態でも優れた機動性を発揮するなど、極めて運用性の高い機体である。武装としてはビーム・ライフルやフェダーイン・ライフルといったスタンダードな兵装のほか、「海ヘビ」や「クモの巣」と呼ばれる電磁ワイヤーを装備。これは破壊力が低いものの、標的を絡め取ったのちに電子機器やパイロット自体にダメージを与え、機能停止に陥らせるというものである。そのような特殊な機体能力と兵装を駆使するハンブラビは、グリプス戦役中盤～後半戦の戦場に投入され、運用期間が短いながらも多大な戦果を挙げた。主な搭乗者はヤザン・ゲーブル、ラムサス・ハサ、ダンケル・クーバー。



【ハンブラビ】脚部を折り畳んで背部に乗せただけのMA形態は、海洋生物のエイのような印象を受ける特異な姿である。さらに全身5ヶ所にモノアイを搭載し、優れた索敵能力を活かした高速格闘戦を得意とした。

MS・キャラクター・ヒストリー —— 全ガンダムシリーズの完全記録

THE OFFICIAL
GUNDAM
PERFECT FILE

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

定価 590円 (税込)
2012/7/31

43

ギラ・ズール
『袖付き』のMS①
マゼラン
サラミス
カオスガンダム
プロトセイバーガンダム

オリジナルプロファイル
ガンシェール隊員
ルナツーの地球連邦軍士官
アスラン・ザラ
スティング・オークレー&
アウル・ニーダ

ワールドガイド
パラオ攻略戦
ヘブンスベース攻略作戦「ラグナロク」
ルナツー

U.C.TIMELINE
フル・フロンタルとの接見

GLOSSARY
『機動戦士Zガンダム』用語集

GUNDAM TOPICS
相模屋食料 MS-06 ザクとうふ

今週のMS①
AMS-129 GEARA-ZULU

DeAGOSTINI deagostini.jp

お買い忘れなく安心! 発売日をメールでお知らせします!

発売日お知らせメール

PC用 <http://deagostini.jp/oshirase/gpf/>

携帯用 <http://deagostini.jp/gpf/> 携帯用QRコード

ご登録ください



COMING NEXT ISSUE..

《次号予告》

LINE UP

第43号 ラインナップ

MECHANIC FILE

メカニックファイル

ギラ・ズール
『袖付き』のMS① (ガザC 他)
マゼラン/サラミス
カオスガンダム
プロトセイバーガンダム

PERSONAL PROFILE

パーソナルプロフィール

ガンシェール隊員 (ギルボア・サント 他)
ルナツーの地球連邦軍士官 (ワッケイン 他)
アスラン・ザラ
スティング・オークレー&アウル・ニーダ

WORLD GUIDE

ワールドガイド

パラオ攻略戦
ヘブンスベース攻略作戦「ラグナロク」
ルナツー

U.C.TIMELINE

宇宙世紀年表

フル・フロンタルとの接見

GLOSSARY

ガンダム用語辞典

『機動戦士Zガンダム』用語集

GUNDAM TOPICS

ガンダムトピックス

相模屋食料 MS-06 ザクとうふ

第**43**号

定価 590円 (税込)

7月17日(火) 発売

※地域によって発売日が異なる場合があります。



アスラン・ザラ



プロトセイバーガンダム

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』特製リングバインダーの利用方法



1 週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』を各ページごとに、ていねいに切り離します。



2 ディバイダーを使って6つの章に分類し、各ページをファイルナンバーにしたがってファイリングします。



3 毎号同じようにして、全ての章をファイリングしていきましょう。



4 全号集めると、ガンダムのことがすべてわかる、ビジュアル大百科になります。

切り離した表紙を大切に保管できる、
表紙用ポケットファイル発売中!!

当社通販にて発売中!



デザインは3種類。
詳しくは、デアゴスティーニセレクト通販
サイトをご覧ください。

<http://deagostini.jp/select/>

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』全員プレゼントの応募券です。切り取って専用応募ハガキに貼り付けて、ご応募下さい。詳しくは定期購読用のお知らせ用紙をご覧ください。

THE OFFICIAL GUNDAM PERFECT FILE

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

42

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

No.42

MECHANIC FILE

ガンダムキュリオス
ブトレマイオス
アルヴァトーレ
ベルガ・ダラス
デナン・タイプMS
マニピュレーション装着型ザクⅡ

PERSONAL PROFILE

アレルヤ・ハプティズム
アレハンドロ・コーナー
セシリー・フェアチャイルド
(ベラ・ロナ)
ロナ家の人々

WORLD GUIDE

CBの活動と世界の動向
GN粒子とGNドライブ
ブッホ・コンツェルンと
ロナ家

AD TIMELINE

CB、再降臨

GLOSSARY

『機動戦士Zガンダム』
用語集



アレルヤ・ハプティズム

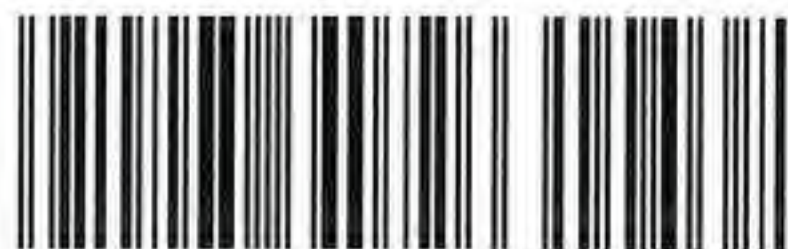


ブッホ・コンツェルンとロナ家

今週のMS①
GN-003 GUNDAM KYRIOS

©創通・サンライズ
©創通・サンライズ・MBS

2012年7月24日発行(毎週火曜日発行) 通巻42号 発行人: 小川原和世 編集人: クロス中山慶子
発行所: 〒104-6205 東京都中央区晴海1-8-12 トリントフォレストタワーZ 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
書店専用注文センター TEL: 03-5212-5311 (月~金9:30~17:30土日祝日を除く) FAX: 03-5212-5312 書店専用注文WEBサイト: <http://dbooks.net/>



4910205640726
00562

雑誌 20564-7/24 通巻 42号
L-2017/3/1 2012年7月24日発行

発行所—デアゴスティーニ 定価 590円
本体 562円